

Novell ZENworks® for Desktops

4.0.1

www.novell.com

DEFRAME™ インストールおよび管理ガイド

2003 年 4 月 14 日



Novell®

法的通知

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書を使用した結果について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、本書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、Novell 製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

米国輸出規制または当該国の法律を含む（これに限られません）該当する法律や規制に違反して、この製品を輸出または再輸出することはできません。

Copyright © 2003 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を無断で複写・転載することは、その形態を問わず禁じます。

Novell, Inc.
1800 South Novell Place
Provo, UT 84606
U. S. A.

www.novell.com

ZENworks for Desktops 4.0.1 DeFrame インストールおよび管理ガイド

2003 年 4 月 14 日

オンラインドキュメント： この製品およびその他の Novell 製品のオンラインドキュメントやアップデート版を入手するには、www.novell.com/documentation を参照してください。

Novell の商標

ApprovalFlow は、米国 Novell, Inc. の商標です。

ConsoleOne は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

DeFrame は、米国 Novell, Inc. の商標です。

DirXML は、米国 Novell Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

eDirectory は、米国 Novell, Inc. の商標です。

iChain は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

NDPS は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

NDS は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

NetWare は、米国 Novell Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Novell は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Novell Application Launcher は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Novell Client は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Novell Distributed Print Services は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Novell iFolder は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

ZENworks は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

ZENworks OnDemand Services は、米国 Novell, Inc. の商標です。

サードパーティの商標

すべてのサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。

目次

このガイドについて	7
パート I はじめに	
1 ZENworks for Desktops DeFrame について	11
パート II インストール	
2 インストール	15
ソフトウェア要件の確認	15
ターミナルサーバの要件	15
クライアントワークステーションの要件	16
ディレクトリサービスの要件	17
Novell iFolder の要件 (オプション)	17
DeFrame Software のインストール	18
DeFrame の有効化	18
ターミナルサーバのセットアップ	19
ダイナミックローカルユーザアカウントと Roaming プロファイルの設定	25
DeFrame ユーザとしてユーザを有効化する	32
ユーザワークステーションのセットアップ	34
これ以降の作業	36
パート III アップグレード	
3 ZfD DeFrame の新機能	39
4 DeFrame 2.01 から ZfD 4.01 DeFrame へのアップグレード	41
アップグレードの順序	41
ソフトウェア要件	42
ターミナルサーバの要件	43
クライアントワークステーションの要件	43
ディレクトリサービスの要件	44
Novell iFolder の要件 (オプション)	44
ワークステーションのアップグレード	45
Novell Application Launcher を使用してワークステーションソフトウェアをインストールする	45
OnDemand Services Launch Item ガジェットを使用してワークステーションソフトウェアをインストールする	47
ワークステーションソフトウェアの手動インストール	47
ターミナルサーバのアップグレード	47
ターミナルサーバユーザアカウントの設定	47
DeFrame eDirectory スキーマおよびオブジェクトのアップグレード	55
ターミナルサーバソフトウェアの更新	56
パート IV 管理	
5 DeFrame ユーザとしてユーザを有効化する	65
ConsoleOne を使用してユーザを有効化する	65
DeFrame%OnDemand User Configuration ユーティリティを使用してユーザを有効化する	66

6	ターミナルサーバユーザアカウントの管理	69
	Workstation Manager のセットアップ	69
	コンテキストレスログインの有効化	69
	ユーザポリシーパッケージの作成	71
	ダイナミックローカルユーザアカウントの設定	73
	Roaming ユーザプロファイルの設定	74
	ユーザパッケージとユーザの関連付け	76
7	シンクライアントアプリケーションの配布	77
	Novell eDirectory でのアプリケーションオブジェクトの作成	77
	手動によるアプリケーションオブジェクトの作成	77
	DeFrame Published Application Synchronization	
	ユーティリティを使用してアプリケーションオブジェクトを作成する	78
	アプリケーションの設定	79
	ICA クライアントの設定	81
	使用状況追跡機能の有効化	83
	Novell Application Launcher を使用してアプリケーションを配布する	84
	ZENworks Web Self-Service を使用してアプリケーションを配布する	84
8	負荷分散の設定	85
	負荷分散のしくみ	85
	Watchdog の作成	86
	サーバの負荷計算の重みを調整する	87
	サーバ負荷計算	89
	ZENTCAS サービスの負荷分散機能設定の変更	90
9	切断されたセッションの管理	91
	切断されたセッションを追跡する機能のしくみ	91
	切断されたセッションを追跡する ZENTCAS サービスの機能の設定を変更する	92
10	ZENTCAS サービスのログ機能の制御	93
11	Novell iFolder によるファイル保存のセットアップ	95
	Novell NetDrive クライアントのインストール	95
	DeFrame iFolder サーバオブジェクトの作成	95
	ユーザへの iFolder サーバの割り当て	97
	iFolder サーバにログインするために必要な情報をユーザに提供する	98
12	Citrix Secure Gateway によるアプリケーションアクセスのセットアップ	99
	Terminal Server のパブリックアドレスの設定	99
	Citrix Secure Gateway を使用するようにアプリケーションを設定する	100
13	ファイアウォールを経由するアプリケーションアクセスのセットアップ	103
	ファイアウォールのポートを開く	103
	ネットワークアドレス変換の設定	103
	eDirectory でターミナルサーバのパブリックアドレスを定義する	104
	パブリックアプリケーションとしてアプリケーションを定義する	105
14	ターミナルサーバからの DeFrame の削除	107
	DeFrame ファイルのアンインストール	107
	DeFrame サーバオブジェクトの削除	107
パート V 付録		
A	ZENTCAS サービスの設定項目	111

このガイドについて

このガイドでは、Novell® DeFrame™ をできるかぎり素早く簡単にセットアップする方法について説明しています。このガイドは、DeFrame をインストールおよび管理するネットワーク管理者を対象としており、次のセクションに分かれています。

- ◆ 9 ページの「はじめに」
- ◆ 13 ページの「インストール」
- ◆ 37 ページの「アップグレード」
- ◆ 63 ページの「管理」

ドキュメントの更新

DeFrame 2.01 の『インストールおよび管理ガイド』の最新版については、ZENworks for Desktops 4 Documentation Web サイト (<http://www.novell.com/documentation/japanese/zdpr>) にある DeFrame のマニュアルを参照してください。

表記規則

Novell のマニュアルでは、大なり記号 (>) を使用して手順内の操作、および相互参照パス内の項目を区切ります。

商標記号 (™、® など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (*) は、サードパーティの商標を示します。

ご意見の宛先

本マニュアルおよび ZENworks OnDemand Services に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。ご意見やご要望は、proddoc@novell.com 宛てに電子メールでお送りください。



はじめに

11 ページの第 1 章「ZENworks for Desktops DeFrame について」

1

ZENworks for Desktops DeFrame について

DeFrame™ は、Novell® ZENworks® for Desktops (ZfD) のコンポーネントであり、Novell Application Launcher™ にシンクライアントアプリケーションを配布します。DeFrame は、*ZENworks for Desktops Program* CD または *ZENworks 6 Desktop Management Program* CD から ZfD 4.0.1 をインストールした場合に使用できます。ZfD 4 または ZfD 4 Support Pack 1 には DeFrame が含まれません。

DeFrame を使用しない場合は、従来の ZfD アプリケーション管理手法に従って、Novell Application Launcher からシンクライアントを配布できます (『*ZENworks for Desktops 4 管理ガイド*』の「**Application Management**」の「**ユーザまたはワークステーションへのアプリケーションの配布**」を参照)。

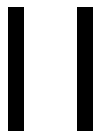
DeFrame を使用すると、シンクライアントアプリケーションを配布できるだけでなく、次の機能が提供されます。

- ◆ **ディレクトリベースの管理** : すべてのアプリケーション、ユーザ、およびターミナルサーバに関する情報は Novell eDirectory™ に格納され、Novell eDirectory で管理されます。eDirectory を使用すると、アプリケーション配布の設定および管理を素早く簡単に行うことができます。
- ◆ **サーバ負荷分散** : 負荷分散を行うと、ユーザが起動した DeFrame シンクライアントアプリケーションは負荷が最も小さいターミナルサーバで実行されるため、サーバのパフォーマンスが向上し、ユーザの負担が軽減されます。
- ◆ **切断されたセッションの追跡** : セッションの追跡機能を使用すると、必要に応じて、切断されたセッションを再有効化またはクリーンアップすることができます。
- ◆ **ダイナミックユーザ管理** : DeFrame に ZfD DLU (ダイナミックローカルユーザ) ポリシーを統合することによって、ターミナルサーバのユーザアカウント、ファイルシステム権利、およびユーザプロファイルを動的に管理できます。
- ◆ **Citrix MetaFrame のサポート** : DeFrame は、Citrix* MetaFrame* および Microsoft* Windows* ターミナルサーバをサポートします。
- ◆ **Citrix Published Application Manager** : DeFrame には、DeFrame Published Application Synchronization というユーティリティが含まれています。このユーティリティを使用すると、アプリケーション情報を Citrix Published Application Manager から eDirectory にインポートできます。
- ◆ **Novell iFolder の統合** : Novell iFolder® はシンプルで安全なストレージソリューションです。Novell iFolder を使用すると、ユーザはいつでもどこからでも個人用のファイルにアクセスし、ファイルを管理できます。ユーザがファイルをローカルで保存すると、ネットワークサーバ上のファイルが iFolder によって自動的に更新されます。

DeFrame に iFolder を統合すると、ユーザは、DeFrame シンクライアントアプリケーションで使用されたファイルを管理および保存することができます。ユーザのファイルはローカルではなくターミナルサーバに保存され、iFolder サーバと同期化されます。

- ◆ **ZENworks Web Self-Service の統合** : ZENworks Web Self-Service を使用すると、ユーザ自身がアプリケーションの使用を要求して使用許可を得たり、アプリケーションの使用状況を追跡したりできます。管理者がユーザにアプリケーションの使用許可を割り当てる以外に、ユーザがアプリケーションの使用許可を要求することができます。これらの要求は受諾または拒否されます。要求が受諾されると、ユーザはアプリケーションを使用できるようになります。複数のアプリケーションを 1 つにパッケージ化すると、アプリケーションの使用許可を 1 回要求するだけでそれらすべてのアプリケーションを使用できます。アプリケーションの使用状況を追跡することもできます。

Web Self-Service は、ZENworks 6 スイートに含まれています。詳細については、[ZENworks 6 のマニュアル](http://www.novell.com/documentation/japanese/zenworks6) (<http://www.novell.com/documentation/japanese/zenworks6>) を参照してください。



インストール

15 ページの第 2 章「インストール」

2 インストール

次の節では、Novell® ZENworks® for Desktops DeFrame™ を新しくインストールする方法について説明します。Novell DeFrame 2.01 (ZENworks OnDemand Services™ 2 に含まれるバージョン) からアップグレードする場合は、[37 ページの「アップグレード」](#)を参照してください。

- ◆ [15 ページの「ソフトウェア要件の確認」](#)
- ◆ [18 ページの「DeFrame Software のインストール」](#)

これらの作業を終了したら、シンクライアントアプリケーションの配布や、DeFrame に関連したその他の管理作業の実行について [36 ページの「これ以降の作業」](#)を参照してください。

注：このインストール情報は、『ZENworks for Desktops 4 インストールガイド』にも記載されています。

ソフトウェア要件の確認

DeFrame ソフトウェア要件については、次の節を参照してください。

- ◆ [15 ページの「ターミナルサーバの要件」](#)
- ◆ [16 ページの「クライアントワークステーションの要件」](#)
- ◆ [17 ページの「ディレクトリサービスの要件」](#)
- ◆ [17 ページの「Novell iFolder の要件 \(オプション\)」](#)

ターミナルサーバの要件

Windows ターミナルサーバの最低要件は次のとおりです。

ソフトウェア	最低要件
オペレーティングシステム	Service Pack 2 が適用された Windows 2000 Server (最新の Service Pack を推奨)。
Windows ターミナルサーバ	Windows 2000 Server オペレーティングシステムでサポートされているバージョン。
Novell Client	Novell Client 4.83 (またはそれ以降) for Windows NT/2000。

ソフトウェア	最低要件
ZENworks for Desktops Management Agent	<p>ZENworks for Desktops 4.0.1。</p> <p>すべての Management Agent コンポーネントをインストールできます。ただし、DeFrame をサポートするために必要なコンポーネントは、Application Management コンポーネントと Workstation Management コンポーネントだけです。Application Management コンポーネントと Workstation Management コンポーネントをインストールするには、ZfD Management Agent のインストールプログラムを使用します。ZfD Management Agent のインストールプログラムを実行すると、DeFrame ソフトウェアもインストールされます。</p>
Internet Explorer	<p>Service Pack 2 が適用された Internet Explorer 5.5（最新の Service Pack を推奨）。IE 5.5 は、DeFrame では必要ありませんが、ZfD Management Agent のインストールプログラムで必要になります。</p>
Citrix MetaFrame（オプション）	<p>Citrix MetaFrame を使用する場合は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> Service Pack 3 が適用された Citrix MetaFrame 1.8。最新の Service Pack およびホットフィックスを適用することをお勧めします。最新の Service Pack およびホットフィックスは、Citrix の Web サイト (http://www.citrix.com) からダウンロードできます。 または、 Citrix MetaFrame XP Feature Release 2 (FR2)。最新の Service Pack およびホットフィックスを適用することをお勧めします。最新の Service Pack およびホットフィックスは、Citrix の Web サイト (http://www.citrix.com) からダウンロードできます。

クライアントワークステーションの要件

DeFrame ターミナルサーバからシンクライアントアプリケーションを実行するワークステーションの最低要件は次のとおりです。

ソフトウェア	最低要件
オペレーティングシステム	<p>最低要件は、ZENworks for Desktops 4.0.1 の場合と同様に次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows 98 SE SP6a が適用された Windows NT 4.0 Workstation SP2 が適用された Windows 2000 Professional Windows XP Professional
Novell Client	<p>最低要件は、ZENworks for Desktops 4.0.1 の場合と同様に次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> Novell Client for Windows 95/98（バージョン 3.31 以降） Novell Client for Windows NT/2000/XP（バージョン 4.81 以降）

ソフトウェア	最低要件
ZENworks for Desktops Management Agent	<p>ZENworks for Desktops 4.0.1。すべての Management Agent コンポーネントをインストールできます。ただし、DeFrame をサポートするために必要なコンポーネントは、Application Management コンポーネントと Workstation Management コンポーネントだけです。</p> <p>注：ZENworks OnDemand Services ポータルからのみ DeFrame シンククライアントアプリケーションを起動する場合、Management Agent は必要ありません。OnDemand Services ポータルは、ZENworks 6 スイートに含まれています。OnDemand Services ポータルが必要になるのは、1)Novell Application Launcher から DeFrame シンククライアントアプリケーションを起動する場合、または 2)OnDemand Services ポータルから ZfD デスクトップアプリケーションを起動する場合のみです。</p>

ディレクトリサービスの要件

DeFrame は、ディレクトリサービスとして Novell eDirectory を使用します。ZENworks for Desktops Server のインストールプログラムを実行すると、DeFrame オブジェクトをサポートするために eDirectory スキーマが拡張され、ConsoleOne で使用する DeFrame スナップインがインストールされます。

DeFrame は、Novell Client を経由して eDirectory にアクセスします。Novell Client は、各ターミナルサーバにインストールする必要があります (15 ページの「**ターミナルサーバの要件**」を参照)。ターミナルサーバに eDirectory をインストールする必要はありません。

ソフトウェア	最低要件
eDirectory	バージョン 8.5。ZfD の場合と同様に、8.6.2 以降を使用することをお勧めします。
ConsoleOne	バージョン 1.3.2。ZfD の場合と同様に、バージョン 1.3.5 以降 (ZENworks for Desktops Companion CD または ZENworks 6 Companion 1 CD に含まれています) を使用することをお勧めします。

Novell iFolder の要件 (オプション)

Novell iFolder を使用すると、シンククライアントアプリケーションからファイルを 1 つまたは複数のネットワークストレージに保存することができます。DeFrame は、ユーザがアプリケーションを起動したときにネットワークストレージを利用可能な状態にし、ユーザがアプリケーションを終了したときにユーザのアクセスを削除します。ユーザが DeFrame シンククライアントアプリケーションを使用していないときでもユーザがネットワークストレージを利用できるようにする場合は、ユーザのワークステーションに iFolder クライアントを標準インストールしてください。

DeFrame は、iFolder 1.x および iFolder 2.x をサポートします。

DeFrame Software のインストール

次の節では、DeFrame ソフトウェアのインストール方法と、DeFrame サーバおよびユーザの設定方法について説明します。

- ◆ 18 ページの「DeFrame の有効化」
- ◆ 19 ページの「ターミナルサーバのセットアップ」
- ◆ 25 ページの「ダイナミックローカルユーザアカウントと Roaming プロファイルの設定」
- ◆ 32 ページの「DeFrame ユーザとしてユーザを有効化する」
- ◆ 34 ページの「ユーザワークステーションのセットアップ」

DeFrame の有効化

ZfD Server ソフトウェアをネットワークサーバにインストールするときに (『ZENworks for Desktops 4 インストールガイド』の「ZfD Server ソフトウェアのインストール」を参照)、ZfD Server のインストールプログラムによって、DeFrame オブジェクトをサポートするように eDirectory ツリーのスキーマが拡張され、ConsoleOne で使用する DeFrame スナップインがインストールされます。ターミナルサーバに DeFrame ソフトウェアをインストールする前に、ConsoleOne から DeFrame を有効化する必要があります。DeFrame を有効化すると次の処理が行われます。

- ◆ 指定した eDirectory コンテキストに DeFrameServers コンテナおよび DeFrameApplications コンテナが作成されます。

各ターミナルサーバは、eDirectory に登録されている必要があります。ターミナルサーバに DeFrame ソフトウェアをインストールし、DeFrame ソフトウェアを起動すると、ターミナルサーバを示す DeFrame サーバオブジェクトが DeFrameServers コンテナに作成されます。

DeFrame には、DeFrame Published Application Synchronization というユーティリティが含まれています。このユーティリティを使用すると、Citrix Published Application Manager ユーティリティのアプリケーションを eDirectory にインポートできます。DeFrame Published Application Synchronization ユーティリティを使用すると、DeFrameApplications コンテナにアプリケーションオブジェクトが作成されます。DeFrame Published Application Synchronization ユーティリティの詳細については、78 ページの「DeFrame Published Application Synchronization ユーティリティを使用してアプリケーションオブジェクトを作成する」を参照してください。

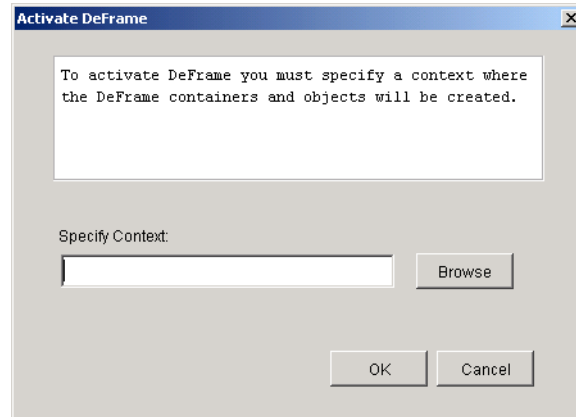
- ◆ DeFrameServers コンテナおよび DeFrameApplications コンテナと同じコンテキストに DeFrame Administrator オブジェクト (PASS_ADMIN) が作成されます。ZENworks Thin-Client Application Service (zentcas.exe) は、各 DeFrame ターミナルサーバにインストールされており、PASS_ADMIN オブジェクトを使用して eDirectory に対する認証を行います。
- ◆ eDirectory ツリーの ROOT に DEFAULT_REG オブジェクトが作成されます。DEFAULT_REG オブジェクトは、DeFrameServers コンテナと PASS_ADMIN オブジェクトの場所を指定します。また、新しく作成された DeFrame ターミナルサーバに適用されるデフォルトの負荷分散に関する設定も行います。

DeFrame を有効化するには、次の手順に従ってください。

- 1 Windows ワークステーションで、ZfD Server から ConsoleOne を起動します。

ローカルのワークステーションに ZfD Server の ConsoleOne ディレクトリをコピーしている場合は、ローカルのディレクトリから ConsoleOne を起動できます。

- 2 ConsoleOne で、[Tools] > [DeFrame Tools] > [Activate DeFrame] の順にクリックして、[Activate DeFrame] ダイアログボックスを表示します。



- 3 [Specify Context] フィールドで、[Browse] ボタンをクリックし、DeFrameServers コンテナ、DeFrameApplications コンテナ、および PASS_ADMIN オブジェクトを作成するコンテナを選択します。
- 4 [OK] ボタンをクリックして、コンテナとオブジェクトを作成し、DeFrame を有効化します。

ターミナルサーバのセットアップ

eDirectory で DeFrame を有効化した後に、次の作業を行って、ターミナルサーバを DeFrame ターミナルサーバとしてセットアップすることができます。これらの作業は、DeFrame と共に使用するすべてのターミナルサーバで行う必要があります。

- ◆ [19 ページの「DeFrame ソフトウェアのインストール」](#)
- ◆ [23 ページの「DeFrame サービスの起動」](#)
- ◆ [23 ページの「ユーザアカウントの管理」](#)
- ◆ [24 ページの「コンテキストレスログインの設定」](#)

DeFrame ソフトウェアのインストール

ZENworks for Desktops Management Agent のインストールプログラムを実行すると、DeFrame ソフトウェアがターミナルサーバにインストールされます。ZfD Management Agent のインストールプログラムは、DeFrame ソフトウェアをインストールする各ターミナルサーバで実行する必要があります。

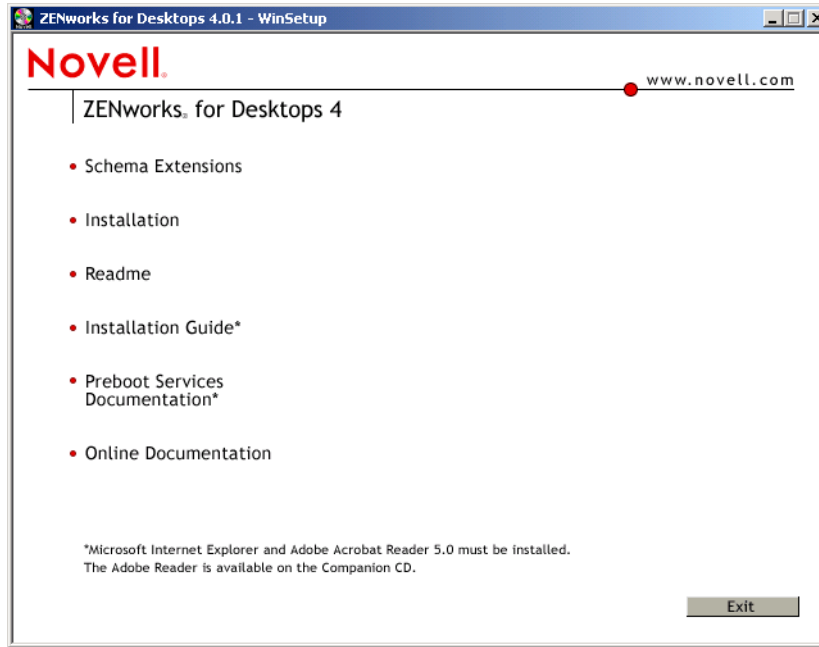
- 1 バージョン 4.83 以降の Novell Client がターミナルサーバにインストールされていることを確認します。
- 2 DeFrame を有効化した eDirectory ツリーにログインし、そのツリーがプライマリツリーであることを確認します。

正しいプライマリツリー接続を設定するには、タスクバーのステータス領域にある [N] アイコンを右クリックし、[NetWare Connections] をクリックして、正しいツリーを選択します。次に、[Set Primary] をクリックします。

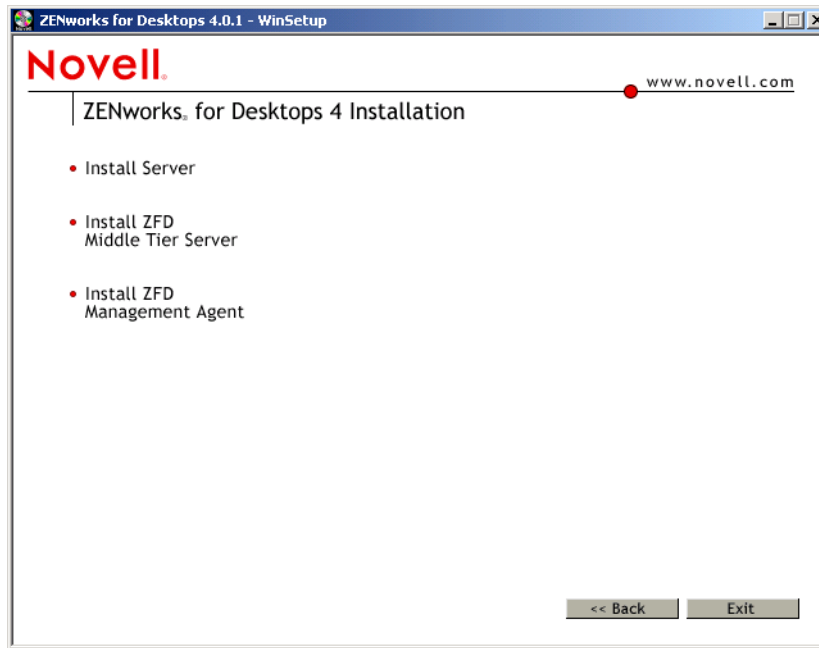
- 3 ターミナルサーバで、ZENworks for Desktops Program CD または ZENworks 6 Desktop Management Program CD を CD-ROM ドライブに挿入します。winsetup.exe プログラムが自動的に実行されます。プログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから手動で実行します。

注：ZfD Management Agent のインストールプログラムは、Microsoft Windows Installer パッケージ (zfdagent.msi) です。インストールプログラムは、ZfD の winsetup.exe プログラムから起動する以外に、ZENworks for Desktops Program CD の agentinstall¥english ディレクトリ、ZENworks 6 Desktop Management Program CD の agentinstall¥english ディレクトリ、または ZfD Server の public¥zenworks¥zfdagent¥english ディレクトリから直接起動できます。インストールプログラムを ZfD の winsetup.exe プログラム以外から起動する場合は、**ステップ 7**に進んでください。

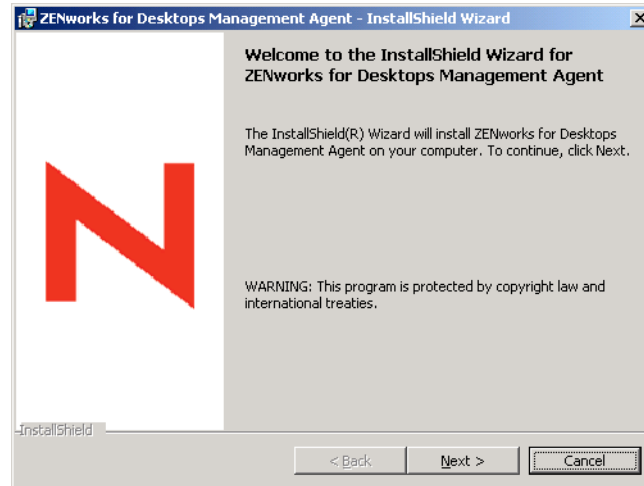
- 4 [English] をクリックして ZfD メインインストールページを表示します。



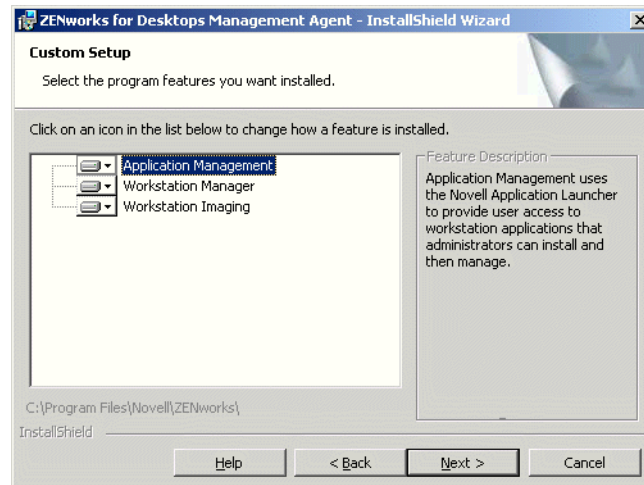
- 5 [Installation] をクリックして ZfD インストールオプションページを表示します。



- 6 [Install ZfD Management Agent] をクリックしてインストールプログラムを起動します。

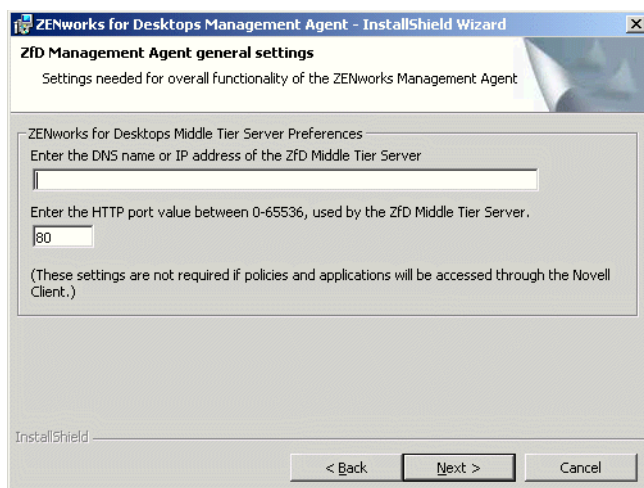


- 7 最初のページの内容を読み、[Next] をクリックします。
- 8 使用許諾契約を読みます。使用許諾契約の内容に同意する場合は、[I Accept the Terms in the License Agreement] をクリックします。
- または、
- 使用許諾契約の内容に同意しない場合は、[I Do Not Accept the Terms in the License Agreement] をクリックします。この結果、インストールプログラムは終了します。



デフォルトでは、すべての機能が選択およびインストールされます。Application Management 機能と Workstation Manager は必ずインストールする必要があります。Workstation Imaging 機能はオプションです。

- 9 ターミナルサーバに Workstation Imaging をインストールしない場合は、その機能を示すアイコンをクリックし、[This Feature Will Not Be Available] を選択します。[Next] をクリックして [General Settings] ページを表示します。

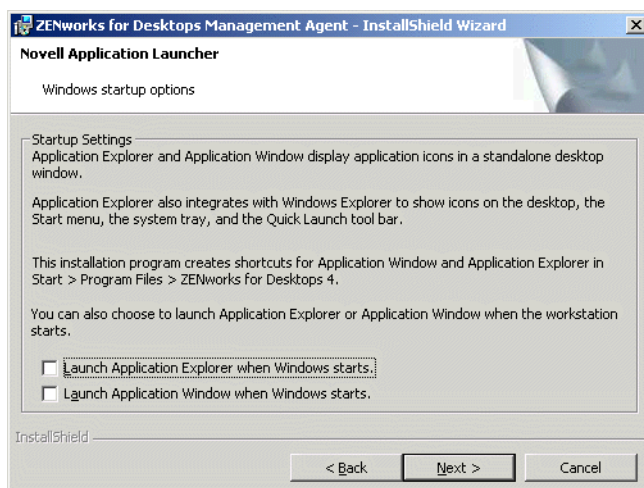


このページでは、Management Agent が Novell Client の代わりに接続する ZfD Middle Tier Server を指定します。

ユーザがこのサーバから DeFrame シンククライアントアプリケーションを実行する場合は、Middle Tier Server を指定する必要はありません。すべての eDirectory 認証は、Novell Client を使用して行われます。

Middle Tier Server を指定した場合は、ターミナルサーバで Windows ログオンを行ったすべてのユーザが、Novell Client を使用して eDirectory 認証を行わなくても Novell Application Launcher アプリケーションや Workstation Manager ポリシーにアクセスできます。

- 10 必要に応じて、[General Settings] ページで、Management Agent が接続する ZfD Middle Tier Server の DNS 名または IP アドレスを入力し、Management Agent ログオンをリスンするために Apache Web Server (NetWare) または IIS Web Server (Windows) が使用する HTTP または HTTPS のポート番号を入力して、[Next] をクリックします。



- 11 Windows オペレーティングシステムの起動時に Novell Application Launcher を起動する場合は、起動するビュー (Application Explorer、Application Window、またはその両方) を選択し、[Next] をクリックします。

ターミナルサーバから DeFrame シンクライアントアプリケーションを起動するユーザは、この設定の影響を受けません。ターミナルサーバで Windows にログインするユーザのみが影響を受けます。

- 12 [Ready to Install Program] ページで、[Install] をクリックしてインストールを開始します。
- 13 インストールが完了したら、ターミナルサーバを再起動するオプションを選択し、[Finish] をクリックします。

DeFrame サービスの起動

ZfD Agent Management のインストールプログラムを実行すると、Novell ZENworks Thin-Client Application Service (zentcas.exe) という DeFrame サービスがターミナルサーバにインストールされます。

デフォルトでは、サーバの起動時に ZENworks Thin-Client Application Service が自動的に起動するように設定されます。

ZENworks Thin-Client Application Service の初回起動時に、DeFrame PASS_ADMIN オブジェクトを使用して eDirectory に対して認証が行われ、ターミナルサーバを示す DeFrame サーバオブジェクトが DeFrameServers コンテナに作成されます。PASS_ADMIN オブジェクトおよび DeFrameServers コンテナに関する詳細については、[18 ページの「DeFrame の有効化」](#)を参照してください。

サービスを手動で起動するには、次の手順に従ってください。

- 1 [スタート] メニュー > [設定] > [コントロールパネル] > [管理ツール] > [サービス] の順にクリックします。
- 2 [Novell ZENworks Thin-Client Application Service] をダブルクリックします。
- 3 [開始] をクリックします。
- 4 [OK] をクリックします。

ユーザアカウントの管理

DeFrame ターミナルサーバでシンクライアントアプリケーションを実行するには、ターミナルサーバでローカルユーザアカウントが必要です。ZfD Workstation Manager およびユーザポリシーを使用して、すべてのターミナルサーバ上のユーザアカウントを動的に管理、または各ターミナルサーバ上のユーザアカウントを手動で作成することができます。詳細については、次の節を参照してください。

- ◆ [23 ページの「ユーザアカウントを自動的に作成するように Workstation Manager をセットアップする」](#)
- ◆ [24 ページの「手動によるユーザアカウントの作成」](#)

ユーザアカウントを自動的に作成するように Workstation Manager をセットアップする

ZfD には eDirectory ユーザポリシーが含まれます。eDirectory ユーザポリシーを使用すると、ターミナルサーバ上のローカルユーザアカウントやプロファイルを簡単に管理できます。Workstation Manager は、ターミナルサーバで実行され、ユーザがターミナルサーバにログインしたときにポリシーを適用します。この節では、Workstation Manager を正しくインストールおよび設定する方法について説明します。ユーザポリシーの作成および使用に関する詳細については、[25 ページの「ダイナミックローカルユーザアカウントと Roaming プロファイルの設定」](#)を参照してください。

Workstation Manager は、ZfD Management Agent の一部としてインストールされます。
[サービス] ウィンドウに Workstation Manager サービスが表示されているかどうかを
チェックすることによって、Workstation Manager がインストールされターミナルサー
バで実行されていることを確認できます。

eDirectory ツリーが複数ある場合は、ユーザオブジェクトが属する eDirectory ツリーを
Workstation Manager が参照するように設定します。このように設定するには、次の手
順に従ってください。

- 1 [スタート] メニュー > [設定] > [コントロールパネル] > [Network Identity] の
順にクリックします。
- 2 [Novell Network Identity] ダイアログボックスの [Settings] をクリックします。
- 3 [Enable Workstation Manager] チェックボックスがオンに設定され、ツリーが正し
く設定されていることを確認します。
- 4 (オプション) Windows のレジストリで、HKEY_LOCAL_MACHINE/SOFTWARE/
NOVELL/Workstation Manager/Identification キーにある Tree 値を確認します。

手動によるユーザアカウントの作成

ターミナルサーバ上でユーザアカウントを自動的に作成するために Workstation
Manager およびユーザポリシーを使用しない場合は、ユーザアカウントを手動で作成す
る必要があります。ユーザアカウントの作成については、Windows のマニュアルを参
照してください。ユーザアカウントを作成する場合は、次のことに注意してください。

- ◆ コンテキストレスログインを使用する場合 (24 ページの「**コンテキストレスログインの設定**」を参照) は、ユーザの Windows アカウントのユーザ名とパスワードが
eDirectory アカウントのものと同じである必要があります。
- ◆ ユーザアカウントには、グループメンバーシップまたは個人のユーザアクセス権に
基づいて、ターミナルサーバからアプリケーションを実行するために必要なファイ
ルシステムアクセス権が割り当てられている必要があります。

コンテキストレスログインの設定

シンクライアントアプリケーションを起動するプロセスを簡略化するために、DeFrame
にはコンテキストレスログインが用意されています。コンテキストレスログインを使
用すると、ユーザはシンクライアントアプリケーションの起動時にユーザ名とパス
ワードを入力するよう求められません。ただし、ユーザの eDirectory アカウントと
Windows ユーザアカウントのユーザ名およびパスワードが同じである必要があります
(24 ページの「**手動によるユーザアカウントの作成**」と 28 ページの「**ダイナミックローカ
ルユーザアカウントの設定**」を参照)。

コンテキストレスログインを使用するには、次の手順に従ってください。

- 1 ターミナルサーバの [Use Client Provided Logon Information] 設定をオンにし、
[Always Prompt for Password] 設定をオフにします。
 - 1a ターミナルサーバで、[スタート] メニュー > [プログラム] > [管理ツール]
> [ターミナル サービス構成] の順にクリックします。
 - 1b 接続タイプ (デフォルトは RDP-Tcp) を強調表示し、プロパティを入力するた
めにダブルクリックします。
 - 1c [ログオン設定] タブで、[クライアント提供のログオン情報を使う] 設定をオ
ンにし、[常にパスワードの入力を求める] 設定をオフにします。
 - 1d 各接続タイプに対して同じ手順を繰り返します。

- 2 ターミナルサーバの Novell Client 用のデフォルトプロファイルを設定します。
 - 2a ターミナルサーバで、タスクバーのステータス領域にある Novell アイコン（[N] アイコン）を右クリックし、[Novell Client Properties] をクリックします。
 - 2b [Location Profiles] タブをクリックします。
 - 2c [Location Profiles] リストで、[Default] を選択し、[Properties] をクリックして、[Location Profiles Properties] ダイアログボックスを表示します。
 - 2d [Service] リストから [Login Service] を選択し、[Service Instance List] から [Default] を選択します。次に、[Properties] をクリックして [Novell Login] ダイアログボックスを表示します。
 - 2e [Save Profile After Successful Login] オプションをオフにします。
 - 2f [NDS] タブをクリックします。
 - 2g [Tree] フィールドで、シンククライアントアプリケーションがアプリケーションオブジェクトとして設定されている eDirectory ツリーを選択します。
 - 2h [Context] フィールドおよび [Server] フィールドからすべての情報を削除します。
 - 2i 設定内容を保存するには、[OK] をクリックしてすべてのダイアログボックスを閉じます。
- 3 ターミナルサーバが Active Directory ドメインコントローラ（メンバーサーバまたはワークグループサーバではなく）である場合は、ターミナルサーバの DeFrame サーバオブジェクトでサーバ名ではなくドメイン名を指定します。

コンテキストレスログイン時には、eDirectory と Windows ターミナルサーバにログインするためにこのユーザ名とパスワードが使用されます。ユーザ名とパスワード以外に、Windows ターミナルサーバログインでは、ドメイン名またはサーバ名が必要です (Windows Workstation のログインダイアログボックスの [From] フィールドに指定)。DeFrame サーバオブジェクトの作成時に、サーバ名がオブジェクトに指定されます。ターミナルサーバがドメインコントローラである場合は、ドメイン名が必要です。ドメイン名を変更するには、次の手順に従ってください。

 - 3a ConsoleOne で、DeFrame サーバオブジェクトを右クリックし、[Properties] をクリックして、DeFrame サーバオブジェクトのプロパティページを表示します。
 - 3b [DeFrame Server Environment] タブをクリックして [Environment] ページを表示します。
 - 3c [Domain] フィールドに、ターミナルサーバのドメインを入力します。
 - 3d [OK] をクリックして変更内容を保存します。

ダイナミックローカルユーザアカウントと Roaming プロファイルの設定

ZfD Workstation Manager とユーザポリシーを使用して DeFrame ターミナルサーバ上のユーザアカウントまたはプロファイルを管理する場合は、次の節に示されている作業を行う必要があります。

- ◆ 26 ページの「ユーザポリシーパッケージの作成」
- ◆ 28 ページの「ダイナミックローカルユーザアカウントの設定」
- ◆ 29 ページの「Roaming ユーザプロファイルの設定」
- ◆ 31 ページの「ユーザパッケージとユーザの関連付け」

ユーザポリシーパッケージの作成

ダイナミックローカルユーザアカウントと Roaming ユーザプロファイルを管理するには、ユーザポリシーパッケージに含まれる Windows 2000 ターミナルサーバポリシーを使用します。既存のユーザポリシーパッケージを使用するか、または Windows 2000 ターミナルサーバポリシー用の新しいユーザポリシーパッケージを作成することができます。使用するユーザポリシーパッケージがすでにある場合は、[28 ページの「ダイナミックローカルユーザアカウントの設定」](#)に進んでください。それ以外の場合は、次の手順に従ってユーザポリシーパッケージを作成します。

- 1 ConsoleOne で、ユーザポリシーパッケージオブジェクトを作成するコンテナを右クリックし、[Policy Package] をクリックして、[Policy Package Wizard] を表示します。



- 2 [Policy Packages] リストから [User Package] を選択し、[Next] をクリックします。

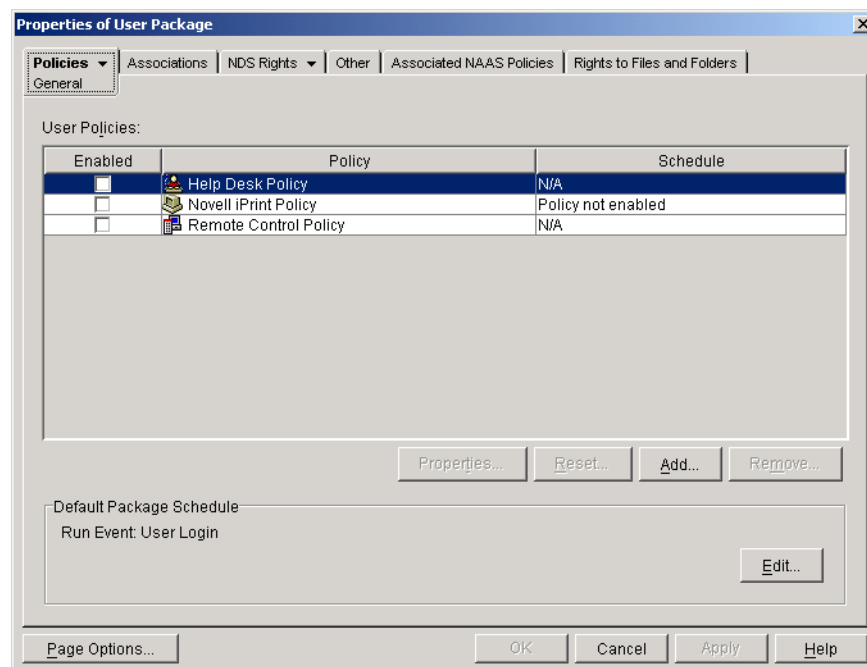


パッケージオブジェクトの名前は、パッケージオブジェクトを作成するコンテナ内で一意である必要があります。複数のユーザポリシーパッケージを作成する場合は、「Win2000 TS User Package」などのような内容がわかる名前を付けることができます。または、ポリシーのユーザが属するコンテナと同じコンテナにポリシーを作成することができます。

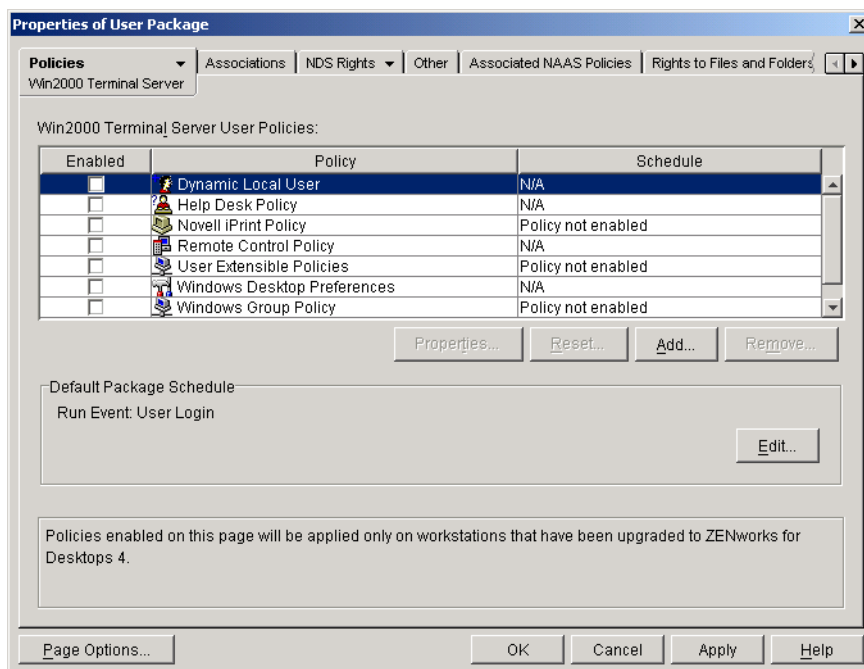
- 必要に応じて、パッケージのオブジェクト名と、パッケージを作成するコンテナを変更し、[Next] をクリックします。



- [Summary] ページで [Define Additional Properties] を選択し、[Finish] をクリックします。ユーザパッケージオブジェクトが作成され、オブジェクトのプロパティページが表示されます。



- 5 [Policies] タブ、次に [Win2000 Terminal Server] をクリックして、[Win2000 Terminal Server Policies] ページを表示します。

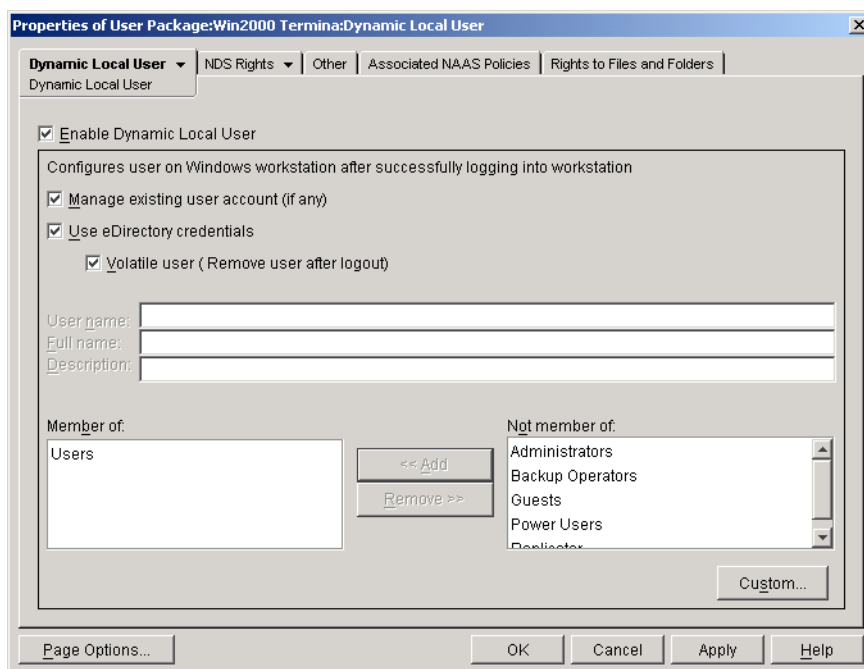


- 6 次の「ダイナミックローカルユーザアカウントの設定」に進みます。

ダイナミックローカルユーザアカウントの設定

Workstation Manager によってターミナルサーバでユーザアカウントを作成する方法を設定するには、DLU(ダイナミックローカルユーザ)ポリシーを使用します。

- 1 [Windows 2000 Terminal Server Policies] ページで、[Dynamic Local User Policy] の左側にあるチェックボックスをオンにしてポリシーを有効にします。次に、[Properties] をクリックして [Dynamic Local Users] プロパティ ページを表示します。



2 次のフィールドを設定します。

[Enable Dynamic Local User] : このオプションを選択すると、Workstation Manager を使用して動的にユーザアカウントを作成することができます。

[Manage Existing User Account (if any)] : Workstation Manager で DLU ポリシーを既存のユーザアカウントに適用する場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択しないと、新しいユーザアカウントのみに DLU ポリシーが適用されます。

[Use eDirectory Credentials] : このオプションを選択すると、ユーザアカウントの作成時に eDirectory のユーザ名とパスワードを使用できます。ユーザの eDirectory と Windows のアカウント情報が同期化され、コンテキストレスログインが設定されるため (24 ページの「**コンテキストレスログインの設定**」を参照)、ターミナルサーバから DeFrame シンククライアントアプリケーションを起動するときにユーザはアカウント情報の入力を求められません。

[Volatile User (Remove User after Logout)] : このオプションは、ユーザがシンククライアントアプリケーションを終了し、セッションが終了された後でユーザのアカウントを削除する場合に選択します。すべてのユーザアカウント情報が削除されます。ユーザプロファイルを保持する場合は、Roaming プロファイルを設定できます。設定方法については、次の「**Roaming ユーザプロファイルの設定**」を参照してください。

[Member Of/Not Member Of] : [Not Member Of] リストで、ユーザが所属する 1 つまたは複数のグループを選択し、[Add] をクリックします。グループメンバーシップに基づいて、ターミナルサーバ上のユーザのアクセス権が設定されます。ユーザアカウントに割り当てるファイルシステムアクセス権が、リストに表示されたグループによって提供されていない場合は、[File Rights] ページ ([Dynamic Local User] > [File Rights] ページの順に選択) を使用できます。

3 [OK] をクリックして変更内容を保存し、[Dynamic Local Users] プロパティページを閉じます。

4 次の「**Roaming ユーザプロファイルの設定**」に進みます。

Roaming ユーザプロファイルの設定

Roaming ユーザプロファイルを設定するために使用できるポリシーには次の 2 つがあります。

- ◆ **Windows ターミナルサーバポリシー** : Windows ターミナルサーバポリシーを使用すると、Roaming ユーザプロファイルを保存するためのネットワークストレージの場所を指定できます。このポリシーを使用する利点には、1) リモートセッションまたはローカルセッションでユーザがターミナルサーバにログインする場合のみ適用される、2) クライアントセッションを制御するために使用できる他の設定が含まれる、などがあります。

ユーザプロファイルにこのポリシーを使用することは、Windows ターミナルサーバ上のユーザアカウントに関する [Terminal Services Profile] プロパティページを設定することと同じです。

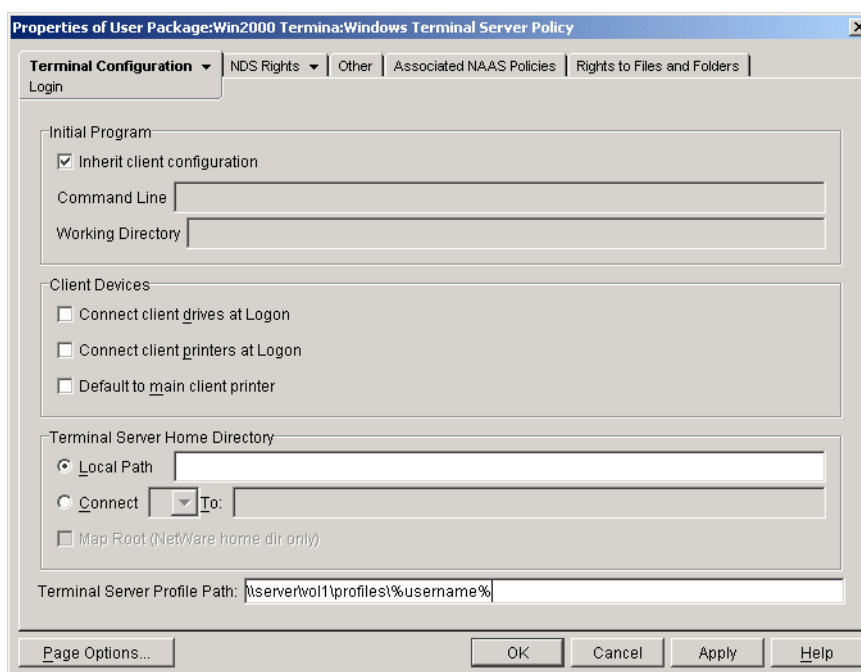
- ◆ **Windows デスクトップ初期設定ポリシー** : Windows デスクトップ初期設定ポリシーを使用すると、Roaming ユーザプロファイルを保存するためのネットワークストレージの場所を指定できます。Windows デスクトップ初期設定ポリシーは、ユーザがワークステーションまたはターミナルサーバにログインするときに必ず適用されます。したがって、ワークステーションおよびターミナルサーバで同じユーザプロファイルを使用する場合のみ使用してください。

一般的に、Roaming プロファイルを設定するためには Windows ターミナルサーバポリシーを使用することをお勧めします。両方のポリシーを使用して Roaming プロファイルを設定すると、Windows デスクトップ初期設定ポリシーで [Override Terminal Server Profile] 設定を選択しない限り、Windows ターミナルサーバポリシーの設定が使用されます。

Windows ターミナルサーバポリシーを設定する手順を次に示します。Windows デスクトップ初期設定ポリシーを使用する場合は、『ZENworks for Desktops 4 管理ガイド』(<http://www.novell.com/documentation/japanese/zdpr>) の「Workstation Management」の「ポリシーパッケージの作成とポリシーのセットアップ」の「ユーザパッケージのポリシーのセットアップ」を参照してください。

Windows ターミナルサーバポリシーを作成するには、次の手順に従ってください。

- 1 [Windows 2000 Terminal Server Policies] ページで、[Windows Terminal Server Policy] の左側にあるチェックボックスをオンにしてポリシーを有効にします。次に、[Properties] をクリックしてポリシーのプロパティページを表示します。
- 2 [Terminal Configuration] タブをクリックし、[Login] をクリックして [Login] ページを表示します。



- 3 [Inherit Client Configuration] オプションをオンにします。

重要： このオプションを有効にしない場合は、ユーザによる DeFrame シンククライアントアプリケーションの起動時に、起動されたアプリケーションではなくターミナルサーバのデスクトップに対してセッションが開始されます。

- 4 [Terminal Server Profile Path] フィールドに、プロファイルを設定するネットワーク上の場所を示すパスを入力します。次のことに注意してください。
- ◆ %username% 変数を使用して、各ユーザのプロファイルがそれぞれ別のディレクトリに保存されるようにします。たとえば、次のように指定します。

\\\\server\\vol1\\profiles\\%username%

このパスを使用すると、ユーザ jsmith のプロファイルは次の場所に保存されます。

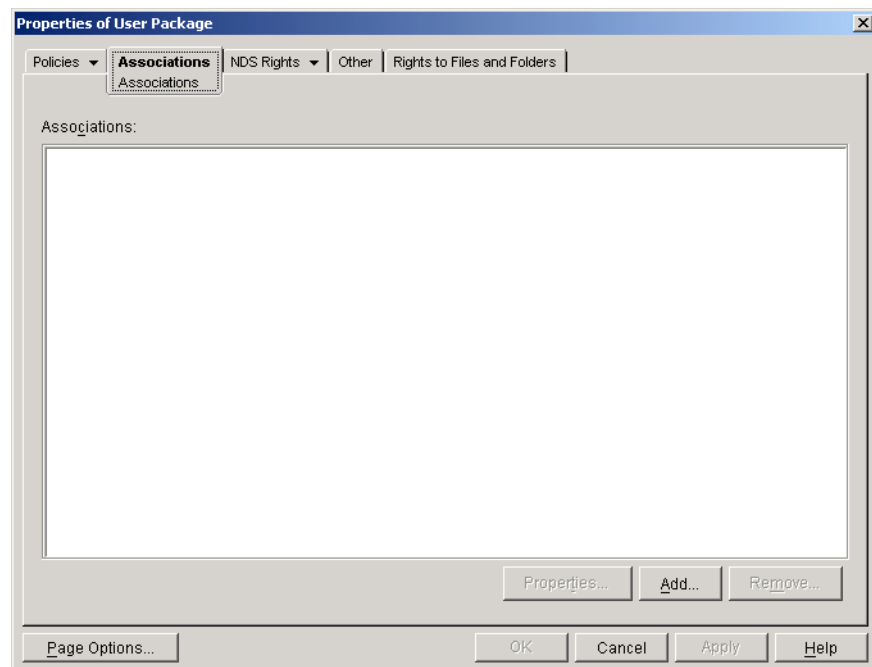
¥¥server¥vol1¥profiles¥jsmith

- ◆ ユーザのディレクトリがすでに存在していることを確認します。この例では、jsmith のプロファイルが保存される ¥¥server¥vol1¥profiles¥jsmith がすでに存在している必要があります。
 - ◆ ユーザがユーザ自身のプロファイルディレクトリへのアクセス権を持っていることを確認します。プロファイルディレクトリが NetWare サーバ上にある場合は、eDirectory を使用してアクセス権を割り当てることができます。プロファイルディレクトリが Windows サーバ上にある場合は、ユーザの Windows アカウントを使用してアクセス権を割り当てする必要があります。
- 5 [OK] をクリックして変更内容を保存し、[Windows Terminal Server] プロパティページを閉じます。
 - 6 次の「**ユーザパッケージとユーザの関連付け**」に進みます。

ユーザパッケージとユーザの関連付け

ユーザポリシーパッケージは、有効にする前にユーザと関連付ける必要があります。

- 1 ユーザパッケージオブジェクトのプロパティページが表示されていない場合は、[User Package] を右クリックし、[Properties] をクリックします。
- 2 [Associations] タブをクリックして [Associations] ページを表示します。



- 3 [Add] をクリックし、ポリシーパッケージを適用するユーザを参照して選択します。ユーザ、ユーザグループ、またはコンテナを追加できます。
- 4 ユーザを追加したら、[OK] をクリックして情報を保存します。

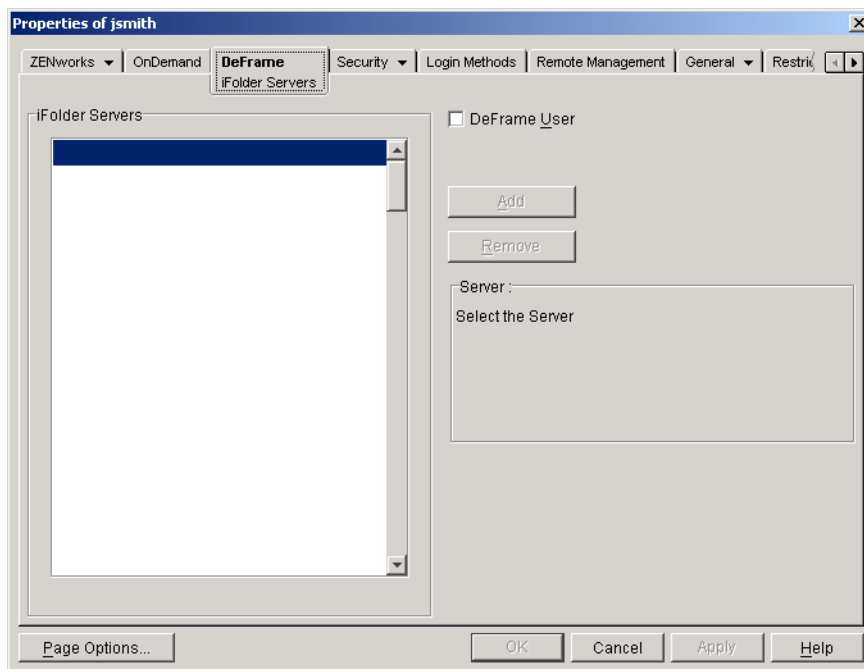
DeFrame ユーザとしてユーザを有効化する

ユーザは、DeFrame シンククライアントアプリケーションを起動する前に、DeFrame ユーザとして有効化されている必要があります。DeFrame ユーザとして有効化するには、次の 3 つの方法があります。

- ◆ ConsoleOne を使用してユーザを手動で有効化します。各ユーザは、別々に設定する必要があります。次の「[ConsoleOne を使用してユーザを有効化する](#)」を参照してください。
- ◆ DeFrame¥OnDemand User Configuration ユーティリティを使用して、複数のユーザを同時に有効化します。[33 ページの「DeFrame¥OnDemand User Configuration ユーティリティを使用してユーザを有効化する」](#)を参照してください。
- ◆ ZENworks OnDemand Services (ZENworks 6 スイートの Web Self-Service に含まれています) を使用している場合は、ユーザが OnDemand Services Launch Item ガジェットから初めてアプリケーションを起動するときに、このガジェットによって自動的に DeFrame ユーザとして有効化されます。ユーザは、Launch Item ガジェットからアプリケーションを起動すると、Novell Application Launcher からシンククライアントアプリケーションを起動できます。

ConsoleOne を使用してユーザを有効化する

- 1 ConsoleOne で、ユーザオブジェクトを右クリックし、[Properties] をクリックしてユーザオブジェクトのプロパティページを表示します。
- 2 [DeFrame] タブをクリックし、[iFolder Servers] ページを表示します。



- 3 [DeFrame User] ボックスをクリックしてユーザを有効化します。
- 4 [OK] をクリックして変更内容を保存します。

DeFrame¥OnDemand User Configuration ユーティリティを使用してユーザを有効化する

DeFrame¥OnDemand User Configuration ユーティリティを使用すると、次の作業を行うことができます。

- ユーザオブジェクトに適切な補助クラスを追加し、ユーザオブジェクトの [DeFrame] ページの [DeFrame User] 設定をオンにすることによって、ユーザを DeFrame ユーザとして有効化します。
- ZENworks OnDemand Services ApprovalFlow で必要なコストセンターおよびアカウント ID を設定します。ZENworks OnDemand Services は、ZENworks 6 スイートの一部として ZENworks for Desktops を取得した場合のみ利用できます。OnDemand Services は、ZENworks 6 Web Self-Service のコンポーネントです。

この Java ベースのユーティリティは、ZENworks for Desktops 4.0.1 Companion CD および ZENworks 6 Companion 1 CD に含まれています。このユーティリティを使用するには、サーバまたはワークステーションにユーティリティをインストールする必要があります。また、このユーティリティは、Java Runtime Engine (JRE) がインストールされている Windows ワークステーション / サーバから実行する必要があります。

- 1 ZENworks for Desktops 4.0.1 Companion CD の odusrcfg ディレクトリ (または、ZENworks 6 Companion 1 CD の zenworksfordesktops¥odusrcfg ディレクトリ) のファイルをサーバまたはワークステーションのディレクトリにコピーします。

これらのファイルは、サーバまたはワークステーションの任意のディレクトリにコピーできます。たとえば、ConsoleOne ディレクトリにコピーします。

- 2 JRE がインストールされている Windows ワークステーション / サーバから、該当するディレクトリの odusrcfg.bat を実行して [OnDemand User Configuration Utility Introduction] ページを表示します。
- 3 [Next] をクリックして [Novell eDirectory Authentication] ページを表示します。
- 4 次のフィールドに情報を入力します。

[LDAP Server Hostname or IP Address] : eDirectory へのアクセスを提供する LDAP サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。LDAP サーバのポート番号が 389 でない場合は、389 を指定します。

[Admin Name] : LDAP の構文を使用して、eDirectory に対して管理者と同等の権利を持つユーザのコンテキストを指定します。

[Password] : ユーザのパスワードを指定します。

- 5 [Next] をクリックして eDirectory に対する認証を行い、[User Selection] ページを表示します。
- 6 DeFrame ユーザとして有効化するユーザを選択します。

ユーザ個人を選択するか、コンテナを選択してコンテナ内のすべてのユーザを有効化することができます。

- 7 ZENworks 6 Web Self-Service を使用していて、選択したユーザに対する OnDemand Services ApprovalFlow の設定を行う場合は、[Enable ApprovalFlow] オプションをオンにし、[Next] をクリックして、次の **ステップ 7a** および **ステップ 7b** に進んでください。

または、

OnDemand Services ApprovalFlow を設定しない場合は、[Next] をクリックし、次の **ステップ 8** に進んでください。

7a [ApprovalFlow Settings] ページで、次のフィールドに情報を入力します。

[Account ID] : ユーザを識別するアカウント ID を入力します。このユーザのアカウント ID は、ユーザが生成した各 Purchase および Usage オブジェクトに記録されます。サードパーティの請求システムまたは報告システムを使用している場合は、それらのシステムでこのアカウント ID を使用することができます。

[Cost Center] : ユーザを割り当てるコストセンターを参照し選択します。コストセンターは、職種オブジェクトによって表されます。

[Enable User to Receive E-Mail Notifications] : このオプションを選択すると、ユーザは購入が承認または拒否されたことを通知する電子メールメッセージを受け取ります。

[Enable User to Cancel Package Subscriptions] : ユーザがユーザ自身のアプリケーションパッケージの購入をキャンセルできるようにする場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、ユーザは Workflow Tracking ガジェットを使用して、購入が承認されたアプリケーションを参照し、購入をキャンセルできます。

[Overwrite Existing ApprovalFlow Settings] : このオプションを選択すると、選択されたユーザに現在割り当てられている ApprovalFlow の設定が上書きされます。

7b [Finish] をクリックします。

8 [Yes] をクリックして、選択されたユーザを有効化することを確認します。

9 ユーザの設定が完了したら、[Finish] をクリックしてユーティリティを終了します。

ユーザワークステーションのセットアップ

Novell は、次の 2 つのワークステーションコンポーネントを用意しています。これらのコンポーネントを使用すると、ユーザは DeFrame ターミナルサーバからシンククライアントアプリケーションを起動できます。

- ◆ OnDemand Services Launch Item ガジェット。ZENworks 6 スイートの Web Self-Service コンポーネントに含まれています。詳細については、[ZENworks 6 Documentation Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/japanese/zenworks6\)](http://www.novell.com/documentation/japanese/zenworks6) にある『*Web Self-Service*』ガイドを参照してください。
- ◆ Novell Application Launcher。ZENworks for Desktops に含まれています。

これらのワークステーションコンポーネントを使用してユーザが DeFrame シンククライアントアプリケーションを起動する前に、DeFrame ワークステーションソフトウェア (DeFrame クライアント、ICA クライアント、および RDP クライアント) をユーザのワークステーションにインストールする必要があります。使用するワークステーションコンポーネント (Launch Item ガジェット、Novell Application Launcher、またはその両方) に応じて、次のように、ワークステーションソフトウェアのインストール方法が異なります。

- ◆ **Launch Item ガジェットのみ** : ユーザが OnDemand Services Launch Item ガジェットから DeFrame シンククライアントアプリケーションを初めて起動するときに、このガジェットによって DeFrame ワークステーションソフトウェアがユーザのワークステーションに自動的にインストールされます。Launch Item ガジェットのみを使用して DeFrame シンククライアントアプリケーションを起動するユーザに対しては何も操作を行う必要がありません。

- ◆ **Novell Application Launcherのみ:** DeFrameワークステーションソフトウェアを手動でインストールするか、Novell Application Launcher を使用してインストールする必要があります。詳細については、次の「**DeFrame ワークステーションソフトウェアの手動インストール**」および「**Novell Application Launcher を使用して DeFrame ワークステーションソフトウェアをインストールする**」を参照してください。
- ◆ **Launch Item ガジェットおよびNovell Application Launcher:** Novell Application Launcher からシンクライアントアプリケーションを起動する前に、1) ユーザは Launch Item ガジェットからシンクライアントアプリケーションを起動して、DeFrame ワークステーションソフトウェアがユーザのワークステーションに自動的にインストールされるようにする必要があります。または、2) DeFrame ワークステーションソフトウェアを、ユーザのワークステーションに手動でインストールするか、Novell Application Launcher を使用してインストールする必要があります。詳細については、次の「**DeFrame ワークステーションソフトウェアの手動インストール**」および「**Novell Application Launcher を使用して DeFrame ワークステーションソフトウェアをインストールする**」を参照してください。

DeFrame ワークステーションソフトウェアの手動インストール

- 1 ユーザが、ユーザ自身のワークステーションにソフトウェアをインストールするのに必要な権利を持っていることを確認します。Windows 2000/XP ワークステーションの場合、ユーザは Administrator グループに属している必要があります。
- 2 setup.exe プログラムを実行します。このプログラムは、ZfD Server の %public%zenworks%thinc%nt%setup ディレクトリに格納されています。

Novell Application Launcher を使用して DeFrame ワークステーションソフトウェアをインストールする

ネットワークサーバへの ZENworks for Desktops Server ソフトウェアのインストール時に、ZfD Server インストールプログラムによって、OnDemand Client アプリケーションオブジェクトが ZfD Server オブジェクトと同じ eDirectory コンテナに作成されます。OnDemand Client アプリケーションオブジェクトは、DeFrame ソフトウェア (DeFrame クライアント、ICA クライアント、および RDP クライアント) をインストールするセットアッププログラムを起動します。

このアプリケーションは、セットアッププログラムを 1 回だけ実行するように設定されます。このセットアッププログラムでは、ユーザはさまざまなクライアントのインストールを確認する必要があります。ユーザは、インストールパスなどの設定情報を指定する必要はありません。セットアッププログラムを 1 回だけ手動で実行して、ユーザが行う操作を確認することができます。この場合は、前の「**DeFrame ワークステーションソフトウェアの手動インストール**」を参照してください。

OnDemand Client アプリケーションオブジェクトの使用例は次のとおりです。

- ◆ OnDemand Client アプリケーションオブジェクトをユーザに直接関連付けることができます。この場合、ユーザは OnDemand Client アプリケーションオブジェクトを起動してセットアッププログラムを実行する必要があります。アプリケーションオブジェクトをユーザに関連付ける詳細については、『*ZENworks for Desktops 4 管理ガイド*』ガイドの「**Application Management**」の「**ユーザまたはワークステーションへのアプリケーションの配布**」を参照してください。

- ◆ OnDemand Client アプリケーションオブジェクトを DeFrame シンククライアントアプリケーションオブジェクトのアプリケーション依存関係として割り当てることができます。OnDemand Client アプリケーションオブジェクトをシンククライアントアプリケーションの依存関係にすると、ユーザがいずれかのシンククライアントアプリケーションを初めて起動したときにセットアッププログラムが実行されます。アプリケーション依存関係の設定に関する詳細については、『ZENworks for Desktops 4 管理ガイド』ガイドの「Application Management」の「アプリケーションの依存関係とチェーンの設定」を参照してください。

これ以降の作業

DeFrame をインストールおよび設定すると、次の作業を行うことができます。

- ◆ ユーザにシンククライアントアプリケーションを配布します。DeFrame ターミナルサーバ上のアプリケーションは、eDirectory でアプリケーションオブジェクトとして設定され、ユーザに関連付けられるまで Novell Application Launcher（または OnDemand Services Launch Item ガジェット）には表示されません。詳細については、77 ページの第 7 章「シンククライアントアプリケーションの配布」を参照してください。
- ◆ 負荷分散を設定します。アプリケーションが複数の DeFrame ターミナルサーバでホストされる場合は、負荷分散によって、アプリケーションの起動時に負荷が最も小さいサーバが使用されます。詳細については 85 ページの第 8 章「負荷分散の設定」を参照してください。
- ◆ 切断されたセッションの管理方法を設定します。詳細については 91 ページの第 9 章「切断されたセッションの管理」を参照してください。
- ◆ ユーザがファイアウォールを経由して DeFrame シンククライアントアプリケーションにアクセスできるようにします。詳細については 103 ページの第 13 章「ファイアウォールを経由するアプリケーションアクセスのセットアップ」を参照してください。
- ◆ Novell iFolder を設定して、ユーザがファイルを DeFrame シンククライアントアプリケーションから iFolder サーバに保存できるようにします。95 ページの第 11 章「Novell iFolder によるファイル保存のセットアップ」。

その他の管理作業については、63 ページの「管理」を参照してください。



アップグレード

39 ページの第 3 章「ZfD DeFrame の新機能」

41 ページの第 4 章「DeFrame 2.01 から ZfD 4.01 DeFrame へのアップグレード」

3

ZfD DeFrame の新機能

このリリースの DeFrame では、次の変更が行われました。

- ◆ ローカルユーザアカウントおよび Roaming プロファイルを作成および管理する DeFrame ダイナミックユーザ (DDU) 機能が含まれなくなりました。DDU を使用している場合は、ZfD Workstation Manager および DLU(ダイナミックローカルユーザ) ポリシーを使用する必要があります。
- ◆ DeFrame 2.01 サービス (DeFrame Access Control Service、DeFrame Watchdog Service、および DeFrame Disconnected Session Tracking Service) が、Novell ZENworks Thin-Client Application Service (zentcas.exe) という 1 つのサービスに統合されました。
- ◆ DeFrame User Configuration ユーティリティ (glbalias.exe) が、DeFrame OnDemand User Configuration ユーティリティという新しいユーティリティに変更されました。この新しいユーティリティを使用すると、複数のユーザを同時に DeFrame ユーザとして有効化できます。ZENworks 6 Web Self-Service (旧 ZENworks OnDemand Services) を使用している場合は、このユーティリティを使用して OnDemand ユーザ設定を行うこともできます。
- ◆ Citrix Secure Gateway (リレーモードのみ) のサポートが追加されました。

4

DeFrame 2.01 から ZfD 4.01 DeFrame へのアップグレード

この章では、Novell DeFrame 2.01 がすでにインストールされ、稼動しているネットワーク環境に、Novell® ZENworks® for Desktops (ZfD) 4.0.1 DeFrame™ を展開する方法について説明します。DeFrame 2.01 は、Novell ZENworks OnDemand Services™ 2 に含まれるバージョンです。

アップグレード 情報およびアップグレード 手順については、次の節を参照してください。

- ◆ 41 ページの「アップグレードの順序」
- ◆ 42 ページの「ソフトウェア要件」
- ◆ 45 ページの「ワークステーションのアップグレード」
- ◆ 47 ページの「ターミナルサーバのアップグレード」

この DeFrame バージョンで変更された内容については、39 ページの第 3 章「ZfD DeFrame の新機能」を参照してください。

注：このアップグレード情報は、『ZENworks for Desktops 4 Upgrade Guide』にも記載されています。

アップグレードの順序

必要なアップグレードの順序を次に示します。場合によっては、必要に応じて順序を変更することができます。これらの順序は、「別の順序」という記述の後に示されています。

1. **ZfD Server、Middle-Tier Server、およびユーザワークステーション**：ZfD 3.2 ソフトウェアを ZfD 4.0.1 にアップグレードします。ZfD Server をアップグレードすると、ConsoleOne で使用する DeFrame スナップインも更新されます。したがって、ZfD Server を更新してから DeFrame を更新するまでの間 DeFrame 2.01 を継続して管理できるように、DeFrame 2.01 スナップインが格納されている ConsoleOne ディレクトリをバックアップすることをお勧めします。

ZfD 3.2 から ZfD 4.0.1 にアップグレードする手順については、『ZENworks for Desktops 4 Upgrade Guide』の「Upgrading from ZfD 3.x to ZfD 4.x」を参照してください。

2. **DeFrame ユーザワークステーション** DeFrame ワークステーションソフトウェアには、DeFrame クライアント、ICA Web クライアント、RDP Web クライアント、DeFrame Web ブラウザプラグインが含まれます。ZfD 4.0.1 DeFrame ワークステーションソフトウェアは DeFrame 2.01 ターミナルサーバと互換性があるため、ユーザはワークステーションをアップグレードしてからターミナルサーバをアップグレードするまでの間、DeFrame アプリケーションに継続してアクセスできます。

別の順序 :DeFrame ワークステーションソフトウェアは、ZfD ソフトウェアをアップグレードする (手順 1) 前にアップグレードできます。ただし、ZfD ソフトウェアを最初にアップグレードすると、Novell Application Launcher と定義済みの OnDemand Client アプリケーションオブジェクトを使用してワークステーションソフトウェアを配布できます。また、ZfD 3.2 Novell Application Launcher を使用することによってもワークステーションソフトウェアを配布できますが、この場合はアプリケーションオブジェクトを作成する必要があります。

別の順序 :DeFrame ワークステーションソフトウェアを、DeFrame ターミナルサーバのアップグレード (手順 3) と同時にアップグレードできます。このアップグレード順序は、ZENworks OnDemand Services 2 を使用している場合に可能です。OnDemand Services 2 は、DeFrame ターミナルサーバのアップグレードと同時にアップグレードする必要があります。したがって、OnDemand Services をアップグレードしてからワークステーションソフトウェアをアップグレードすることによって、新しい OnDemand Services ポータルを使用して、ワークステーションソフトウェアを自動的に配布できます。

ワークステーションソフトウェアのアップグレード手順については、[45 ページの「ワークステーションのアップグレード」](#)を参照してください。

3. **DeFrame ターミナルサーバ** : DeFrame ターミナルサーバをアップグレードするには、1) ターミナルサーバユーザアカウント管理に必要な ZfD DLU(ダイナミックローカルユーザ)ポリシーを確立し、2)DeFrame eDirectory スキーマおよびオブジェクトをアップグレードして、3) 新しい DeFrame ターミナルサーバソフトウェアをインストールする必要があります。詳細については、[47 ページの「ターミナルサーバのアップグレード」](#)を参照してください。

アプリケーションを配布するために ZENworks OnDemand Services 2 を使用している場合は、DeFrame ターミナルサーバのアップグレードと同時に、OnDemand Services 2 ポータルを ZENworks 6 Web Self-Service にアップグレードする必要があります。アップグレードしないと、負荷分散機能が動作しなくなります。

アップグレード中に現在のポータルを維持できるため、新しいポータルを準備している間でもユーザは継続してアプリケーションにアクセスできます。新しいポータルの準備が完了すると、DeFrame ターミナルサーバをアップグレードして、新しいポータルに切り替えることができます。OnDemand Services ポータルソフトウェアのアップグレード手順については、[ZENworks 6 Documentation Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/japanese/zenworks6\)](http://www.novell.com/documentation/japanese/zenworks6)にある『Web Self-Service』アップグレードマニュアルを参照してください。

ソフトウェア要件

DeFrame が ZfD 4.0.1 のコンポーネントになったため、一部のソフトウェア要件が少し変更されました。次の節を参照して、使用している環境が要件を満たしていることを確認してください。

- ◆ [43 ページの「ターミナルサーバの要件」](#)
- ◆ [43 ページの「クライアントワークステーションの要件」](#)
- ◆ [44 ページの「ディレクトリサービスの要件」](#)
- ◆ [44 ページの「Novell iFolder の要件 \(オプション\)」](#)

ターミナルサーバの要件

Windows ターミナルサーバの最低要件は次のとおりです。

ソフトウェア	最低要件
オペレーティングシステム	Service Pack 2 が適用された Windows 2000 Server（最新の Service Pack を推奨）。
Windows ターミナルサーバ	Windows 2000 Server オペレーティングシステムでサポートされているバージョン。
Novell Client	Novell Client 4.83（またはそれ以降）for Windows NT/2000。
ZENworks for Desktops Management Agent	ZENworks for Desktops 4.0.1。 すべての Management Agent コンポーネントをインストールできます。ただし、DeFrame サポートするために必要なコンポーネントは、Application Management コンポーネントと Workstation Management コンポーネントだけです。Application Management コンポーネントと Workstation Management コンポーネントをインストールするには、ZfD Management Agent のインストールプログラムを使用します。ZfD Management Agent のインストールプログラムを実行すると、DeFrame ソフトウェアもインストールされます。
Internet Explorer	Service Pack 2 が適用された Internet Explorer 5.5（最新の Service Pack を推奨）。IE 5.5 は、DeFrame では必要ありませんが、ZfD Management Agent のインストールプログラムで必要になります。
Citrix MetaFrame（オプション）	Citrix MetaFrame を使用する場合は最低要件は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">◆ Service Pack 3 が適用された Citrix MetaFrame 1.8。最新の Service Pack およびホットフィックスを適用することをお勧めします。最新の Service Pack およびホットフィックスは、Citrix の Web サイト (http://www.citrix.com) からダウンロードできます。または、◆ Citrix MetaFrame XP Feature Release 2 (FR2)。最新の Service Pack およびホットフィックスを適用することをお勧めします。最新の Service Pack およびホットフィックスは、Citrix の Web サイト (http://www.citrix.com) からダウンロードできます。

クライアントワークステーションの要件

DeFrame ターミナルサーバからシンクライアントアプリケーションを実行するワークステーションの最低要件は次のとおりです。

ソフトウェア	最低要件
オペレーティングシステム	最低要件は、ZENworks for Desktops 4.0.1 の場合と同様に次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">◆ Windows 98 SE◆ SP6a が適用された Windows NT 4.0 Workstation◆ SP2 が適用された Windows 2000 Professional◆ Windows XP Professional

ソフトウェア	最低要件
Novell Client	<p>最低要件は、ZENworks for Desktops 4.0.1 の場合と同様に次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> Novell Client for Windows 95/98 (バージョン 3.31 以降) Novell Client for Windows NT/2000/XP (バージョン 4.81 以降) <p>注: Zfd Middle Tier Server を使用している場合、Novell Client は必要ありません。</p>
ZENworks for Desktops Management Agent	<p>ZENworks for Desktops 4.0.1。すべての Management Agent コンポーネントをインストールできます。ただし、DeFrame をサポートするために必要なコンポーネントは、Application Management コンポーネントと Workstation Management コンポーネントだけです。</p> <p>注: ZENworks OnDemand Services ポータルからのみ DeFrame シンククライアントアプリケーションを起動する場合、Management Agent は必要ありません。OnDemand Services ポータルは、ZENworks 6 スイートに含まれています。Management Agent が必要になるのは、1) Novell Application Launcher から DeFrame シンククライアントアプリケーションを起動する場合、または 2) OnDemand Services ポータルから Zfd デスクトップアプリケーションを起動する場合のみです。</p>

ディレクトリサービスの要件

DeFrame は、ディレクトリサービスとして Novell eDirectory を使用します。Zfd Server のインストールプログラムを実行すると、DeFrame オブジェクトをサポートするために eDirectory スキーマが拡張され、ConsoleOne で使用する DeFrame スナップインがインストールされます。

DeFrame は、Novell Client を経由して eDirectory にアクセスします。Novell Client は、各ターミナルサーバにインストールする必要があります ([43 ページの「ターミナルサーバの要件」](#)を参照)。ターミナルサーバに eDirectory をインストールする必要はありません。

ソフトウェア	最低要件
eDirectory	バージョン 8.5。Zfd の場合と同様に、8.6.2 以降を使用することをお勧めします。
ConsoleOne	バージョン 1.3.2。Zfd の場合と同様に、バージョン 1.3.5 以降 (<i>ZENworks for Desktops Companion</i> CD または <i>ZENworks 6 Companion 1</i> CD に含まれています) を使用することをお勧めします。

Novell iFolder の要件 (オプション)

Novell iFolder を使用すると、シンククライアントアプリケーションからファイルを 1 つまたは複数のネットワークストレージに保存することができます。DeFrame は、ユーザがアプリケーションを起動したときにネットワークストレージを利用可能な状態にし、ユーザがアプリケーションを終了したときにユーザのアクセスを削除します。ユーザが DeFrame シンククライアントアプリケーションを使用していないときでもユーザがネットワークストレージを利用できるようにする場合は、ユーザのワークステーションに iFolder クライアントを標準インストールしてください。

DeFrame は、iFolder 1.x および iFolder 2.x をサポートします。

ワークステーションのアップグレード

DeFrame ワークステーションソフトウェアは、次のコンポーネントから構成されます。

- ◆ **DeFrame クライアント** : OnDemand Services Launch Item ガジェットまたは Novell Application Launcher から ZfD DeFrame シンククライアントアプリケーションを起動するために必要です。
- ◆ **ICA クライアント** : ICA クライアントセッションで ZfD DeFrame シンククライアントアプリケーションを起動するために必要です。
- ◆ **RDP クライアント** : RDP クライアントセッションで ZfD DeFrame シンククライアントアプリケーションを起動するために必要です。
- ◆ **NAL プラグイン** : OnDemand Services Launch Item ガジェットから ZfD デスクトップアプリケーションを起動するために必要です。UsageClient ファイルは NAL プラグインにも含まれます。NAL プラグインはインストールされていますが、ZENworks 6 Web Self-Service をインストールする場合のみ使用されます。

DeFrame ソフトウェアをユーザのワークステーションにインストールするには、次の複数の方法があります。

- ◆ Novell Application Launcher を使用してワークステーションソフトウェアをインストールします。詳細については、[45 ページの「Novell Application Launcher を使用してワークステーションソフトウェアをインストールする」](#)を参照してください。
- ◆ ZENworks 6 Web Self-Service をすでにインストールしている場合は、OnDemand Services Launch Item ガジェットを使用してください。ユーザが Launch Item ガジェットから DeFrame シンククライアントアプリケーションを初めて起動するときに DeFrame ソフトウェアがユーザのワークステーションにインストールされます。詳細については、[47 ページの「OnDemand Services Launch Item ガジェットを使用してワークステーションソフトウェアをインストールする」](#)を参照してください。
- ◆ ワークステーションでワークステーションのインストールプログラムを実行します。このインストールプログラムは、DeFrame ソフトウェアが必要な各ワークステーションから実行する必要があります。DeFrame ソフトウェアをインストールするユーザは、ワークステーションでのインストール権利が必要です。詳細については、[47 ページの「ワークステーションソフトウェアの手動インストール」](#)を参照してください。

Novell Application Launcher を使用してワークステーションソフトウェアをインストールする

Novell Application Launcher を使用してワークステーションソフトウェアを配布するために実行する手順は、ZfD 4.0.1 を使用しているか、または ZfD 3.2 を使用しているかによって異なります。

- ◆ [45 ページの「ZfD 4.0.1」](#)
- ◆ [46 ページの「ZfD 3.2」](#)

ZfD 4.0.1

ネットワークサーバへの ZfD 4.0.1 Server ソフトウェアのインストール時に、インストールプログラムによって、OnDemand Client アプリケーションオブジェクトが ZfD Server オブジェクトと同じ eDirectory コンテナに作成されます。

OnDemand Client アプリケーションオブジェクトは、ワークステーションのセットアッププログラムを 1 回だけ実行するように設定されます。このセットアッププログラムでは、ユーザはさまざまなクライアント (DeFrame クライアント、ICA クライアント、RDP クライアント、および NAL プラグイン) のインストールを確認する必要があります。ユーザは、インストールパスなどの設定情報を指定する必要はありません。セットアッププログラムを 1 回だけ手動で実行して、ユーザが行う操作を確認することができます。

OnDemand Client アプリケーションオブジェクトの使用例は次のとおりです。

- ◆ OnDemand Client アプリケーションオブジェクトをユーザに直接関連付けることができます。この場合、ユーザは OnDemand Client アプリケーションオブジェクトを起動してセットアッププログラムを実行する必要があります。アプリケーションオブジェクトをユーザに関連付ける詳細については、『ZENworks for Desktops 4 管理ガイド』の「Application Management」の「ユーザまたはワークステーションへのアプリケーションの配布」を参照してください。
- ◆ OnDemand Client アプリケーションオブジェクトを DeFrame シンククライアントアプリケーションオブジェクト (または、ファイルを実際にインストールする場合は任意のタイプのアプリケーションオブジェクト) のアプリケーション依存関係として割り当てることができます。OnDemand Client アプリケーションオブジェクトをシンククライアントアプリケーションの依存関係にすると、ユーザがいずれかのシンククライアントアプリケーションを初めて起動したときにセットアッププログラムが実行されます。アプリケーション依存関係の設定に関する詳細については、『ZENworks for Desktops 4 管理ガイド』の「Application Management」の「アプリケーションの依存関係とチェーンの設定」を参照してください。

ZfD 3.2

ZfD 4.0.1 をまだインストールしていない場合は、OnDemand Client アプリケーションオブジェクトを作成して、ワークステーションソフトウェアを配布することができます。この場合は、次の手順に従ってください。

- 1 次のいずれかの場所に setup.exe ファイルがあることを確認します。
 - ◆ ZENworks for Desktops 4.0.1 Companion CD の ¥DFWorkstationSetup ディレクトリ
 - ◆ ZENworks 6 Web Self-Service Program CD の ¥WorkstationSetup ディレクトリ
- 2 setup.exe ファイルを次に示す ZfD 3.2 サーバのいずれかの場所にコピーします。
 - ◆ ¥zenworks¥ondemand¥setup
 - ◆ ¥public¥zenworks¥thinclnt¥setupondemand¥setup ディレクトリまたは thinclnt¥setup ディレクトリを作成する必要があります。

注：これらのディレクトリを使用する必要はありません。これらのディレクトリには、サーバを ZfD 4.0.1 にアップグレードするときに setup.exe ファイルがインストールされます。ただし、setup.exe は、ユーザが読み取り権利およびファイルスキャン権利 (または、同等の Windows の権利) を持っているネットワークディレクトリにコピーすることができます。
- 3 次のいずれかの場所に ondemandclient.aot ファイルがあることを確認します。
 - ◆ ZENworks for Desktops 4.0.1 Companion CD の ¥zenworks¥aot ディレクトリ
 - ◆ ZENworks 6 Desktop Management Program CD の ¥zenworks¥aot ディレクトリ
- 4 ondemandclient.aot ファイルを使用して、ConsoleOne で OnDemand Client アプリケーションオブジェクトを作成します。次のことに注意してください。

- setup.exe プログラムを参照するように、[Source Path] フィールド（または、SOURCE_PATH マクロ）を変更します。
- アプリケーションオブジェクトを適切なユーザに関連付けます。

デフォルトでは、OnDemand Client アプリケーションオブジェクトは、ワークステーションのセットアッププログラムを 1 回だけ実行するように設定されます。このセットアッププログラムでは、ユーザはさまざまなクライアント (DeFrame クライアント、ICA クライアント、RDP クライアント、および NAL プラグイン) のインストールを確認する必要があります。ユーザは、インストールパスなどの設定情報を指定する必要はありません。セットアッププログラムを 1 回だけ手動で実行して、ユーザが行う操作を確認することができます。

OnDemand Services Launch Item ガジェットを使用してワークステーションソフトウェアをインストールする

ZENworks 6 Web Self-Service をすでにインストールしている場合は、ユーザがシンクライアントアプリケーションを最初に起動したときに、Launch Item ガジェットによってワークステーションソフトウェアが自動的にインストールされます。詳細については、[ZENworks 6 Documentation Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/japanese/zenworks6\)](http://www.novell.com/documentation/japanese/zenworks6) にある Web Self-Service のマニュアルを参照してください。

ワークステーションソフトウェアの手動インストール

- 1 ユーザが、ユーザ自身のワークステーションにソフトウェアをインストールするのに必要な権利を持っていることを確認します。Windows 2000/XP ワークステーションの場合、ユーザは Administrator グループに属している必要があります。
- 2 次のいずれかの場所から setup.exe プログラムを実行します。
 - ZENworks for Desktops 4.0.1 Companion CD の ¥DFWorkstationSetup ディレクトリ
 - ZENworks 6 Web Self-Service Program CD の ¥WorkstationSetup ディレクトリ
 - ZfD 4.0.1 サーバの ¥zenworks¥ondemand¥setup ディレクトリ
 - ZfD 4.0.1 サーバの ¥public¥zenworks¥thinclnt¥setup ディレクトリ

ターミナルサーバのアップグレード

DeFrame ターミナルサーバをアップグレードするには、次の節に示されている作業を行います。

- [47 ページの「ターミナルサーバユーザアカウントの設定」](#)
- [55 ページの「DeFrame eDirectory スキーマおよびオブジェクトのアップグレード」](#)
- [56 ページの「ターミナルサーバソフトウェアの更新」](#)

ターミナルサーバユーザアカウントの設定

ZfD 4.0.1 DeFrame に、ローカルユーザアカウントおよび Roaming プロファイルを作成および管理する DeFrame ダイナミックユーザ (DDU) 機能が含まれなくなりました。DDU を使用している場合は、ZfD Workstation Manager および DLU (ダイナミックローカルユーザ) ポリシーを使用する必要があります。詳細については、[48 ページの「DDU から ZfD DLU ポリシーへの移行」](#)を参照してください。

DLU を使用してターミナルサーバのユーザアカウントおよびプロファイル进行管理している場合は、DLU ポリシーを変更したときに、ターミナルサーバアカウントを管理するために使用しているポリシーを再設定する必要があります。詳細については、[54 ページの「ZfD 3.2 DLU ポリシーの ZfD 4.0.1 DLU ポリシーへの移行」](#)を参照してください。

DDU から ZfD DLU ポリシーへの移行

ZfD Workstation Manager と DLU(ダイナミックローカルユーザ)ポリシーを使用して DeFrame ターミナルサーバ上のユーザアカウントまたはプロファイルを管理するためには、次の節に示されている作業を行います。

- ◆ [48 ページの「ユーザポリシーパッケージの作成」](#)
- ◆ [50 ページの「ダイナミックローカルユーザアカウントの設定」](#)
- ◆ [52 ページの「Roaming ユーザプロファイルの設定」](#)
- ◆ [53 ページの「ユーザパッケージとユーザの関連付け」](#)

重要：これらの作業を行って DLU を設定すると、ターミナルサーバで DeFrame ソフトウェアと ZfD Management Agent をアップグレードするまで DDU が引き続き使用されます ([56 ページの「ターミナルサーバソフトウェアの更新」](#)を参照)。DeFrame ソフトウェアと ZfD Management Agent のアップグレード後は、Workstation Manager と DLU ポリシーが使用されます。

ユーザポリシーパッケージの作成

ダイナミックローカルユーザアカウントと Roaming ユーザプロファイルを管理するには、ユーザポリシーパッケージに含まれる Windows 2000 ターミナルサーバポリシーを使用します。既存のユーザポリシーパッケージを使用することができます。または、Windows 2000 ターミナルサーバポリシー用の新しいユーザポリシーパッケージを作成することができます。使用するユーザポリシーパッケージがすでにある場合は、[50 ページの「ダイナミックローカルユーザアカウントの設定」](#)に進んでください。それ以外の場合は、次の手順に従ってユーザポリシーパッケージを作成します。

- 1 ConsoleOne で、ユーザポリシーパッケージオブジェクトを作成するコンテナを右クリックし、[Policy Package] をクリックして、[Policy Package Wizard] を表示します。



- 2 [Policy Packages] リストから [User Package] を選択し、[Next] をクリックします。

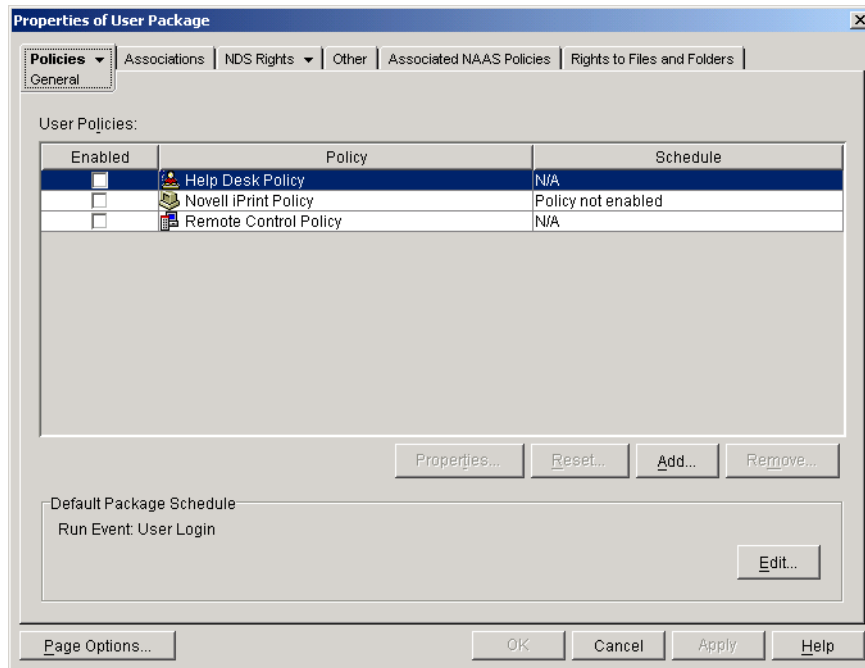


パッケージオブジェクトの名前は、パッケージオブジェクトを作成するコンテナ内で一意である必要があります。複数のユーザポリシーパッケージを作成する場合は、「Win2000 TS User Package」などのような内容がわかりやすい名前を付けることができます。または、ポリシーのユーザが属するコンテナと同じコンテナにポリシーを作成することができます。

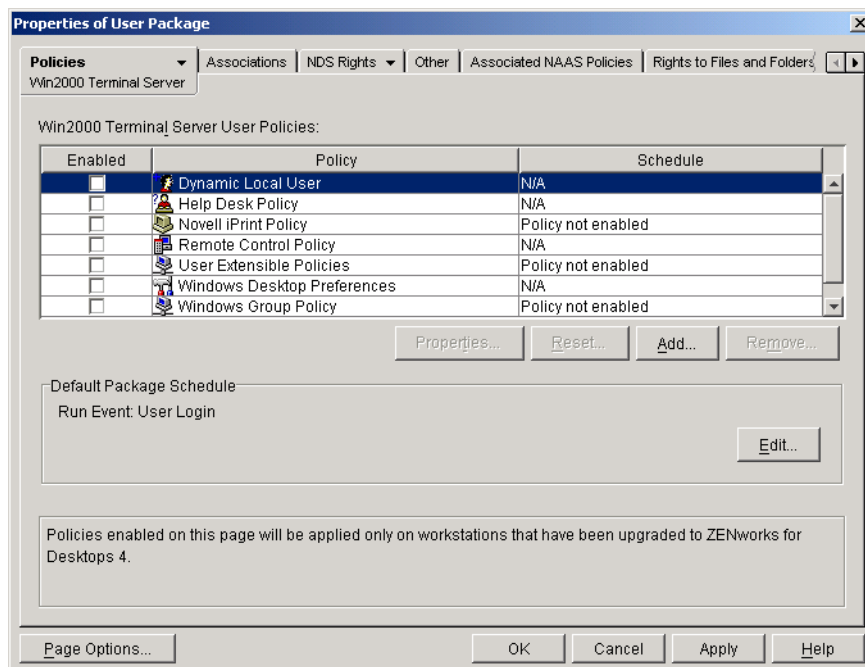
- 3 必要に応じて、パッケージのオブジェクト名と、パッケージが作成されるコンテナを変更し、[Next] をクリックします。



- 4 [Summary] ページで [Define Additional Properties] を選択し、[Finish] をクリックします。ユーザパッケージオブジェクトが作成され、オブジェクトのプロパティページが表示されます。



- 5 [Policies] タブ > [Win2000 Terminal Server] の順にクリックして、[Win2000 Terminal Server Policies] ページを表示します。

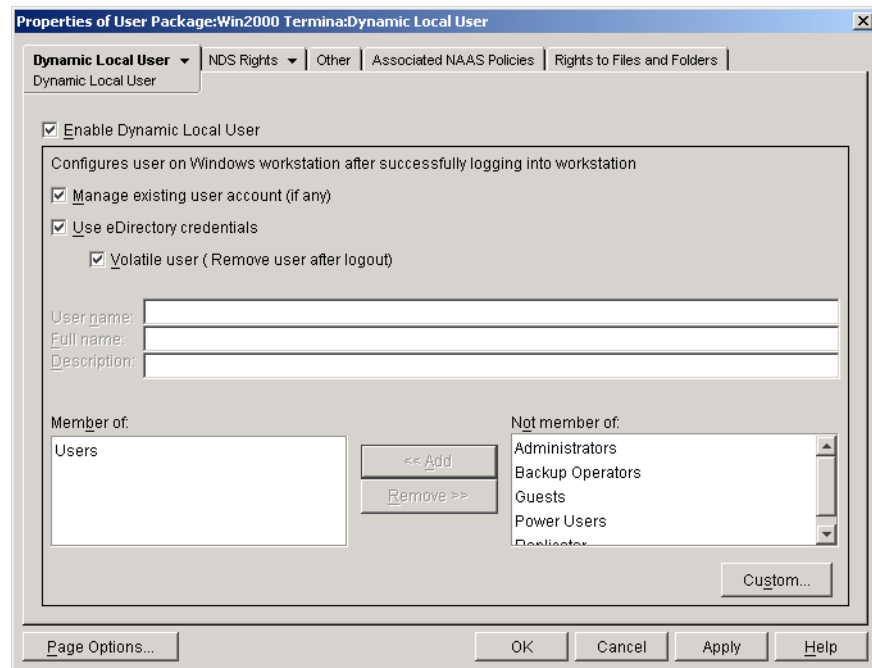


- 6 次の「ダイナミックローカルユーザアカウントの設定」に進みます。

ダイナミックローカルユーザアカウントの設定

Workstation Manager によってターミナルサーバでユーザアカウントを作成する方法を設定するには、DLU(ダイナミックローカルユーザ)ポリシーを使用します。

- 1 [Windows 2000 Terminal Server Policies] ページで、[Dynamic Local User Policy] の左側にあるチェックボックスをオンにしてポリシーを有効にします。次に、[Properties]をクリックして [Dynamic Local Users]プロパティ ページを表示します。



- 2 次のフィールドを設定します。

[Enable Dynamic Local User] : このオプションを選択すると、Workstation Manager を使用して動的にユーザアカウントを作成することができます。

[Manage Existing User Account (if any)] : Workstation Manager で DLU ポリシーを既存のユーザアカウントに適用する場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択しないと、新しいユーザアカウントのみに DLU ポリシーが適用されます。

[Use eDirectory Credentials] : このオプションを選択すると、ユーザアカウントの作成時に eDirectory のユーザ名とパスワードを使用できます。ユーザの eDirectory と Windows のアカウント情報が同期化され、コンテキストレスログインが設定されるため (56 ページの「[ターミナルサーバソフトウェアの更新](#)」を参照)、ターミナルサーバから DeFrame シンクライアントアプリケーションを起動するときにユーザはアカウント情報の入力を求められません。

[Volatile User (Remove User after Logout)] : このオプションは、ユーザがシンクライアントアプリケーションを終了し、セッションが終了された後でユーザのアカウントを削除する場合に選択します。すべてのユーザアカウント情報が削除されます。ユーザプロファイルを保持する場合は、Roaming プロファイルを設定できます。設定方法については、次の「[Roaming ユーザプロファイルの設定](#)」を参照してください。

[Member Of/Not Member Of] : [Not Member Of] リストで、ユーザが所属する 1 つまたは複数のグループを選択し、[Add] をクリックします。グループメンバーシップに基づいて、ターミナルサーバ上のユーザのアクセス権が設定されます。ユーザアカウントに割り当てるファイルシステムアクセス権が、リストに表示されたグループによって提供されていない場合は、[File Rights] ページ ([Dynamic Local User] > [File Rights] ページの順に選択) を使用できます。

3 [OK] をクリックして変更内容を保存し、[Dynamic Local Users] プロパティページを閉じます。

4 次の「**Roaming ユーザプロファイルの設定**」に進みます。

Roaming ユーザプロファイルの設定

Roaming ユーザプロファイルの設定するために使用できるポリシーには次の 2 つがあります。

- ◆ **Windows ターミナルサーバポリシー** : Windows ターミナルサーバポリシーを使用すると、Roaming ユーザプロファイルを保存するためのネットワークストレージの場所を指定できます。このポリシーを使用する利点には、1) リモートセッションまたはローカルセッションでユーザがターミナルサーバにログインする場合のみ適用される、2) クライアントセッションを制御するために使用できる他の設定が含まれる、などがあります。

ユーザプロファイルにこのポリシーを使用することは、Windows ターミナルサーバ上のユーザアカウントに関する [Terminal Services Profile] プロパティページを設定することと同じです。

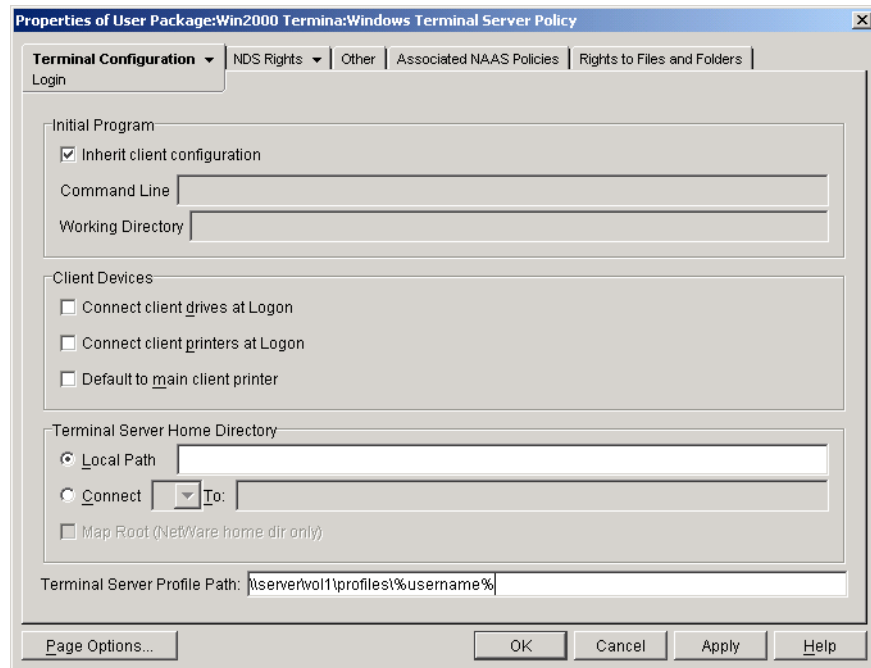
- ◆ **Windows デスクトップ初期設定ポリシー** : Windows デスクトップ初期設定ポリシーを使用すると、Roaming ユーザプロファイルを保存するためのネットワークストレージの場所を指定できます。Windows デスクトップ初期設定ポリシーは、ユーザがワークステーションまたはターミナルサーバにログインするときに必ず適用されます。したがって、ワークステーションおよびターミナルサーバで同じユーザプロファイルを使用する場合のみ使用してください。

一般的に、Roaming プロファイルを設定するためには Windows ターミナルサーバポリシーを使用することをお勧めします。両方のポリシーを使用して Roaming プロファイルを設定すると、Windows デスクトップ初期設定ポリシーで [Override Terminal Server Profile] 設定を選択しない限り、Windows ターミナルサーバポリシーの設定が使用されます。

Windows ターミナルサーバポリシーを設定する手順を次に示します。Windows デスクトップ初期設定ポリシーを使用する場合は、『ZENworks for Desktops 4 管理ガイド』の「**Workstation Management**」の「**ポリシーパッケージの作成とポリシーのセットアップ**」の「**ユーザパッケージのポリシーのセットアップ**」を参照してください。

Windows ターミナルサーバポリシーを作成するには、次の手順に従ってください。

- 1 [Windows 2000 Terminal Server Policies] ページで、[Windows Terminal Server Policy] の左側にあるチェックボックスをオンにしてポリシーを有効にします。次に、[Properties] をクリックしてポリシーのプロパティページを表示します。
- 2 [Terminal Configuration] タブをクリックし、[Login] をクリックして [Login] ページを表示します。



3 [Inherit Client Configuration] オプションをオンにします。

重要： このオプションを有効にしない場合は、ユーザによる DeFrame シンククライアントアプリケーションの起動時に、起動されたアプリケーションではなくターミナルサーバのデスクトップに対してセッションが開始されます。

4 [Terminal Server Profile Path] フィールドに、プロファイルを設定するネットワーク上の場所を示すパスを入力します。次のことに注意してください。

- %username% 変数を使用して、各ユーザのプロファイルがそれぞれ別のディレクトリに保存されるようにします。たとえば、次のように指定します。

`\\server\vol1\profiles\%username%`

このパスを使用すると、ユーザ jsmith のプロファイルは、次の場所に保存されます。

`\\server\vol1\profiles\jsmith`

- ユーザのディレクトリがすでに存在していることを確認します。この例では、jsmith のプロファイルが保存される `\\server\vol1\profiles\jsmith` がすでに存在している必要があります。
- ユーザがユーザ自身のプロファイルディレクトリへのアクセス権を持っていることを確認します。プロファイルディレクトリが NetWare サーバ上にある場合は、eDirectory を使用してアクセス権を割り当てることができます。プロファイルディレクトリが Windows サーバ上にある場合は、ユーザの Windows アカウントを使用してアクセス権を割り当てる必要があります。

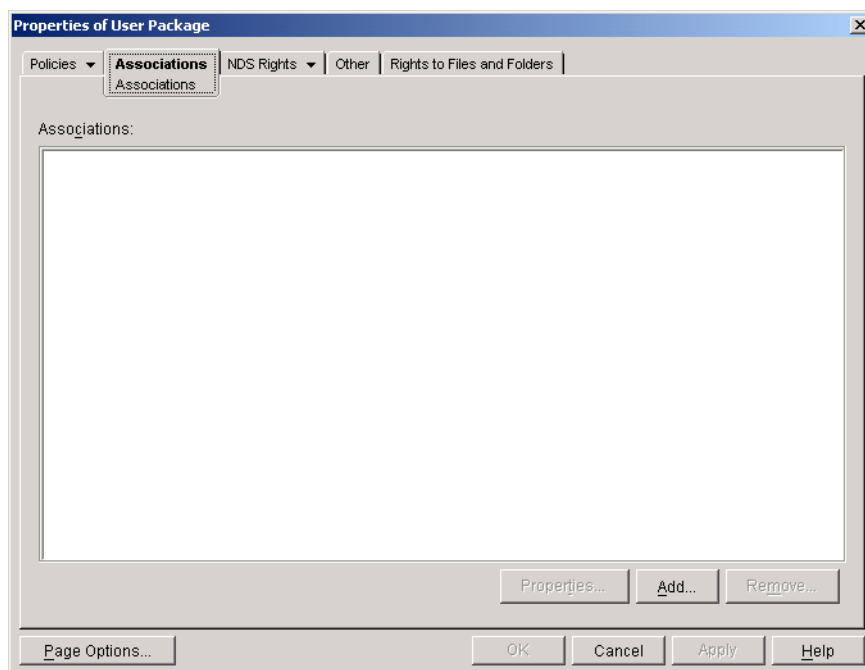
5 [OK] をクリックして変更内容を保存し、[Windows Terminal Server] プロパティページを閉じます。

6 次の「ユーザパッケージとユーザの関連付け」に進みます。

ユーザパッケージとユーザの関連付け

ユーザポリシーパッケージは、有効にする前にユーザと関連付ける必要があります。

- 1 ユーザパッケージオブジェクトのプロパティページが表示されていない場合は、[User Package] を右クリックし、[Properties] をクリックします。
- 2 [Associations] タブをクリックして [Associations] ページを表示します。



- 3 [Add] をクリックし、ポリシーパッケージを適用するユーザを参照して選択します。ユーザ、ユーザグループ、またはコンテナを追加できます。
- 4 ユーザを追加したら、[OK] をクリックして情報を保存します。

ZfD 3.2 DLU ポリシーの ZfD 4.0.1 DLU ポリシーへの移行

ZfD 3.2 では、ダイナミックローカルユーザアカウントおよびユーザポリシーを設定するために次の 2 つのポリシーを使用することができました。

- ◆ WinNT-2000-XP DLU ポリシー
- ◆ WinNT-2000-XP Windows ターミナルサーバポリシー

WinNT-2000-XP ポリシーは、ユーザが Windows 2000 ターミナルサーバにログインしたときだけではなく、Windows NT/2000/XP ワークステーションにログインしたときにもユーザに適用されていました。

ZfD 4.0.1 では、ワークステーション上のユーザとターミナルサーバ上のユーザに対してそれぞれ異なる設定を割り当てるために、DLU ポリシーと Windows ターミナルサーバポリシーを含む Win2000 ターミナルサーバポリシーが追加されました。

ユーザがターミナルサーバにログインすると、ZfD 4.0.1 Workstation Manager は Win2000 ターミナルサーバポリシーを参照し、WinNT-2000-XP ポリシーを無視します。したがって、WinNT-2000-XP DLU および Windows ターミナルサーバポリシーの設定を Win2000 ターミナルサーバポリシーに移行する必要があります。この場合は、**50 ページの「ダイナミックローカルユーザアカウントの設定」と 52 ページの「Roaming ユーザプロファイルの設定」**で示された手順に従うことをお勧めします。新しい Win2000 DLU および Windows ターミナルサーバポリシーを設定する場合は、必要に応じて、現在の WinNT-2000-XP DLU および Windows ターミナルサーバポリシーを参照します。

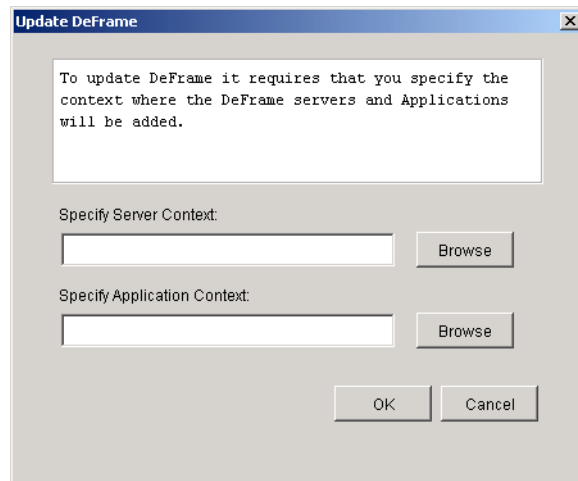
DeFrame eDirectory スキーマおよびオブジェクトのアップグレード

ネットワークサーバへの ZfD Server ソフトウェアのインストール時に、ConsoleOne で使用される ZfD DeFrame スナップインがインストールされます。ターミナルサーバに DeFrame ソフトウェアをインストールする前に、ConsoleOne から DeFrame 有効化ウィザードを実行する必要があります。有効化ウィザードでは次の作業を行うことができます。

- ◆ DeFrameサーバおよびDeFrameアプリケーションで使用するコンテナを指定します。
- ◆ 既存の DEFAULT_REG オブジェクトおよび PASS_ADMIN オブジェクトを更新して、DEFAULT_REG オブジェクトが特定の DeFrame サーバコンテナおよび DeFrame アプリケーションコンテナを示すようにします。
- ◆ DeFrame シンククライアントアプリケーションに対するアプリケーションオブジェクトの設定時に使用された属性をクリーンアップします。属性が変更されているため、OnDemand Services 2 ガジェットを使用している場合、OnDemand Services 2 を ZENworks 6 Web Self-Service にアップグレードするまで、ユーザは DeFrame シンククライアントアプリケーションを起動できません。

DeFrame eDirectory スキーマおよびオブジェクトを更新するには、次の手順に従ってください。

- 1 Windows ワークステーションで、ZfD 4.0.1 サーバから ConsoleOne を起動します。
ローカルのワークステーションに ZfD Server の ConsoleOne ディレクトリをコピーしている場合は、ローカルのディレクトリから ConsoleOne を起動できます。
- 2 ConsoleOne で、[Tools] > [DeFrame Tools] > [Activate DeFrame] の順にクリックして、[Update DeFrame] ダイアログボックスを表示します。



- 3 次のフィールドに情報を入力します。

[Server Context] : このフィールドに入力された情報は、DEFAULT_REG オブジェクトの [DeFrame Server Container] フィールドに入力されます。新しい DeFrame ターミナルサーバに DeFrame ソフトウェアをインストールし、DeFrame ソフトウェアを起動すると、ターミナルサーバを示す DeFrame サーバオブジェクトがこのコンテナに作成されます。既存の DeFrame サーバオブジェクトが存在するコンテナを指定します。この結果、現在の DeFrame サーバオブジェクトが存在するコンテナに新しい DeFrame サーバオブジェクトが作成され、コンテナへの適切なアクセス権が PASS_ADMIN オブジェクトに割り当てられます。

[Application Context] : このフィールドに入力された情報は、DEFAULT_REG オブジェクトの [DeFrame Application Container] フィールドに入力されます。DeFrame Published Application Synchronization ユーティリティで作成されたアプリケーションオブジェクトは、このコンテナに作成されます。既存の DeFrame アプリケーションオブジェクトが存在するコンテナを指定します。DeFrame Published Application Synchronization ユーティリティを使用すると、Citrix Published Application Manager ユーティリティのアプリケーションを eDirectory にインポートできます。このユーティリティに関する詳細については、[78 ページの「DeFrame Published Application Synchronization ユーティリティを使用してアプリケーションオブジェクトを作成する」](#)を参照してください。

- 4 [OK] をクリックして DeFrame スキーマおよびオブジェクトを更新します。

ターミナルサーバソフトウェアの更新

DeFrame 有効化ウィザードを使用して DeFrame eDirectory スキーマおよびオブジェクトを更新すると、DeFrame ターミナルサーバは、DeFrame ソフトウェアをアップグレードするまで動作しません。

ZfD Management Agent のインストールプログラムを実行すると、DeFrame ソフトウェアがターミナルサーバにインストールされます。ZfD Management Agent のインストールプログラムは、DeFrame ソフトウェアをアップグレードする既存の各 DeFrame ターミナルサーバで実行する必要があります。

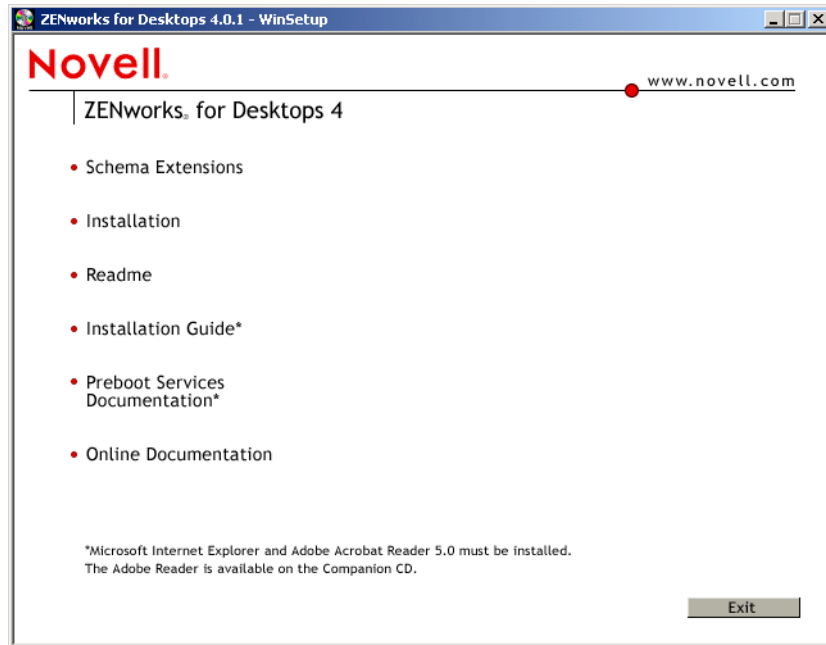
- 1 バージョン 4.83 以降の Novell Client がターミナルサーバにインストールされていることを確認します。
- 2 DeFrame を有効化した eDirectory ツリーにログインし、そのツリーがプライマリツリーであることを確認します。

正しいプライマリツリー接続を設定するには、タスクバーのステータス領域にある [N] アイコンを右クリックし、[NetWare Connections] をクリックして、正しいツリーを選択します。次に、[Set Primary] をクリックします。

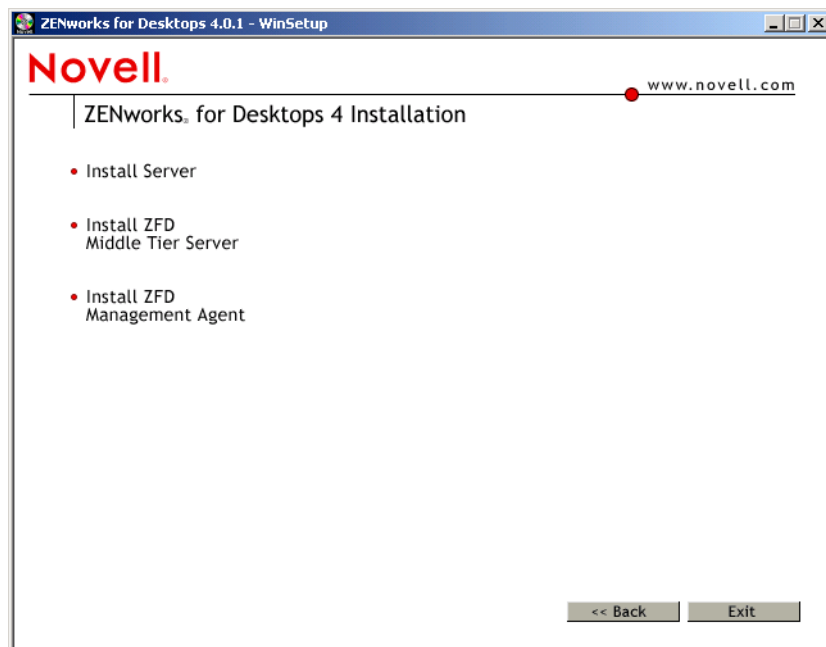
- 3 ターミナルサーバで、*ZENworks for Desktops Program* CD または *ZENworks 6 Desktop Management Program* CD を CD-ROM ドライブに挿入します。winsetup.exe プログラムが自動的に実行されます。プログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから手動で実行します。

注 : ZfD Management Agent のインストールプログラムは、Microsoft Windows Installer パッケージ (zfdagent.msi) です。インストールプログラムは、ZfD の winsetup.exe プログラムから起動する以外に、*ZENworks for Desktops Program* CD の agentinstall¥english ディレクトリ、*ZENworks 6 Desktop Management Program* CD の agentinstall¥english ディレクトリ、または ZfD Server の public¥zenworks¥zfdagent¥english ディレクトリから直接起動できます。インストールプログラムを ZfD の winsetup.exe プログラム以外から起動する場合は、[ステップ 7](#)に進んでください。

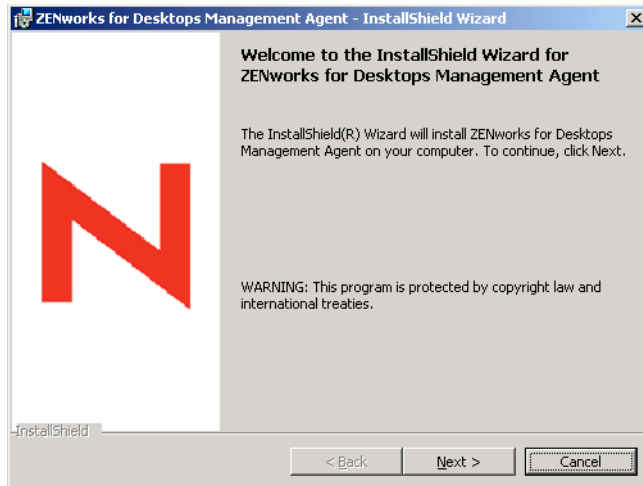
- 4 [English] をクリックして ZfD メインインストールページを表示します。



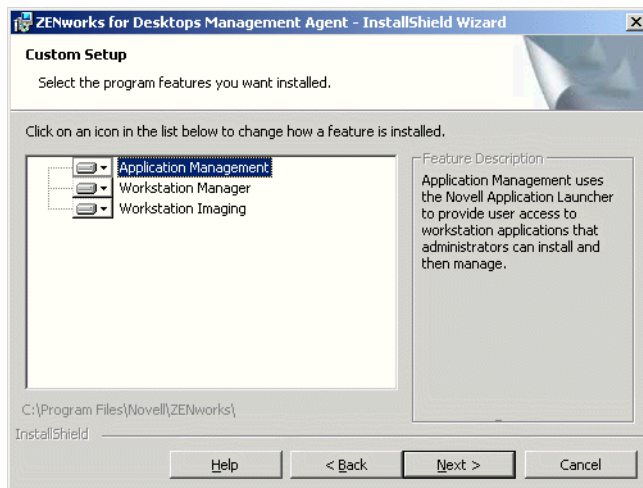
5 [Installation] をクリックして ZfD インストールオプションページを表示します。



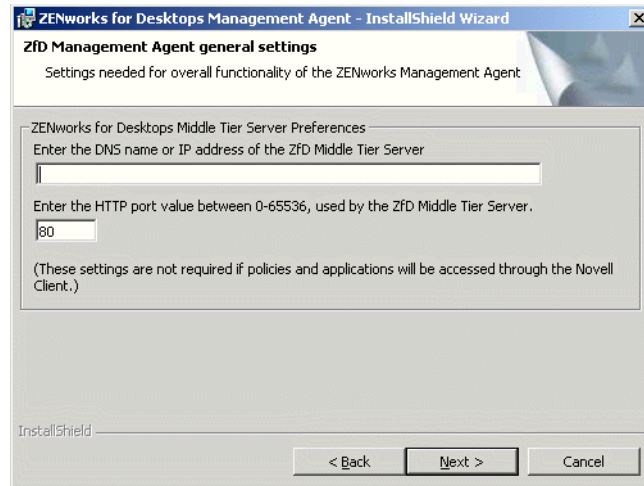
6 [Install ZfD Management Agent] をクリックしてインストールプログラムを起動します。



- 7 最初のページの内容を読み、[Next] をクリックします。
- 8 使用許諾契約を読みます。使用許諾契約の内容に同意する場合は、[I Accept the Terms in the License Agreement] をクリックします。
または、
使用許諾契約の内容に同意しない場合は、[I Do Not Accept the Terms in the License Agreement] をクリックします。この結果、インストールプログラムは終了します。



- デフォルトでは、すべての機能が選択およびインストールされます。Application Management 機能と Workstation Manager は必ずインストールする必要があります。Workstation Imaging 機能はオプションです。
- 9 ターミナルサーバに Workstation Imaging をインストールしない場合は、その機能を示すアイコンをクリックし、[This Feature Will Not Be Available] を選択します。
 - 10 [Next] をクリックして [General Settings] ページを表示します。

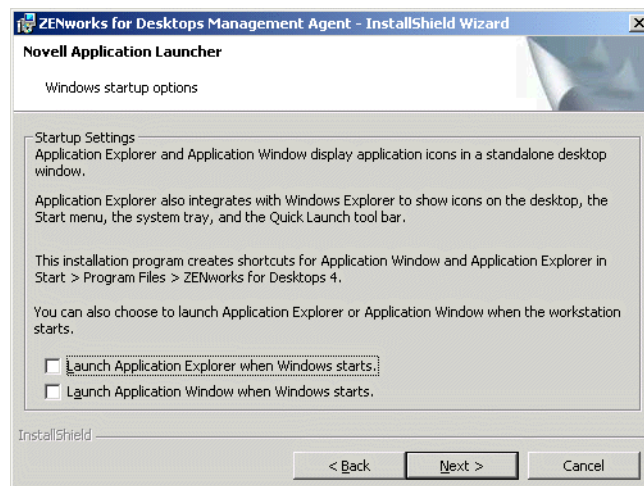


このページでは、Management Agent が Novell Client の代わりに接続する ZfD Middle Tier Server を指定します。

ユーザがこのサーバから DeFrame シンククライアントアプリケーションを実行する場合は、Middle Tier Server を指定する必要はありません。すべての eDirectory 認証は、Novell Client を使用して行われます。

Middle Tier Server を指定した場合は、ターミナルサーバで Windows ログオンを行ったすべてのユーザが、Novell Client を使用して eDirectory 認証を行わなくても Novell Application Launcher アプリケーションや Workstation Manager ポリシーにアクセスできます。

- 11 必要に応じて、[General Settings] ページで、Management Agent が接続する ZfD Middle Tier Server の DNS 名または IP アドレスを入力し、Management Agent ログオンをリスンするために Apache Web Server (NetWare) または IIS Web Server (Windows) が使用する HTTP または HTTPS のポート番号を入力して、[Next] をクリックします。



- 12 ユーザがターミナルサーバの Windows にログインするときに Novell Application Launcher を起動する場合は、起動するビュー (Application Explorer、Application Window、またはその両方) を選択し、[Next] をクリックします。

ターミナルサーバから DeFrame シンククライアントアプリケーションを起動するユーザは、この設定の影響を受けません。ターミナルサーバで Windows にログインするユーザのみが影響を受けます。

- 13** [Ready to Install Program] ページで、[Install] をクリックしてインストールを開始します。

- 14** インストールが完了したら、ターミナルサーバを再起動するオプションを選択し、[Finish] をクリックします。

DeFrame 2.01 サービス (DeFrame Access Control Service、DeFrame Watchdog Service、および DeFrame Disconnected Session Tracking Service) が、Novell ZENworks Thin-Client Application Service (zentcas.exe) という 1 つのサービスに統合されました。デフォルトでは、サーバの起動時に ZENworks Thin-Client Application Service が自動的に起動するように設定されます。

- 15** サービスを手動で起動するには、次の手順に従ってください。

- 15a** [スタート] メニュー > [設定] > [コントロールパネル] > [管理ツール] > [サービス] の順にクリックします。

- 15b** [Novell ZENworks Thin-Client Application Service] をダブルクリックします。

- 15c** [開始] をクリックします。

- 15d** [OK] をクリックします。

- 16** [サービス] ウィンドウに Workstation Manager サービスが表示されているかどうかをチェックすることによって、Workstation Manager がインストールされターミナルサーバで実行されていることを確認します。

- 16a** ターミナルサーバで、[スタート] メニュー > [設定] > [コントロールパネル] > [Network Identity] の順にクリックします。

- 16b** [Novell Network Identity] ダイアログボックスの [Settings] をクリックします。

- 16c** [Enable Workstation Manager] チェックボックスがオンに設定され、ツリーが正しく設定されていることを確認します。

eDirectory ツリーが複数ある場合は、ユーザオブジェクトが属する eDirectory ツリーを Workstation Manager が参照するように設定します。

- 16d** (オプション) Windows のレジストリで、HKEY_LOCAL_MACHINE/SOFTWARE/NOVELL/Workstation Manager/Identification キーにある Tree 値を確認します。

コンテキストレスログインの設定

シンククライアントアプリケーションを起動するプロセスを簡略化するために、DeFrame にはコンテキストレスログインが用意されています。コンテキストレスログインを使用すると、ユーザはシンククライアントアプリケーションの起動時にユーザ名とパスワードを入力するよう求められません。ただし、ユーザの eDirectory アカウントと Windows ユーザアカウントのユーザ名とパスワードが同じである必要があります。

コンテキストレスログインを使用している場合は、コンテキストレスログインは引き続き動作します。コンテキストレスログインを使用していない場合、あるいはターミナルサーバでの DeFrame ソフトウェアまたは ZfD Management Agent ソフトウェアのアップグレード後にコンテキストレスログインが動作しなくなった場合は、次の手順に従ってください。

- 1 ターミナルサーバの [クライアント提供のログオン情報を使う] 設定をオンにし、[常にパスワードの入力を求める] 設定をオフにします。
 - 1a ターミナルサーバで、[スタート] メニュー > [プログラム] > [管理ツール] > [ターミナル サービス構成] の順にクリックします。
 - 1b 接続タイプ (デフォルトは RDP-Tcp) を強調表示し、プロパティを入力するためにダブルクリックします。
 - 1c [ログオン設定] タブで、[クライアント提供のログオン情報を使う] 設定をオンにし、[常にパスワードの入力を求める] 設定をオフにします。
 - 1d 各接続タイプに対して同じ手順を繰り返します。
- 2 ターミナルサーバの Novell Client 用のデフォルトプロファイルを設定します。
 - 2a ターミナルサーバで、タスクバーのステータス領域にある Novell アイコン ([N] アイコン) を右クリックし、[Novell Client Properties] をクリックします。
 - 2b [Location Profiles] タブをクリックします。
 - 2c [Location Profiles] リストで、[Default] を選択し、[Properties] をクリックして、[Location Profiles Properties] ダイアログボックスを表示します。
 - 2d [Service] リストから [Login Service] を選択し、[Service Instance List] から [Default] を選択します。次に、[Properties] をクリックして [Novell Login] ダイアログボックスを表示します。
 - 2e [Save Profile After Successful Login] オプションをオフにします。
 - 2f [NDS] タブをクリックします。
 - 2g [Tree] フィールドで、シンクライアントアプリケーションがアプリケーションオブジェクトとして設定されている eDirectory ツリーを選択します。
 - 2h [Context] フィールドおよび [Server] フィールドからすべての情報を削除します。
 - 2i 設定内容を保存するには、[OK] をクリックしてすべてのダイアログボックスを閉じます。
- 3 ターミナルサーバが Active Directory ドメインコントローラ (メンバーサーバまたはワークグループサーバではなく) である場合は、ターミナルサーバの DeFrame サーバオブジェクトでサーバ名ではなくドメイン名を指定します。

コンテキストレスログイン時には、eDirectory と Windows ターミナルサーバにログインするためにこのユーザ名とパスワードが使用されます。ユーザ名とパスワード以外に、Windows ターミナルサーバログインでは、ドメイン名とサーバ名が必要です (Windows Workstation のログインダイアログボックスの [From] フィールドに指定)。DeFrame サーバオブジェクトの作成時に、サーバ名がオブジェクトに指定されます。ターミナルサーバがドメインコントローラである場合は、ドメイン名が必要です。ドメイン名を変更するには、次の手順に従ってください。

 - 3a ConsoleOne で、DeFrame サーバオブジェクトを右クリックし、[Properties] をクリックして、DeFrame サーバオブジェクトのプロパティページを表示します。
 - 3b [DeFrame Server Environment] タブをクリックして [Environment] ページを表示します。
 - 3c [Domain] フィールドに、ターミナルサーバのドメインを入力します。
 - 3d [OK] をクリックして変更内容を保存します。

IV

管理

- 65 ページの第 5 章「DeFrame ユーザとしてユーザを有効化する」
- 69 ページの第 6 章「ターミナルサーバユーザアカウントの管理」
- 77 ページの第 7 章「シンクライアントアプリケーションの配布」
- 85 ページの第 8 章「負荷分散の設定」
- 91 ページの第 9 章「切断されたセッションの管理」
- 93 ページの第 10 章「ZENTCAS サービスのログ機能の制御」
- 95 ページの第 11 章「Novell iFolder によるファイル保存のセットアップ」
- 99 ページの第 12 章「Citrix Secure Gateway によるアプリケーションアクセスのセットアップ」
- 103 ページの第 13 章「ファイアウォールを経由するアプリケーションアクセスのセットアップ」
- 107 ページの第 14 章「ターミナルサーバからの DeFrame の削除」

5

DeFrame ユーザとしてユーザを有効化する

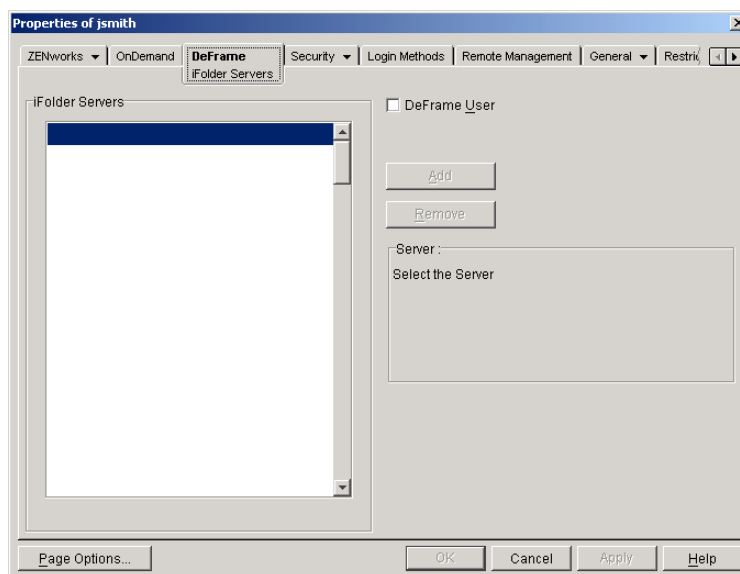
Novell® Application Launcher™ から DeFrame™ シンククライアントアプリケーションを起動する前に、ユーザを DeFrame ユーザとして設定する必要があります。

インストール時に有効化しなかったユーザは、次のいずれかの方法に従って有効化できます。

- ◆ ConsoleOne® を使用してユーザを手動で有効化します。各ユーザは、別々に設定する必要があります。次の「[ConsoleOne を使用してユーザを有効化する](#)」を参照してください。
- ◆ DeFrame¥OnDemand User Configuration ユーティリティを使用して、複数のユーザを同時に有効化します。[66 ページの「DeFrame¥OnDemand User Configuration ユーティリティを使用してユーザを有効化する」](#)を参照してください。
- ◆ ZENworks OnDemand Services™ (ZENworks 6 スイートの Web Self-Service に含まれています) を使用している場合は、ユーザが OnDemand Services Launch Item ガジェットから初めてアプリケーションを起動するときに、このガジェットによって自動的に DeFrame ユーザとして有効化されます。ユーザは、Launch Item ガジェットからアプリケーションを起動すると、Novell Application Launcher からシンククライアントアプリケーションを起動できます。

ConsoleOne を使用してユーザを有効化する

- 1 ConsoleOne で、ユーザオブジェクトを右クリックし、[Properties] をクリックしてユーザオブジェクトのプロパティページを表示します。
- 2 [DeFrame] タブをクリックし、[iFolder Servers] ページを表示します。



3 [DeFrame User] ボックスをクリックしてユーザを有効化します。

4 [OK] をクリックして変更内容を保存します。

DeFrame¥OnDemand User Configuration ユーティリティを使用してユーザを有効化する

DeFrame¥OnDemand User Configuration ユーティリティを使用すると、次の作業を行うことができます。

- ◆ ユーザオブジェクトに適切な補助クラスを追加し、ユーザオブジェクトの [DeFrame] ページの [DeFrame User] 設定をオンにすることによって、ユーザを DeFrame ユーザとして有効化します。
- ◆ ZENworks OnDemand Services ApprovalFlow™ で必要なコストセンターおよびアカウント ID を設定します。ZENworks OnDemand Services は、ZENworks 6 スイートの一部として ZENworks for Desktops を取得した場合のみ利用できます。

この Java ベースのユーティリティは、ZENworks for Desktops 4.0.1 Companion CD および ZENworks 6 Companion 1 CD に含まれています。このユーティリティを使用するには、サーバまたはワークステーションにユーティリティをインストールする必要があります。また、このユーティリティは、Java Runtime Engine (JRE) がインストールされている Windows ワークステーション / サーバから実行する必要があります。

- 1 ZENworks for Desktops 4.0.1 Companion CD の odusrcfg ディレクトリ（または、ZENworks 6 Companion 1 CD の zenworksfordesktops¥odusrcfg ディレクトリ）のファイルをサーバまたはワークステーションのディレクトリにコピーします。

これらのファイルは、サーバまたはワークステーションの任意のディレクトリにコピーできます。たとえば、ConsoleOne ディレクトリにコピーします。

- 2 JRE がインストールされている Windows ワークステーション / サーバから、該当するディレクトリの odusrcfg.bat を実行して [OnDemand User Configuration Utility Introduction] ページを表示します。

- 3 [Next] をクリックして [Novell eDirectory Authentication] ページを表示します。

- 4 次のフィールドに情報を入力します。

[LDAP Server Hostname or IP Address] : eDirectory へのアクセスを提供する LDAP サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。LDAP サーバのポート番号が 389 でない場合は、ポート番号を指定します。

[Admin Name] : LDAP の構文を使用して、eDirectory に対して管理者と同等の権利を持つユーザのコンテキストを指定します。

[Password] : ユーザのパスワードを指定します。

- 5 [Next] をクリックして eDirectory に対する認証を行い、[User Selection] ページを表示します。

- 6 DeFrame ユーザとして有効化するユーザを選択します。

ユーザ個人を選択するか、コンテナを選択してコンテナ内のすべてのユーザを有効化することができます。

- 7 ZENworks 6 Web Self-Service を使用していて、選択したユーザに対する OnDemand Services ApprovalFlow の設定を行う場合は、[Enable ApprovalFlow] オプションをオンにし、[Next] をクリックして、次の **ステップ 7a** および **ステップ 7b** に進んでください。

または、

OnDemand Services ApprovalFlow を設定しない場合は、[Next] をクリックし、次の **ステップ 8** に進んでください。

7a [ApprovalFlow Settings] ページで、次のフィールドに情報を入力します。

[Account ID] : ユーザを識別するアカウント ID を入力します。このユーザのアカウント ID は、ユーザが生成した各 Purchase および Usage オブジェクトに記録されます。サードパーティの請求システムまたは報告システムを使用している場合は、それらのシステムでこのアカウント ID を使用することができます。

[Cost Center] : ユーザを割り当てるコストセンターを参照し選択します。コストセンターは、職種オブジェクトによって表されます。

[Enable User to Receive E-Mail Notifications] : このオプションを選択すると、ユーザは購入が承認または拒否されたことを通知する電子メールメッセージを受け取ります。

[Enable User to Cancel Package Subscriptions] : ユーザがユーザ自身のアプリケーションパッケージの購入をキャンセルできるようにする場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、ユーザは Workflow Tracking ガジェットを使用して、購入が承認されたアプリケーションを参照し、購入をキャンセルできます。

[Overwrite Existing ApprovalFlow Settings] : このオプションを選択すると、選択されたユーザに現在割り当てられている ApprovalFlow settings の設定が上書きされます。

7b [Finish] をクリックします。

8 [Yes] をクリックして、選択されたユーザを有効化することを確認します。

9 ユーザの設定が完了すると、[Finish] をクリックしてユーティリティを終了します。

6

ターミナルサーバユーザアカウントの管理

DeFrame™ ターミナルサーバからアプリケーションを実行するには、ターミナルサーバでユーザアカウントが必要です。各ターミナルサーバで静的ユーザアカウントを作成できます。または、Novell® ZENworks® for Desktop Workstation Manager とユーザポリシーを使用して、アカウントを動的に管理できます。次の節では、Workstation Manager およびユーザポリシーの使用方法について説明しています。

- ◆ 69 ページの「Workstation Manager のセットアップ」
- ◆ 69 ページの「コンテキストレスログインの有効化」
- ◆ 71 ページの「ユーザポリシーパッケージの作成」
- ◆ 73 ページの「ダイナミックローカルユーザアカウントの設定」
- ◆ 74 ページの「Roaming ユーザプロファイルの設定」
- ◆ 76 ページの「ユーザパッケージとユーザの関連付け」

Workstation Manager のセットアップ

Workstation Manager は、ZfD Management Agent の一部としてインストールされます。[サービス] ウィンドウに Workstation Manager サービスが表示されているかどうかをチェックすることによって、Workstation Manager がインストールされターミナルサーバで実行されていることを確認できます。

Novell eDirectory™ ツリーが複数ある場合は、ユーザオブジェクトが属する eDirectory ツリーを Workstation Manager が参照するように設定します。この場合は、次の手順に従ってください。

- 1 [スタート] メニュー > [設定] > [コントロールパネル] > [Network Identity] の順にクリックします。
- 2 [Novell Network Identity] ダイアログボックスの [Settings] をクリックします。
- 3 [Enable Workstation Manager] チェックボックスがオンに設定され、ツリーが正しく設定されていることを確認します。
- 4 (オプション) Windows のレジストリで、HKEY_LOCAL_MACHINE/SOFTWARE/NOVELL/Workstation Manager/Identification キーにある Tree 値を確認します。

コンテキストレスログインの有効化

シンクライアントアプリケーションを起動するプロセスを簡略化するために、DeFrame にはコンテキストレスログインが用意されています。コンテキストレスログインを使用すると、ユーザはシンクライアントアプリケーションの起動時にユーザ名とパスワードを入力するよう求められません。ただし、ユーザの eDirectory アカウントと Windows ユーザアカウントのユーザ名とパスワードが同じである必要があります。

コンテキストレスログインを使用するには、各ターミナルサーバで次の手順に従ってください。

- 1 ターミナルサーバの [クライアント提供のログオン情報を使う] 設定をオンにし、[常にパスワードの入力を求める] 設定をオフにします。
 - 1a ターミナルサーバで、[スタート] メニュー > [プログラム] > [管理ツール] > [ターミナル サービス構成] の順にクリックします。
 - 1b 接続タイプ (デフォルトは RDP-Tcp) を強調表示し、プロパティを入力するためにダブルクリックします。
 - 1c [ログオン設定] タブで、[クライアント提供のログオン情報を使う] 設定をオンにし、[常にパスワードの入力を求める] 設定をオフにします。
 - 1d 各接続タイプに対して同じ手順を繰り返します。
- 2 ターミナルサーバの Novell Client™ 用のデフォルトプロファイルを設定します。
 - 2a ターミナルサーバで、タスクバーのステータス領域にある Novell アイコン ([N] アイコン) を右クリックし、[Novell Client Properties] をクリックします。
 - 2b [Location Profiles] タブをクリックします。
 - 2c [Location Profiles] リストで、[Default] を選択し、[Properties] をクリックして、[Location Profiles Properties] ダイアログボックスを表示します。
 - 2d [Service] リストから [Login Service] を選択し、[Service Instance List] から [Default] を選択します。次に、[Properties] をクリックして [Novell Login] ダイアログボックスを表示します。
 - 2e [Save Profile After Successful Login] オプションをオフにします。
 - 2f [NDS] タブをクリックします。
 - 2g [Tree] フィールドで、シンククライアントアプリケーションがアプリケーションオブジェクトとして設定されている eDirectory ツリーを選択します。
 - 2h [Context] フィールドおよび [Server] フィールドからすべての情報を削除します。
 - 2i 設定内容を保存するには、[OK] をクリックしてすべてのダイアログボックスを閉じます。
- 3 ターミナルサーバが Active Directory ドメインコントローラ (メンバーサーバまたはワークグループサーバではなく) である場合は、ターミナルサーバの DeFrame サーバオブジェクトでサーバ名ではなくドメイン名を指定します。

コンテキストレスログイン時には、eDirectory と Windows ターミナルサーバにログインするためにこのユーザ名とパスワードが使用されます。ユーザ名とパスワード以外に、Windows ターミナルサーバログインでは、ドメイン名とサーバ名が必要です (Windows Workstation のログインダイアログボックスの [From] フィールドに指定)。DeFrame サーバオブジェクトの作成時に、サーバ名がオブジェクトに指定されます。ターミナルサーバがドメインコントローラである場合は、ドメイン名が必要です。ドメイン名を変更するには、次の手順に従ってください。

- 3a ConsoleOne で、DeFrame サーバオブジェクトを右クリックし、[Properties] をクリックして、DeFrame サーバオブジェクトのプロパティページを表示します。
- 3b [DeFrame Server Environment] タブをクリックして [Environment] ページを表示します。

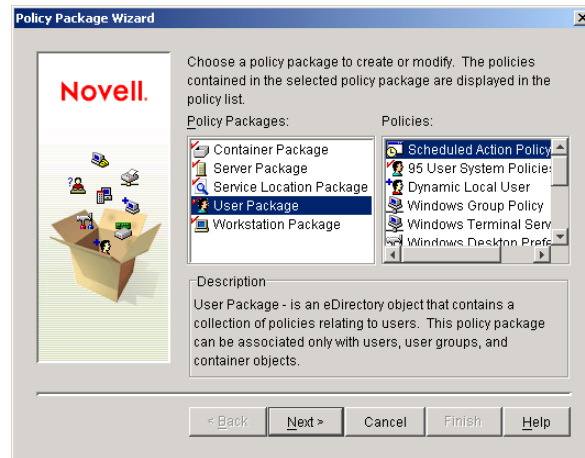
3c [Domain] フィールドに、ターミナルサーバのドメインを入力します。

3d [OK] をクリックして変更内容を保存します。

ユーザポリシーパッケージの作成

ダイナミックローカルユーザアカウントと Roaming ユーザプロファイルを管理するには、ユーザポリシーパッケージに含まれる Windows 2000 ターミナルサーバポリシーを使用します。既存のユーザポリシーパッケージを使用するか、または Windows 2000 ターミナルサーバポリシー用の新しいユーザポリシーパッケージを作成することができます。使用するユーザポリシーパッケージがすでにある場合は、[73 ページの「ダイナミックローカルユーザアカウントの設定」](#)に進んでください。それ以外の場合は、次の手順に従ってユーザポリシーパッケージを作成します。

- 1 ConsoleOne で、ユーザポリシーパッケージオブジェクトを作成するコンテナを右クリックし、[Policy Package] をクリックして、[Policy Package Wizard] を表示します。



- 2 [Policy Packages] リストから [User Package] を選択し、[Next] をクリックします。

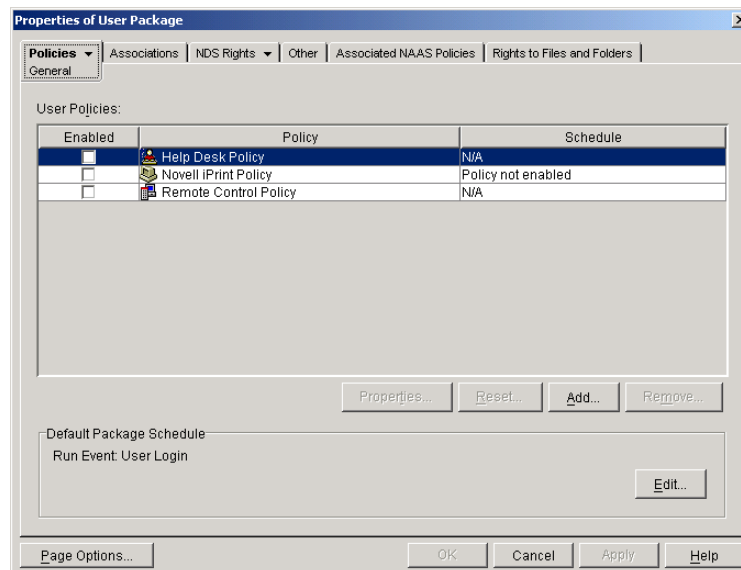


パッケージオブジェクトの名前は、パッケージオブジェクトを作成するコンテナ内で一意である必要があります。複数のユーザポリシーパッケージを作成する場合は、「Win2000 TS User Package」などのような内容がわかりやすい名前を付けることができます。または、ポリシーのユーザが属するコンテナと同じコンテナにポリシーを作成することができます。

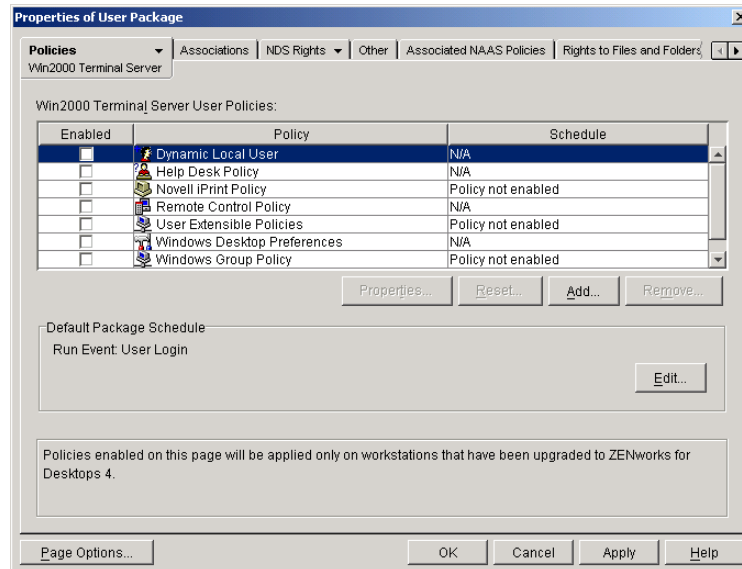
- 必要に応じて、パッケージのオブジェクト名と、パッケージが作成されるコンテナを変更し、[Next] をクリックします。



- [Summary] ページで [Define Additional Properties] を選択し、[Finish] をクリックします。ユーザパッケージオブジェクトが作成され、オブジェクトのプロパティページが表示されます。



- [Policies] タブ、次に [Win2000 Terminal Server] をクリックして、[Win2000 Terminal Server Policies] ページを表示します。

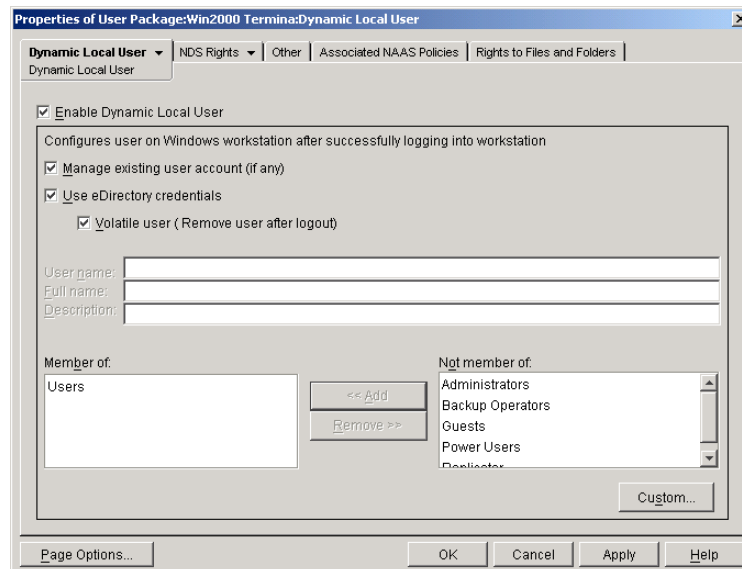


6 次の「ダイナミックローカルユーザアカウントの設定」に進みます。

ダイナミックローカルユーザアカウントの設定

Workstation Manager によってターミナルサーバでユーザアカウントを作成する方法を設定するには、DLU(ダイナミックローカルユーザ)ポリシーを使用します。

- 1 [Windows 2000 Terminal Server Policies] ページで、[Dynamic Local User Policy] の左側にあるチェックボックスをオンにしてポリシーを有効にします。次に、[Properties]をクリックして [Dynamic Local Users]プロパティページを表示します。



- 2 次のフィールドを設定します。

[Enable Dynamic Local User] : このオプションを選択すると、Workstation Manager を使用して動的にユーザアカウントを作成することができます。

[**Manage Existing User Account (if any)**] : Workstation Manager で DLU ポリシーを既存のユーザアカウントに適用する場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択しないと、新しいユーザアカウントのみに DLU ポリシーが適用されます。

[**Use eDirectory Credentials**] : このオプションを選択すると、ユーザアカウントの作成時に eDirectory のユーザ名とパスワードを使用できます。ユーザの eDirectory と Windows のアカウント情報が同期化され、コンテキストレスログインが設定されるため (69 ページの「**コンテキストレスログインの有効化**」を参照)、ターミナルサーバから DeFrame シンククライアントアプリケーションを起動するときにユーザはアカウント情報の入力を求められません。

[**Volatile User (Remove User after Logout)**] : このオプションは、ユーザがシンククライアントアプリケーションを終了し、セッションが終了された後でユーザのアカウントを削除する場合に選択します。すべてのユーザアカウント情報が削除されます。ユーザプロファイルを保持する場合は、Roaming プロファイルを設定できます。設定方法については、次の「**Roaming ユーザプロファイルの設定**」を参照してください。

[**Member Of/Not Member Of**] : [Not Member Of] リストで、ユーザが所属する 1 つまたは複数のグループを選択し、[Add] をクリックします。グループメンバーシップに基づいて、ターミナルサーバ上のユーザのアクセス権が設定されます。ユーザアカウントに割り当てるファイルシステムアクセス権が、リストに表示されたグループによって提供されていない場合は、[File Rights] ページ ([Dynamic Local User] > [File Rights] ページの順に選択) を使用できます。

3 [OK] をクリックして変更内容を保存し、[Dynamic Local Users] プロパティページを閉じます。

4 次の「**Roaming ユーザプロファイルの設定**」に進みます。

Roaming ユーザプロファイルの設定

Roaming ユーザプロファイルの設定するために使用できるポリシーには次の 2 つがあります。

- ◆ **Windows ターミナルサーバポリシー** : Windows ターミナルサーバポリシーを使用すると、Roaming ユーザプロファイルを保存するためのネットワークストレージの場所を指定できます。このポリシーを使用する利点には、1) リモートセッションまたはローカルセッションでユーザがターミナルサーバにログインする場合のみ適用される、2) クライアントセッションを制御するために使用できる他の設定が含まれる、などがあります。

ユーザプロファイルにこのポリシーを使用することは、Windows ターミナルサーバ上のユーザアカウントに関する [Terminal Services Profile] プロパティページを設定することと同じです。

- ◆ **Windows デスクトップ初期設定ポリシー** : Windows デスクトップ初期設定ポリシーを使用すると、Roaming ユーザプロファイルを保存するためのネットワークストレージの場所を指定できます。Windows デスクトップ初期設定ポリシーは、ユーザがワークステーションまたはターミナルサーバにログインするときに必ず適用されます。したがって、ワークステーションおよびターミナルサーバで同じユーザプロファイルを使用する場合のみ使用してください。

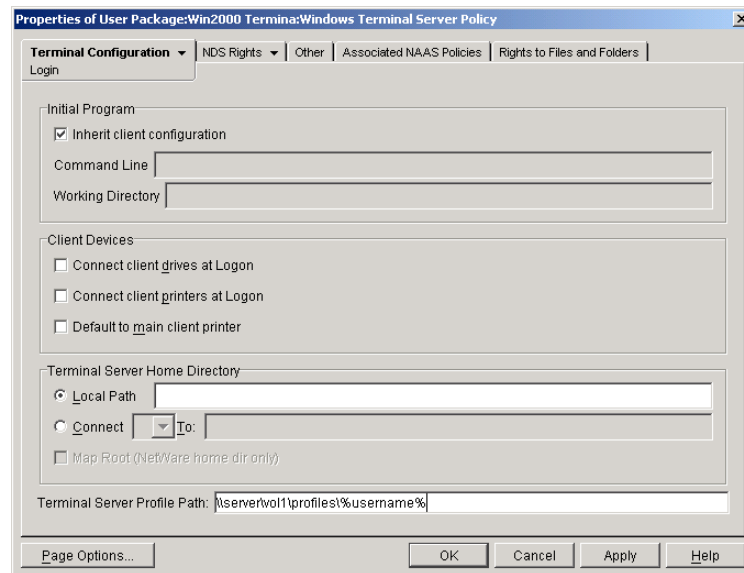
一般的に、Roaming プロファイルを設定するためには Windows ターミナルサーバポリシーを使用することをお勧めします。両方のポリシーを使用して Roaming プロファイルを設定すると、Windows デスクトップ初期設定ポリシーで [Override Terminal Server

Profile] 設定を選択しない限り、Windows ターミナルサーバポリシーの設定が使用されます。

Windows ターミナルサーバポリシーを設定する手順を次に示します。Windows デスクトップ初期設定ポリシーを使用する場合は、『ZENworks for Desktops 4 管理ガイド』の「Workstation Management」の「ポリシーパッケージの作成とポリシーのセットアップ」の「ユーザパッケージのポリシーのセットアップ」を参照してください。

Windows ターミナルサーバポリシーを作成するには、次の手順に従ってください。

- 1 [Windows 2000 Terminal Server Policies] ページで、[Windows Terminal Server Policy] の左側にあるチェックボックスをオンにしてポリシーを有効にします。次に、[Properties] をクリックしてポリシーのプロパティページを表示します。
- 2 [Terminal Configuration] タブをクリックし、[Login] をクリックして [Login] ページを表示します。



- 3 [Inherit Client Configuration] オプションをオンにします。

重要： このオプションを有効にしない場合は、ユーザによる DeFrame シンククライアントアプリケーションの起動時に、起動されたアプリケーションではなくターミナルサーバのデスクトップに対してセッションが開始されます。

- 4 [Terminal Server Profile Path] フィールドに、プロファイルを設定するネットワーク上の場所を示すパスを入力します。次のことに注意してください。

- ◆ %username% 変数を使用して、各ユーザのプロファイルがそれぞれ別のディレクトリに保存されるようにします。たとえば、次のように指定します。

\\server\\vol1\\profiles\\%username%

このパスを使用すると、ユーザ jsmith のプロファイルは、次の場所に保存されます。

\\server\\vol1\\profiles\\jsmith

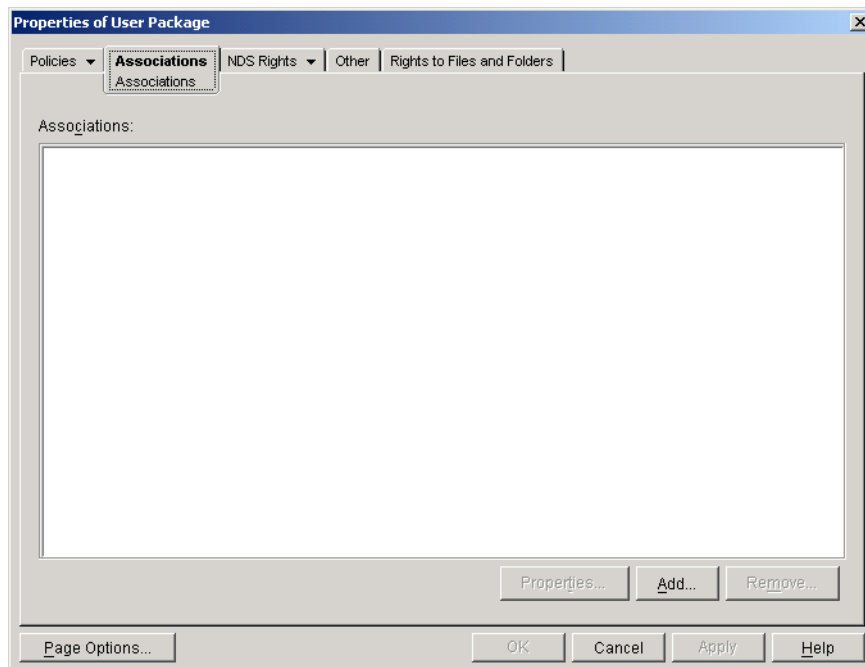
- ◆ ユーザのディレクトリがすでに存在していることを確認します。この例では、jsmith のプロファイルが保存される \\server\\vol1\\profiles\\jsmith がすでに存在している必要があります。

- ◆ ユーザがユーザ自身のプロファイルディレクトリへのアクセス権を持っていることを確認します。プロファイルディレクトリが NetWare® サーバ上にある場合は、eDirectory を使用してアクセス権を割り当てることができます。プロファイルディレクトリが Windows サーバ上にある場合は、ユーザの Windows アカウントを使用してアクセス権を割り当てる必要があります。
- 5 [OK] をクリックして変更内容を保存し、[Windows Terminal Server] プロパティページを閉じます。
- 6 次の「**ユーザパッケージとユーザの関連付け**」に進みます。

ユーザパッケージとユーザの関連付け

ユーザポリシーパッケージは、有効にする前にユーザと関連付ける必要があります。

- 1 ユーザパッケージオブジェクトのプロパティページが表示されていない場合は、[User Package] を右クリックし、[Properties] をクリックします。
- 2 [Associations] タブをクリックして [Associations] ページを表示します。



- 3 [Add] をクリックし、ポリシーパッケージを適用するユーザを参照して選択します。ユーザ、ユーザグループ、またはコンテナを追加できます。
- 4 ユーザを追加したら、[OK] をクリックして情報を保存します。

7

シンククライアントアプリケーションの配布

Novell® Application Launcher™（または、ZENworks 6 Web Self-Service を使用している場合は Launch Item ガジェット）を使用して DeFrame™ シンククライアントアプリケーションを配布するには、次の節に示されている作業を行います。

- ◆ 77 ページの「Novell eDirectory でのアプリケーションオブジェクトの作成」
- ◆ 79 ページの「アプリケーションの設定」
- ◆ 84 ページの「ZENworks Web Self-Service を使用してアプリケーションを配布する」
- ◆ 84 ページの「Novell Application Launcher を使用してアプリケーションを配布する」

Novell eDirectory でのアプリケーションオブジェクトの作成

シンククライアントアプリケーションをユーザに発行するには、Novell eDirectory™ でアプリケーションオブジェクトを作成する必要があります。アプリケーションオブジェクトは手動で作成できます。または、Citrix MetaFrame ターミナルサーバを使用している場合は、DeFrame Published Application Synchronization ユーティリティを使用して、アプリケーション情報を Citrix Published Application Manager ユーティリティから eDirectory にインポートできます。これら 2 つの方法については、次の節を参照してください。

- ◆ 77 ページの「手動によるアプリケーションオブジェクトの作成」
- ◆ 78 ページの「DeFrame Published Application Synchronization ユーティリティを使用してアプリケーションオブジェクトを作成する」

手動によるアプリケーションオブジェクトの作成

- 1 ConsoleOne® で、アプリケーションオブジェクトを作成するコンテナを右クリックし、[New]、[Object] の順にクリックして [New Object] ダイアログボックスを表示します。
- 2 [New Object] リストから [App:Application] を選択し、[OK] をクリックして、[New Application] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [Simple Application (No .AOT/.AXT or .MSI File)] オプションを選択し、[Next] をクリックします。
- 4 [Object Name] フィールドにアプリケーションオブジェクト名を入力し、[Next] をクリックします。

アプリケーションオブジェクト名は、作成先のコンテナで一意である必要があります。アプリケーションオブジェクト名は、30 文字以下にしてください。アプリケーションオブジェクト名に使用できない文字は、次のとおりです。

' (二重引用符)	+ (正符号)
= (等号)	¥ (円記号)
< (大なり記号)	;(セミコロン)
> (小なり記号)	/ (スラッシュ)
, (カンマ)	# (ポンド記号)

- 5 [Path to File] フィールドを空白にして、[Next] をクリックします。
この情報は別の場所で指定します。
- 6 アプリケーションを実行するためにワークステーションが満たす必要がある要件を定義し、[Next] をクリックします。
要件については、『ZENworks for Desktops 4 管理ガイド』の「Application Management」の「[System Requirements] ページ」を参照してください。
- 7 アクセス権を割り当てるユーザまたはワークステーションをアプリケーションオブジェクトに追加し、[Next] をクリックします。
ZENworks Web Self-Service を使用してアプリケーションをアプリケーションパッケージの一部として配布する場合は、ユーザをこのページに追加しないでください。
- 8 [Display Details after Creation] をオプションをクリックし、[Finish] をクリックして、アプリケーションオブジェクトを作成し、アプリケーションオブジェクトのプロパティページを表示します。
- 9 アプリケーションオブジェクトのプロパティページを開いた状態で、79 ページの「アプリケーションの設定」に進みます。

DeFrame Published Application Synchronization ユーティリティを使用してアプリケーションオブジェクトを作成する

Citrix Published Application Manager ユーティリティを使用して Citrix MetaFrame サーバからアプリケーションを発行している場合は、DeFrame Published Application Synchronization ユーティリティを使用して、アプリケーションをアプリケーションオブジェクトとして eDirectory にインポートできます。インポートされた各アプリケーションに対して、Published Application Synchronization ユーティリティはオブジェクトを1つ作成し、Citrix Published Application Manager ユーティリティで指定された ICA クライアント設定(色、ウィンドウサイズ、音など)を使用してオブジェクトを設定します。

eDirectory でアプリケーションオブジェクトとして作成するアプリケーションが格納されたすべての Citrix MetaFrame サーバで、Published Application Synchronization ユーティリティを実行する必要があります。アプリケーションが2つの異なるターミナルサーバに格納されている場合は、アプリケーションオブジェクトが1つだけ作成されます。したがって、アプリケーションが複数のサーバにホストされていることを認識するように、この1つのアプリケーションオブジェクトを設定する必要があります(79 ページの「アプリケーションの設定」を参照)。

Published Application Synchronization ユーティリティを実行するには、次の手順に従ってください。

- 1 Published Application Synchronization ユーティリティの context.ini ファイルに、アプリケーションオブジェクトを作成する eDirectory コンテキストが含まれていることを確認します。

context.ini ファイルは、ターミナルサーバの c:\winnt\system32\deframe ディレクトリに格納されています。[Applications] という見出しの下に、アプリケーションオブジェクトを作成するコンテキストを入力します。たとえば、次のように指定します。

```
.farm1.deframe.services.novell
```

Published Application Synchronization ユーティリティは、異なる Citrix サーバファームを区別できません。したがって、異なるファームのアプリケーションオブジェクトを、それぞれ別の eDirectory コンテキストに作成する必要があります。別の eDirectory コンテキストに作成しない場合は、あるファームのアプリケーションオブジェクトが別のファームのアプリケーションオブジェクトによって上書きされます。たとえば、3つの異なるファームに対して、次のコンテキストを使用できます。

```
.farm1.deframe.services.novell  
.farm2.deframe.services.novell  
.farm3.deframe.services.novell
```

- 2 context.ini ファイルに指定されているコンテキストでオブジェクトを作成する権利を持つユーザとして eDirectory で認証されていることを確認します。
- 3 c:\winnt\system32\deframe ディレクトリから PassSrv.exe を実行して、Published Application Synchronization ユーティリティを起動します。

Published Application Synchronization ユーティリティにはインタフェースがありません。実行終了後に PassSrvLog.txt というログファイルが作成されます。このログファイルには、アプリケーションオブジェクトの作成に成功または失敗したかどうか記録されます。このログファイルは、PassSrv.exe と同じディレクトリに作成されます。

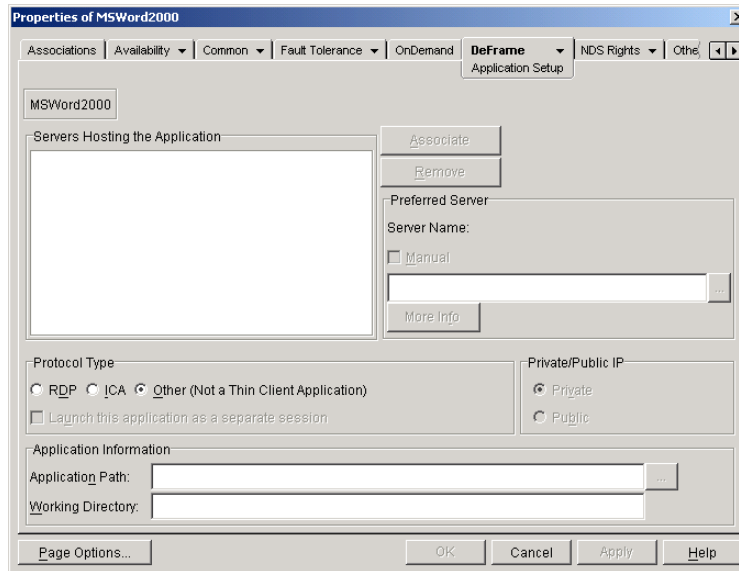
重要：アプリケーションが eDirectory にインポートされた後に Citrix Published Applications Manager ユーティリティでアプリケーションの情報を変更した場合は、1) eDirectory でアプリケーションオブジェクトを削除しアプリケーションを再インポートするか、または 2) アプリケーションオブジェクトの設定を同様に変更します。

- 4 eDirectory にインポートするアプリケーションが格納されている各 Citrix MetaFrame ターミナルサーバに対して、**ステップ 1** から **ステップ 3** を繰り返します。
- 5 次の「**アプリケーションの設定**」に進みます。

アプリケーションの設定

作成したアプリケーションオブジェクトは、正しく設定する必要があります。

- 1 アプリケーションオブジェクトのプロパティページが現在表示されていない場合は、オブジェクトを右クリックし、[Properties] をクリックします。
- 2 [DeFrame] タブ > [Application Setup] の順にクリックして [Application Setup] ページを表示します。



3 次のフィールドに情報を入力します。

[Protocol Type] : アプリケーションを実行するクライアントセッションのプロトコル (RDP または ICA) を選択します。アプリケーションをホストしている各 DeFrame ターミナルサーバは、選択したプロトコルをサポートしている必要があります。プロトコルタイプを選択しないと、このページ上のその他のフィールドが利用できません。

プロトコルタイプとして ICA を選択した場合は、[Launch This Application as a Separate Session] オプションが利用可能になります。[Launch This Application as a Separate Session] オプションをオンにすると、ICA クライアントとアプリケーションのターミナルサーバとのセッションがすでに開始されているかどうかに関わらず、アプリケーションをアプリケーション独自の ICA セッションでいつでも起動することができます。デフォルトでは、このオプションは無効です。したがって、同じ DeFrame ターミナルサーバから実行された複数のアプリケーションは、異なるセッションではなく同じセッションを使用します。

[Servers Hosting the Application] : このリストを使用して、アプリケーションを実行するターミナルサーバを定義します。ユーザがアプリケーションを起動したときに、アプリケーションは負荷が最も小さいサーバから実行されます。このリストにターミナルサーバを追加するには、[Associate] をクリックし、DeFrame サーバオブジェクトを参照および選択します。

重要 : DeFrame で負荷が最も小さいターミナルサーバを調べるには、ターミナルサーバとアプリケーションが負荷分散の対象となるように設定する必要があります。詳細については、[85 ページの「負荷分散の設定」](#)を参照してください。

[Preferred Server] : このフィールドは、アプリケーションが 1 つまたは複数のターミナルサーバにホストされており、アプリケーションを 1 つのサーバだけから実行する場合のみ適用されます。手動で割り当てるために [Manual] チェックボックスをオンにします。次に、該当する DeFrame サーバオブジェクトを参照および選択し、優先するターミナルサーバを [Server Name] フィールドに追加します。

手動で割り当てられた優先サーバのアドレス情報を参照するには、[More Info] をクリックします。

負荷分散の対象とする複数の DeFrame ターミナルサーバにアプリケーションがホストされている場合は、アプリケーションに割り当てられた Watchdog によって、優先サーバのリストが作成されます。負荷が最も小さいサーバには最も高い優先度が割り当てられます。ユーザが起動したアプリケーションは、優先度が最も高い（負荷が最も小さい）サーバから実行されます。デフォルトでは、優先サーバのリストは 4 秒ごとに更新されます

優先サーバのリストは、このページではなく、[Other] タブの [deframeAppPSList] 属性の下に表示されます。各サーバの固有の名前と優先度が表示されます。たとえば、次のようになります。

```
ts1.deframe.server.novell01  
ts2.deframe.server.novell00
```

00 が最も優先度が高く（負荷が最も小さいサーバ）、01 が 2 番目に優先度が高いことを示します。

[Private/Public IP] : アプリケーションの起動時にターミナルサーバのプライベートまたはパブリック IP アドレス (DeFrame サーバオブジェクト > [DeFrame Server Environment] タブ > [Environment] の順に選択) を使用するかどうかを選択します。[Private] を選択した場合は、ファイアウォール内のユーザのみアプリケーションを利用できます。[Public] を選択した場合、ファイアウォール外のユーザのみアプリケーションを利用できます。

Citrix Secure Gateway を使用している場合は、Citrix Secure Gateway を考慮してこのオプションを設定する必要があります。Citrix Secure Gateway がファイアウォール外にある場合は、パブリックアドレスを使用する必要があります。Citrix Secure Gateway がファイアウォール内にある場合は、プライベートアドレスを使用する必要があります。

ファイアウォール内およびファイアウォール外の両方でアプリケーションを利用する場合は、プライベートアクセス用のアプリケーションオブジェクトとパブリックアクセス用のアプリケーションオブジェクトの 2 つのアプリケーションオブジェクトを作成する必要があります。

[Application Path] : アプリケーションの実行可能ファイルへのパスを入力します。ターミナルサーバで ConsoleOne を実行している場合は、実行可能ファイルを参照および選択できます。[Servers Hosting the Application] リストに複数のターミナルサーバを追加した場合、アプリケーションの実行可能ファイルは、各ターミナルサーバの同じ場所に格納されている必要があります。

[Working Directory] : デフォルトでは、作業ディレクトリは、アプリケーションが格納されているディレクトリに設定されます。作業ディレクトリは、必要に応じて変更できます。

- 4 アプリケーションオブジェクトのプロパティページを開いた状態で、次の「ICA クライアントの設定」に進みます。

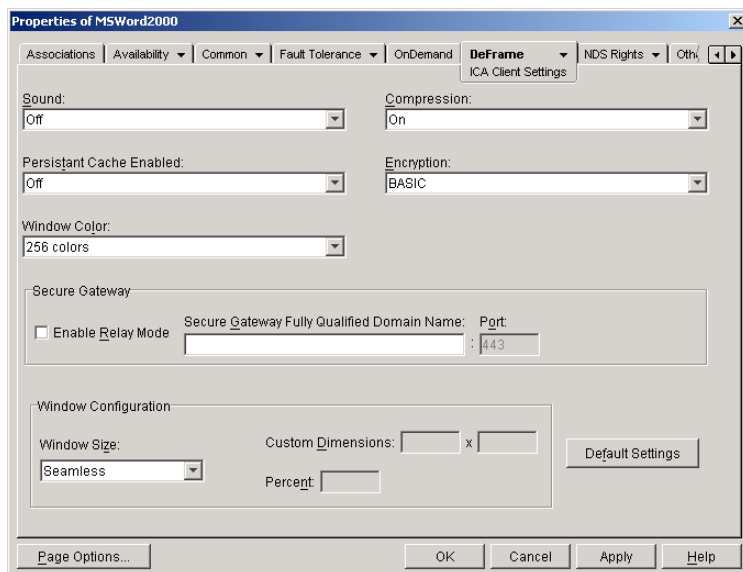
ICA クライアントの設定

この節は、アプリケーションのプロトコルタイプを ICA に設定した場合（[DeFrame] タブ > [Application Setup] ページ）のみ適用されます。

[ICA Client Settings] ページを使用して、ICA クライアントでアプリケーションをどのように処理するかを設定できます。設定内容は、ウィンドウの色、暗号化、音、キャッシュ、圧縮などです。

ICA クライアントを設定するには、次の手順に従ってください。

1 [DeFrame] > [CA Client Settings] の順にクリックします。



2 次の設定を行うか、[Default Settings] をクリックして定義済みの値に設定値をリセットします。

[Sound] : セッションで音を有効にする場合は [ON] を選択し、音を無効にする場合は [OFF] を選択します。音を有効にすると、ターミナルサーバの負荷が増加し、音声データを送信するために広い帯域幅が必要になります。デフォルトは [OFF] です。

[Compression] : データ圧縮を有効にする場合は [ON] を選択し、データ圧縮を無効にする場合は [OFF] を選択します。データ圧縮を有効にすると、データを送信するために必要な帯域幅が減少します。デフォルトは [ON] です。

[Persistent Cache] : 頻繁に使用する画面要素をユーザのローカルドライブにキャッシュする場合は [ON] を選択し、キャッシュを無効にする場合は [OFF] をクリックします。固定キャッシュを作成すると、再利用するデータを送信するために必要な帯域幅が減少します。デフォルトは [OFF] です。

[Encryption] : データ伝送用の最低の暗号化レベルを選択します。デフォルトは [BASIC] です。Citrix MetaFrame サーバでサポートされている場合は、RC5 暗号化を利用して 40 ビット、56 ビット、または 128 ビットのキーを使用できます。

重要 : BASIC 以外の暗号化レベルを使用する場合は、ターミナルサーバへのコンテキストレスログインが無効になります。ユーザは、アプリケーションの起動時に必ずユーザ名とパスワードを入力するように求められます。

[Window Color] : セッションで使用するウィンドウの色の設定を選択します。16 色、256 色、High Color (16 ビット)、または True Color (32 ビット) を選択できます。デフォルトは、256 色です。

[Secure Gateway] : このオプションは、Citrix Secure Gateway を使用していて、Citrix MetaFrame サーバと Citrix ICA クライアント間で保護された接続 (SSL) を行う場合のみ適用されます。

- ◆ **[Enable Relay Mode]** : このオプションは、Citrix Secure Gateway の使用を有効にする場合にオンにします。この設定を有効にすると、ユーザがアプリケーションを起動したときに、ICA クライアントと DeFrame ターミナルサーバとの接続が Citrix Secure Gateway によってリレーされます。この設定を無効にすると、ICA クライアントは DeFrame ターミナルサーバに直接接続しようとします。

- ◆ [Secure Gateway Fully Qualified Domain Name] :Citrix Secure Gateway の完全なドメイン名 (FQDN) を入力します (たとえば、csg.novell.com)。
- ◆ [Port] :Citrix Secure Gateway が SSL 接続を行うためにリッスンするポート番号を入力します。SSL の標準のポート番号は 443 です。

[Window Size] :セッションで使用するウィンドウサイズを選択します。定義済みのウィンドウサイズ (640x480、800x600、1024x768、1280x1024、または 1600x1200) を選択、固定サイズまたはユーザのデスクトップの割合に基づいたカスタムサイズを指定、またはシームレスウィンドウを指定できます。シームレスウィンドウを使用すると、ユーザはアプリケーションをリモートアプリケーションではなくローカルアプリケーションのように扱うことができます。ユーザは、ローカルのファンクションキーを使用したり、タスクバー上のアプリケーションを切り替えたり、ローカルウィンドウとリモートウィンドウを並べて表示したりできます。デフォルトではシームレスウィンドウが設定されます。

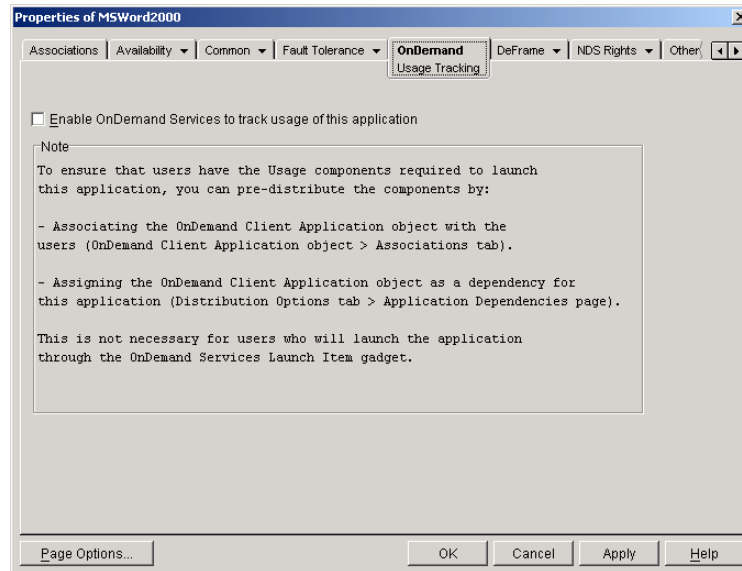
3 次の「**使用状況追跡機能の有効化**」に進みます。

使用状況追跡機能の有効化

この節は、ZENworks 6 Web Self-Service を使用している場合のみ適用されます。

このアプリケーションの使用状況を追跡する場合、または使用状況に応じて課金するように関連付けられているアプリケーションパッケージにアプリケーションを追加する場合は、次の手順に従ってください。

1 [OnDemand] タブをクリックして [Usage Tracking] ページを表示します。



- 2 [Enable OnDemand Services to Track Usage of This Application] オプションをオンにします。
- 3 [OK] をクリックして変更内容を保存します。
- 4 次の「ZENworks Web Self-Service を使用してアプリケーションを配布する」または 84 ページの「Novell Application Launcher を使用してアプリケーションを配布する」に進みます。

Novell Application Launcher を使用してアプリケーションを配布する

ユーザが ZENworks for Desktops を使用してアプリケーションを利用できるようにするには、アプリケーションオブジェクトをユーザオブジェクト、グループオブジェクト、またはコンテナオブジェクトに関連付けます (アプリケーションオブジェクト > [Associations] ページ)。この結果、ユーザは Novell Application Launcher からアプリケーションを起動できるようになります。

ZENworks Web Self-Service を使用してアプリケーションを配布する

ユーザが ZENworks Web Self-Service を使用してアプリケーションを利用できるようにするには、アプリケーションをアプリケーションパッケージに追加する必要があります。詳細については、『ZENworks 6 Web Self-Service *Administration*』ガイドの「[Creating Application Packages \(http://www.novell.com/documentation/japanese/zenworks6/ondemand/data/a5e1jrj.html#a5e1jrj\)](http://www.novell.com/documentation/japanese/zenworks6/ondemand/data/a5e1jrj.html#a5e1jrj)」を参照してください。

8

負荷分散の設定

複数のターミナルサーバを使用している場合は、負荷分散を使用してサーバの負荷を分散することができます。負荷分散を有効にすると、複数のサーバに格納されているアプリケーションをユーザが起動するときに、負荷が最も小さいサーバからアプリケーションが起動されます。この結果、ターミナルサーバが効率的に使用されることになり、アプリケーションのパフォーマンスが向上します。

負荷分散を設定するには、次の節に示された概念的な説明を読み、作業を行ってください。

- ◆ [85 ページの「負荷分散のしくみ」](#)
- ◆ [86 ページの「Watchdog の作成」](#)
- ◆ [87 ページの「サーバの負荷計算の重みを調整する」](#)
- ◆ [90 ページの「ZENTCAS サービスの負荷分散機能設定の変更」](#)

負荷分散のしくみ

負荷分散は、Watchdog を使用して行われます。Watchdog は、1 つまたは複数のアプリケーションを監視し、監視しているアプリケーションを起動するターミナルサーバを決定するように設定されます。

Watchdog は、この決定を行うために、アプリケーションをホストしている各ターミナルサーバの負荷統計を収集し、優先サーバリストを作成します。優先サーバリストは、サーバの優先度を指定します。負荷が最も小さいサーバの優先度は最も高く、負荷が最も大きいサーバの優先度は最も低くなります。アプリケーションは、最も負荷が小さいサーバから起動されます（そのサーバが利用可能な場合）。

Watchdog について

Watchdog は、1 つまたは複数のアプリケーションを監視するように設定された DeFrame™ ターミナルサーバです。より具体的には、Watchdog は、ターミナルサーバ上で実行されている Novell® ZENworks® Thin-Client Application Service (ZENTCAS サービス) です。

各 Watchdog では、別の DeFrame サーバをバックアップとして割り当てることができます。バックアップとして、他の Watchdog のプライマリサーバまたはバックアップサーバを含む任意の DeFrame サーバを割り当てることができます。バックアップの DeFrame サーバは、プライマリサーバが利用できない場合のみ Watchdog になります。この場合、2 つのサーバの役割が切り替わります。新しいプライマリサーバが利用できなくなるか、ConsoleOne® を使用してこれら 2 つのサーバの役割を手動で切り替えると元の状態に戻ります。

1つの Watchdog をすべてのアプリケーションに割り当てることができます。または、複数の Watchdog を割り当て、各 Watchdog がそれぞれ異なるグループのアプリケーションを監視するように設定することができます。使用する Watchdog の数は、Watchdog のサーバが処理できる負荷の大きさや、Novell eDirectory™ へのサーバのアクセス速度などのさまざまな要因によって決まります。個々の環境に応じた適切な設定を行ってください。

DeFrame サーバの負荷が決定されるしくみ

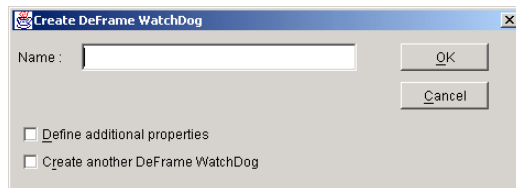
Watchdog は、アプリケーションをホストしている、Watchdog に割り当てられた各 DeFrame サーバから負荷統計を収集します。各 DeFrame サーバで実行されている ZENTCAS サービスは、各 DeFrame サーバの現在の負荷を計算します。この計算は、DeFrame サーバのリソース（メモリ、CPU 使用率など）の使用状況や、各リソースに割り当てられた重み（重要性）に基づいて行われます。サーバごとにリソースの重みを調整して、さまざまなパフォーマンスレベルを得ることができます（87 ページの「サーバの負荷計算の重みを調整する」を参照）。

Watchdog の作成

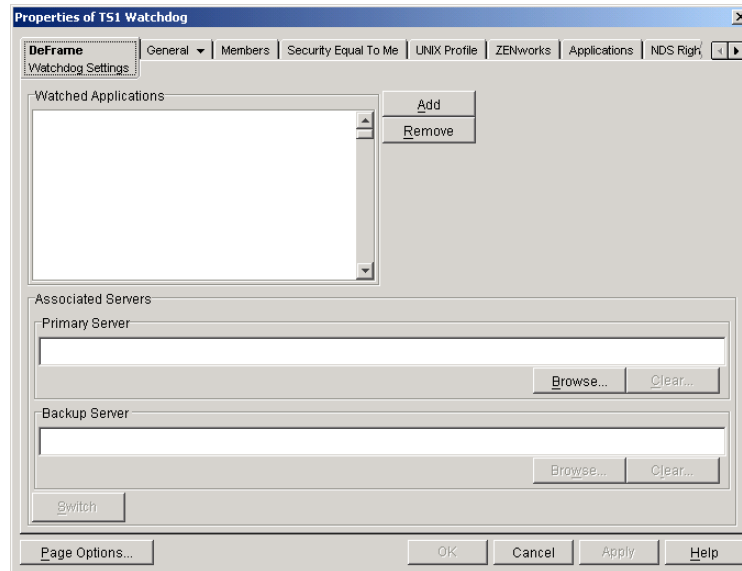
Watchdog は、eDirectory にオブジェクトとして作成されます。Watchdog オブジェクトを使用すると、プライマリ DeFrame サーバまたはバックアップサーバ（オプション）を割り当てることができます。また、Watchdog が監視するアプリケーションを割り当てることができます。

Watchdog オブジェクトを作成するには、次の手順に従ってください。

- 1 ConsoleOne で、Watchdog オブジェクトを作成するコンテナを右クリックし、[New]、[Object] の順にクリックして [New Object] ダイアログボックスを表示します。
- 2 [Class] リストから [DeFrameWatchDog] を選択し、[OK] をクリックして [Create DeFrame WatchDog] ダイアログボックスを表示します。



- 3 [Name] フィールドに、Watchdog オブジェクト名を入力します。
- 4 [Define Additional Properties] を選択し、[OK] をクリックして Watchdog オブジェクトを作成し、Watchdog オブジェクトのプロパティページを表示します。



- 5 [Watched Applications] リストに、Watchdog で監視するアプリケーションを追加します。追加するには、[Add] をクリックし、アプリケーションオブジェクトを選択して [OK] をクリックします。
- 6 [Primary Server] ボックスで [Browse] をクリックし、Watchdog のプライマリ DeFrame サーバとして割り当てる DeFrame サーバを選択します。
- 7 (オプション) [Backup Server] ボックスで、Watchdog のバックアップ DeFrame サーバとして割り当てる DeFrame サーバを選択します。
バックアップサーバは、プライマリサーバが利用できない場合、または [Switch] ボタンをクリックしてサーバの割り当てを切り替えた場合のみ使用されます。
- 8 [OK] をクリックして情報を保存します。

サーバの負荷計算の重みを調整する

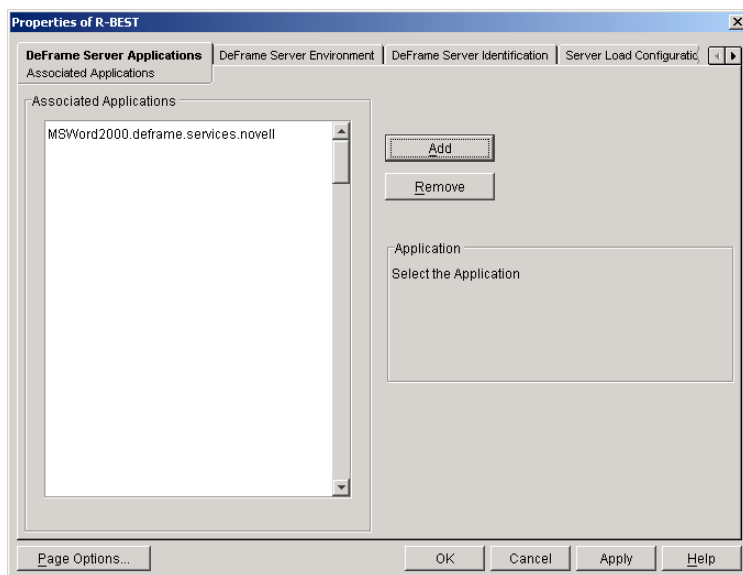
ZENTCAS サービスは、DeFrame サーバの負荷を計算するために、メモリ、CPU 使用率、ユーザ、ページファイル、および仮想メモリの 5 つのサーバリソースを使用します。サーバから取得した情報を基にして、これらの各リソースに対する負荷が自動的に計算されます。次に、これら個々のリソースの負荷に割り当てられた重みが負荷計算に使用され、サーバ全体の負荷が計算されます。

各リソースのデフォルトの重みを使用するか、またはさまざまなパフォーマンスレベルを得るためにサーバごとに重みを変更できます。リソースの重みは、他のリソースの負荷に関するサーバ負荷スコアに対して、あるリソースの負荷が及ぼす影響の大きさを示します。たとえば、メモリの重みを 100、CPU 使用率の重みを 100、残りのリソースの重みを 0 に設定すると、メモリの負荷と CPU 使用率の負荷は、サーバ負荷スコアでは同じ影響の大きさ (50%) を持つことになり、他のリソースの負荷は無視されます。5 つすべてのリソースの重みを 100 に設定すると、それぞれのリソースの負荷は、サーバ負荷スコアでは同じ影響の大きさ (20%) になります。

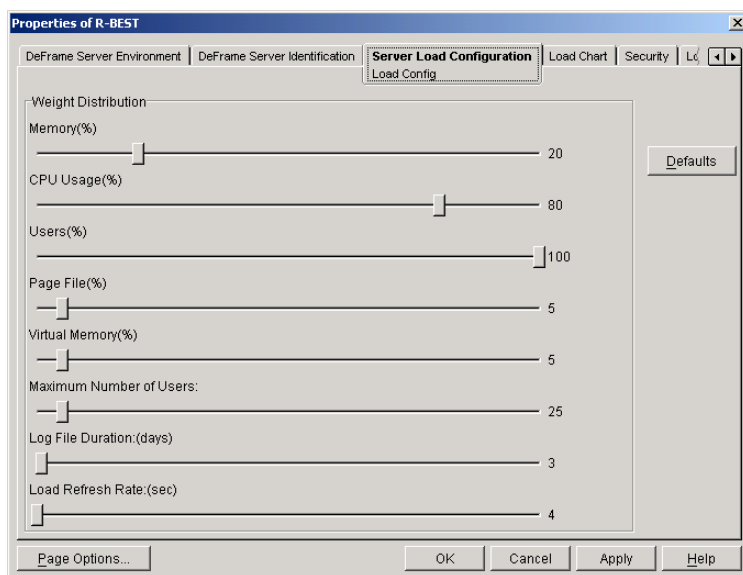
サーバ負荷スコアの計算に関する詳細については、[89 ページの「サーバ負荷計算」](#)を参照してください。

リソースに割り当てられた重みを調整するには、次の手順に従ってください。

- 1 ConsoleOne で、DeFrame サーバオブジェクトを右クリックし、[Properties] をクリックして、DeFrame サーバオブジェクトのプロパティページを表示します。



- 2 [Server Load Configuration] タブをクリックして [Load Config] ページを表示します。



- 3 次のように設定を変更します。

[Memory]、[CPU Usage]、[Users]、[Page File]、[Virtual Memory] : 各リソースの負荷に適用する重みを選択します。他のリソースよりも大きい重みを選択すると、サーバ負荷スコアの計算時にそのリソースの重要性が他のリソースよりも高くなります。たとえば、サーバにたくさんのメモリが搭載されている場合に、メモリに高い重みを設定するとします。この場合、サーバのメモリのほとんどが使用可能な状態であるため（サーバのメモリ負荷が小さいため）、サーバ負荷スコアは低くなります。サーバ負荷スコアが低いと、サーバがアプリケーションの優先サーバになる可能性が高くなります。

[Maximum Number of Users] : すべてのリソースの負荷は、サーバから取得した情報に基づいて計算されます。ただし、ユーザ負荷は例外です。ユーザ負荷は、現在ログインしているユーザの数(サーバから取得)を、この設定で指定した最大ユーザ数で割ることによって計算します。この数は、ターミナルサーバで処理できる同時セッションの最大数と同じ値に設定します。

[Log File Duration] : ZENTCAS サービスがログファイルの情報を削除するまでの日数を選択します。zencaslog.txt というログファイルが、サーバの c:\winnt\system32\deframe ディレクトリに格納されています。デフォルトは 3 日です。つまり、3 日ごとにログファイルの情報が削除されます。

[Load Refresh Rate] : この設定は、DeFrame サーバが Watchdog のプライマリサーバとして動作している場合のみ適用されます。ZENTCAS サービスが他の DeFrame サーバからの負荷情報を要求する頻度を選択します。デフォルトは 4 秒ごとです。

- 4 すべての設定をデフォルト設定にリセットする場合は、[Defaults] をクリックします。

デフォルト設定は、eDirectory ツリーのルートにある DEFAULT_REG オブジェクトに保存されます。デフォルト設定は変更できます。この変更内容は、デフォルト設定を使用しているすべてのターミナルサーバに反映されます。

- 5 [OK] をクリックして変更内容を保存します。

リソースの新しい重みは、30 秒後に使用できるようになります。新しい重みをすぐに使用する場合は、ZENTCAS サービスを再起動してください。

サーバ負荷計算

サーバ負荷スコアを計算するために、ZENTCAS サービスは次の計算式を使用します。

サーバ負荷スコア = (リソース 1 の負荷スコア) + ... + (リソース 5 の負荷スコア)

「リソース 1 の負荷スコア」から「リソース 5 の負荷スコア」は、メモリ、CPU 使用率、ユーザ、ページファイル、および仮想メモリに対して計算された負荷スコアを示します。リソースの負荷スコアを計算するには次の計算式が使用されます。

リソース負荷スコア = (100)(調整された重み)(使用されているリソース / リソース合計)

「(使用されているリソース / リソース合計)」の比率は、サーバから取得された値を使用して計算されます。ただし、ユーザリソースの比率は例外です(ログインしているユーザ数 / 許可されている最大ユーザ数)。この場合、許可されている最大ユーザ数の値は、[Load Configuration] ページの [Maximum Number of Users] 設定によって決まります。

リソースの調整された重みは、次の計算式で計算されます。

調整された重み = (リソースの重み) / (すべてのリソースの重みの合計)

各リソースには 0 から 100% までの重みが割り当てられるため、重みを調整する必要があります。重みを調整しないと、5 つすべてのリソースの重みの合計が 100% を超えてしまいます。したがって、各リソースの重みの値を内部的に調整して、リソースの重みの合計が 100% になるようにします。たとえば、デフォルトの重みを計算式に代入すると、次の調整された重みを得られます(合計は 100%)。

メモリ : $20 / (20+80+20+5+5) = .154$ (15.4%)

CPU 使用率 : $80 / (20+80+20+5+5) = .614$ (61.4%)

ユーザ : $20 / (20+80+20+5+5) = .154$ (15.4%)

ページファイル : $5 / (20+80+20+5+5) = .038$ (3.8%)

仮想メモリ : $5 / (20+80+20+5+5) = .038$ (3.8%)

これらの調整された重みと「(使用されているリソース / リソース合計)」の比率のサンプル値を使用すると、次のリソース負荷スコアが得られます。

メモリ負荷スコア : $(100) \times (.154) \times (.75) = 11.55$

CPU 使用率負荷スコア : $(100) \times (.614) \times (.27) = 16.58$

ユーザ負荷スコア : $(100) \times (.154) \times (.4) = 6.16$

ページファイル負荷スコア : $(100) \times (.038) \times (.72) = 2.74$

仮想メモリ負荷スコア : $(100) \times (.038) \times (.2) = .76$

これらのリソース負荷スコアをサーバ負荷スコアの計算式に代入すると、次の結果が得られます。

$11.55 + 16.58 + 6.16 + 2.74 + .76 = 37.79$

サーバ負荷スコアが 100 未満の場合は、サーバが負荷分散の対象となります。また、アプリケーションをホストしている他のサーバよりもサーバ負荷スコアが低いサーバは、アプリケーションの優先サーバになります。サーバ負荷スコアが 100 以上の場合は、サーバ負荷スコアが 100 未満になるまでサーバが負荷分散の対象から除外されます。

ZENTCAS サービスの負荷分散機能設定の変更

ZENTCAS サービスでの負荷分散の処理方法を指定するために、ZENTCAS サービスでは次の設定を含む複数の設定を行うことができます。

- ◆ サーバが負荷分散の対象から除外されるように ZENTCAS サービスの負荷分散スレッドを無効にします。
- ◆ プライマリサーバが稼動しているかどうかを ZENTCAS サービス(バックアップサーバとして稼動している場合)が確認する頻度を制御します。
- ◆ ZENTCAS サービス(プライマリサーバとして稼動している場合)が DeFrame サーバから負荷情報を要求する頻度を制御します。
- ◆ タイムアウトになる前に、DeFrame サーバから負荷情報を受け取るまで ZENTCAS サービス(プライマリサーバとして稼動している場合)が待機する時間を制御します。

これらの設定は、DeFrame サーバの Windows レジストリに保存されるため、各ターミナルサーバで変更する必要があります。これらの設定に関する詳細については、[111 ページの付録 A「ZENTCAS サービスの設定項目」](#)を参照してください。

9

切断されたセッションの管理

ユーザがターミナルサーバクライアントセッションを終了ではなく切断した場合は、セッションのステータスが [Active] から [Disconnected] に変更されます。ユーザは後に既存のセッションに再接続できます。

各 DeFrame™ サーバにインストールされている Novell® ZENworks™ Thin-Client Application Service (ZENTCAS Service) には、切断されたセッションを追跡および管理する機能が含まれます。デフォルトでは、切断されたセッションを追跡する ZENTCAS サービスの機能は有効になっています。切断されたセッションを追跡する ZENTCAS サービスの機能の説明と管理方法については、次の節を参照してください。

- ◆ 91 ページの「切断されたセッションを追跡する機能のしくみ」
- ◆ 92 ページの「切断されたセッションを追跡する ZENTCAS サービスの機能の設定を変更する」

切断されたセッションを追跡する機能のしくみ

Novell ZENworks Thin-Client Application Service (ZENTCAS サービス) は、新しく開始されたセッションの情報に一致するセッション情報 (ユーザ、アプリケーションなど) を持つ切断されたセッションを再び有効にするために、切断されたセッションを追跡します。新しく開始されたセッションは削除されます。必要に応じて、切断されたセッションを追跡し再び有効にすることによって、必要でない新しいセッションが開始されるのを防いだり、切断されたセッションの増加を抑制したり、セッションライセンスを節約したりできます。

ユーザがセッションを切断すると、DeFrame セッションモニタ (deshell.exe) が Novell eDirectory™ のユーザオブジェクトにセッション情報を記録します。同時に、ZENTCAS サービスは、ターミナルサーバの DeFrame サーバオブジェクトにその他のセッション情報を記録します。

約 10 秒ごとに、ZENTCAS サービスは、これら 2 つのオブジェクトに記録されたセッション情報をチェックし、その情報をサーバの現在のセッションと比較して、切断されたセッションがまだ存在しているかどうか、または eDirectory のセッション情報に一致する新しいセッションが開始されたかどうかを確認します。切断されたセッションが削除された場合 (リセットされた場合またはタイムアウトになった場合) は、ユーザオブジェクトおよび DeFrame サーバオブジェクトからセッション情報が削除されます。切断されたセッションの情報 (ユーザ、アプリケーションなど) に一致する新しいセッションが開始された場合は、新しい接続が削除され、切断されたセッションが再び有効になります。次に、切断されたセッションの情報がユーザオブジェクトおよび DeFrame サーバオブジェクトから削除されます。

切断されたセッションを追跡する ZENTCAS サービスの機能の設定を変更する

切断されたセッションの追跡方法を指定するために、ZENTCAS サービスでは次の設定を含む複数の設定を行うことができます。

- ◆ ZENTCAS サービスが切断されたセッションを追跡および管理しないように ZENTCAS サービスの切断されたセッションスレッドを無効にします。
- ◆ ZENTCAS サービスが eDirectory に記録されたセッションの情報をチェックし、その情報をサーバの現在のセッションと比較する頻度を制御します。

これらの設定は、DeFrame サーバの Windows レジストリに保存されるため、各ターミナルサーバで変更する必要があります。これらの設定に関する詳細については、[111 ページの付録 A「ZENTCAS サービスの設定項目」](#)を参照してください。

10 ZENTCAS サービスのログ機能の制御

Novell® ZENworks® Thin-Client Application Service (ZENTCAS Service) によってログファイルに出力される情報の大きさを制御できます。また、書式（デフォルトでは Unicode*）をマルチバイトの書式に変更することもできます。zentcaslog.txt というログファイルが c:\winnt\system32\deframe ディレクトリに作成されます。

ZENTCAS サービスのログ機能は、Windows レジストリの値に基づいて設定されます。ログ機能の設定に関する詳細については、111 ページの付録 A「ZENTCAS サービスの設定項目」を参照してください。

11

Novell iFolderによるファイル保存のセットアップ

Novell® iFolder® 1.x または 2.x を使用すると、ユーザはファイルをシンクライアントのセッションから 1 つまたは複数のネットワークストレージに保存することができます。DeFrame™ は、ユーザがアプリケーションを起動したときにネットワークストレージを利用可能な状態にし、ユーザがアプリケーションを終了したときにユーザのアクセスを削除します。

iFolder を使用できるように DeFrame をセットアップする方法については、次の節を参照してください。

- ◆ 95 ページの「Novell NetDrive クライアントのインストール」
- ◆ 95 ページの「DeFrame iFolder サーバオブジェクトの作成」
- ◆ 97 ページの「ユーザへの iFolder サーバの割り当て」
- ◆ 98 ページの「iFolder サーバにログインするために必要な情報をユーザに提供する」

Novell NetDrive クライアントのインストール

Novell iFolder には NetDrive クライアントが含まれます。NetDrive を使用すると、iFolder プロトコルを利用して iFolder サーバにネットワークドライブをマップすることができます。

iFolder クライアントが DeFrame ターミナルサーバにまだインストールされていない場合は、iFolder に付属するマニュアルまたは NetDrive の『*User's Guide*』の「[Installing NetDrive on a Terminal Server \(http://www.novell.com/documentation/lg/nw6p/netdrive/data/ahnavk6.html\)](http://www.novell.com/documentation/lg/nw6p/netdrive/data/ahnavk6.html)」を参照し、インストールします。NetDrive のインストール時に次のことに注意してください。

- ◆ iFolder ソフトウェアに含まれているバージョンの NetDrive を使用します。iFolder 1.x サーバにアクセスする場合は iFolder 2.x に含まれているバージョンの NetDrive を使用しません。または、iFolder 2.x サーバにアクセスする場合は iFolder 1x に含まれているバージョンの NetDrive を使用しません。
- ◆ ユーザが存在するすべてのコンテナが iFolder 検索コンテキストとして定義されていることを確認します。
- ◆ 異なる Novell eDirectory™ ツリーに格納されている iFolder サーバにアクセスする場合は、各ツリーでユーザアカウントが必要であり、ユーザコンテキストを含めるように各 iFolder サーバの検索コンテキストが設定されている必要があります。

DeFrame iFolder サーバオブジェクトの作成

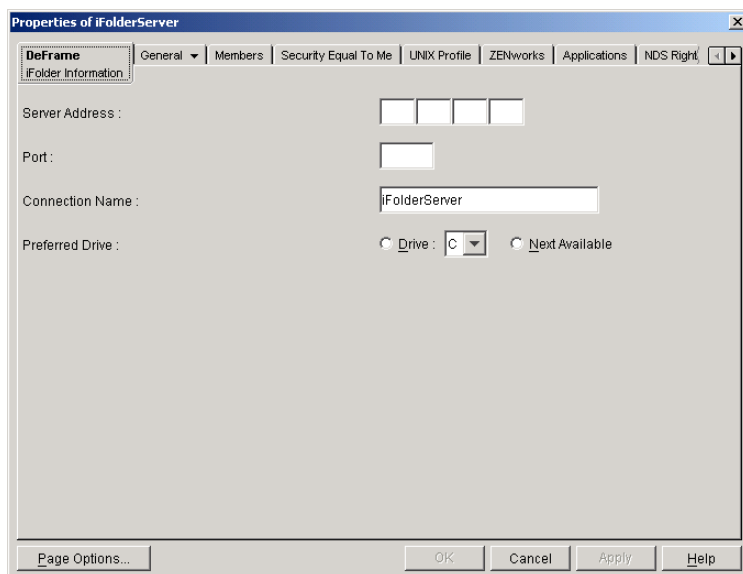
iFolder サーバにアクセスするために必要な情報を DeFrame に提供するには、eDirectory で DeFrame iFolder サーバオブジェクトとして iFolder サーバを定義します。この作業は、ユーザがアクセスする iFolder サーバごとに行う必要があります。

DeFrame iFolder サーバオブジェクトを作成するには、次の手順に従ってください。

- 1 ConsoleOne[®] で、DeFrame iFolder サーバオブジェクトを作成するコンテナを右クリックし、[New]、[Object] の順にクリックして [New Object] ダイアログボックスを表示します。

DeFrame iFolder サーバオブジェクトは、ツリーの任意のコンテナに作成できます。たとえば、DeFrame サーバオブジェクトを作成したのと同じコンテナに作成できます。

- 2 [Class] リストから [deframeIFolder] を選択し、[OK] をクリックして [Create iFolder Server Object] ダイアログボックスを表示します。
- 3 DeFrame サーバオブジェクトの名前を入力します。
コンテナ内で一意であれば、どんな名前でも指定できます。
- 4 [Define Additional Properties] を選択し、[OK] をクリックして DeFrame iFolder サーバオブジェクトを作成し、DeFrame iFolder サーバオブジェクトのプロパティページを表示します。



- 5 次のフィールドに情報を入力します。

[Server Address] : iFolder サーバの IP アドレスを入力します。

[Port] : iFolder サーバに割り当てられたポート番号を入力します。iFolder のインストールプログラムではデフォルトで 80 に設定されます。iFolder サーバが使用しているポート番号がわからない場合は、iFolder Server Management Console を使用して確認します。

[Connection Name] : iFolder サーバ接続に使用する名前を入力します。この名前は、iFolder サーバに対するユーザのドライブマッピングを NetDrive が作成するときに使用されます。接続名を入力しないと、DeFrame iFolder サーバオブジェクト名が使用されます。

[Preferred Drive] : ユーザが iFolder サーバに接続するときに、NetDrive が iFolder サーバに対してドライブをマップします ([Connection Name] フィールドに指定された名前を使用)。iFolder サーバにマップするドライブを選択するか、次に利用可能なドライブを iFolder によってマップする場合は、[Next Available] を選択します。すでに使用されている特定のドライブを選択した場合、iFolder は次に利用可能なドライブをマップします。ドライブは、次の構文を使用してマップします。

connection_name on ユ NetDrive-username ユ (drive_letter:)

- 6 [OK] をクリックして変更内容を保存します。
- 7 新しい iFolder サーバに対して DeFrame iFolder サーバオブジェクトを作成するには、以上の手順を繰り返します。

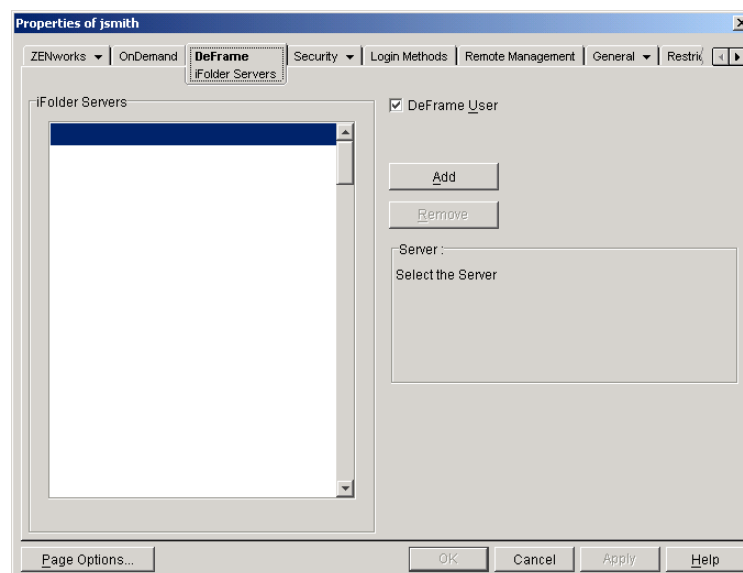
ユーザへの iFolder サーバの割り当て

DeFrame でユーザが iFolder サーバにログインできるようにするには、iFolder サーバをユーザに割り当てる必要があります。この作業を行うには、次の複数の方法があります。

- ◆ ConsoleOne を使用して、iFolder サーバを DeFrame ユーザに手動で割り当てることができます。各ユーザは、別々に設定する必要があります。以下の手順を参照してください。
- ◆ ZENworks 6 Web Self-Service を使用している場合は、OnDemand Services Launch Item ガジェットを設定して iFolder サーバを定義することができます。詳細については、『ZENworks 6 Web Self-Service』ガイドの「[Gadget Configuration Settings \(http://www.novell.com/documentation/japanese/zenworks6/ondemand/data/af5r914.html#af5r914\)](http://www.novell.com/documentation/japanese/zenworks6/ondemand/data/af5r914.html#af5r914)」を参照してください。

ConsoleOne を使用して iFolder サーバを DeFrame ユーザに割り当てるには、次の手順に従ってください。

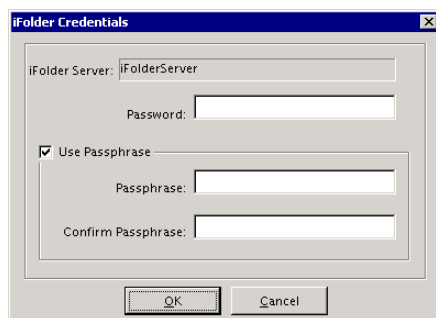
- 1 ConsoleOne で、ユーザオブジェクトを右クリックし、[Properties] をクリックしてユーザオブジェクトのプロパティページを表示します。
- 2 [DeFrame] タブ、次に [iFolder Servers] をクリックして、[iFolder Servers] ページを表示します。



- 3 [Add] をクリックし、DeFrame iFolder サーバオブジェクトを参照および選択します。次に、[OK] をクリックして選択したオブジェクトを [iFolder Servers] リストに追加します。
- 4 **ステップ 3** を繰り返して、さらに iFolder サーバを追加します。
- 5 [OK] をクリックして変更内容を保存します。

iFolder サーバにログインするために必要な情報をユーザに提供する

ユーザに iFolder サーバが割り当てられると、ユーザがシンクライアントアプリケーションを初めて起動したときに、各 iFolder サーバに関する次のダイアログボックスが表示されます。



ユーザは次のフィールドに情報を入力する必要があります。

[Password] : iFolder サーバが存在する eDirectory ツリーのユーザパスワードを入力します。

[Use PassPhrase] : このオプションは、iFolder サーバに保存されたファイルを暗号化する場合に選択します。オプションを選択すると、ユーザはパスフレーズを入力し、確認のために再入力する必要があります。ユーザのパスフレーズは、ユーザのファイルを暗号化および解読するために使用されるキーの一部になります。ユーザが iFolder サーバに対するパスフレーズをすでに使用している場合（ユーザが iFolder クライアントを使用して、シンクライアントアプリケーション以外に iFolder サーバにアクセスしている場合）、使用しているパスフレーズをこのフィールドに指定する必要があります。

これらのフィールドに指定する情報の説明をユーザに示し、ユーザがログインする iFolder サーバごとにユーザがこの情報を入力するように求めることができます。ユーザは、シンクライアントアプリケーションを初めて起動したとき、eDirectory パスワードが変更されたとき、および iFolder サーバ接続を確立できなかったときにこの情報を入力するように求められます。

12

Citrix Secure Gateway によるアプリケーションアクセスのセットアップ

Citrix Secure Gateway を使用して、Citrix MetaFrame サーバとファイアウォールの外にある ICA クライアントワークステーション間の接続を確立するには、Citrix Secure Gateway をサポートするように DeFrame™ アプリケーションを設定する必要があります。詳細については、次の節を参照してください。

- ◆ 99 ページの「Terminal Server のパブリックアドレスの設定」
- ◆ 100 ページの「Citrix Secure Gateway を使用するようにアプリケーションを設定する」

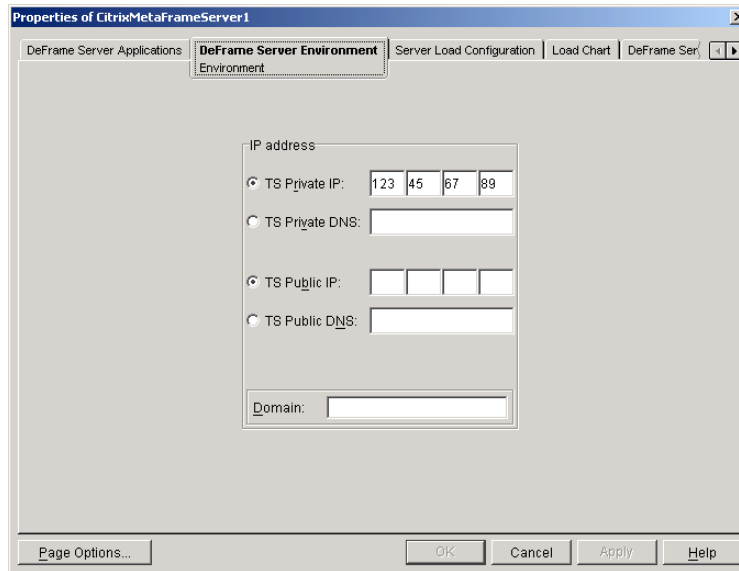
重要： DeFrame は Citrix Secure Gateway リレーモードのみサポートします。リレーモードでは、Citrix Secure Gateway ではなく MetaFrame サーバによって認証が処理されます。DeFrame では MetaFrame サーバで認証を行う必要があります。Citrix Secure Gateway をリレーモードでインストールおよび使用する詳細については、Citrix Secure Gateway のマニュアルを参照してください。

Terminal Server のパブリックアドレスの設定

デフォルトでは、Novell® eDirectory™ の DeFrame サーバオブジェクトには、DeFrame サーバのプライベート（内部）IP アドレスまたはプライベート DNS 名が設定されています。Citrix Secure Gateway がプライベートネットワーク内に設置されていない場合（たとえば、ファイアウォールの外のパブリックネットワーク、または内部ファイアウォールの外の非武装地帯 (DMZ) に設置されている場合）は、各 DeFrame サーバオブジェクトに DeFrame サーバのパブリックアドレスを設定する必要があります。

パブリックアドレスとして、Citrix Secure Gateway が DeFrame サーバに接続するために使用する IP アドレスまたは DNS 名を指定します。パブリックアドレスは、ICA クライアントワークステーションが Citrix Secure Gateway に接続するときに Citrix Secure Gateway に渡されます。その結果、Citrix Secure Gateway はターミナルサーバに接続できるようになります。ターミナルサーバへの接続は、DeFrame サーバのアドレスが Citrix Secure Gateway の観点から正しい場合のみ確立されます。

- 1 ConsoleOne® で、ターミナルサーバの DeFrame サーバオブジェクトを右クリックし、[Properties] をクリックします。
- 2 [DeFrame Server Environment] タブをクリックして [Environment] ページを表示します。

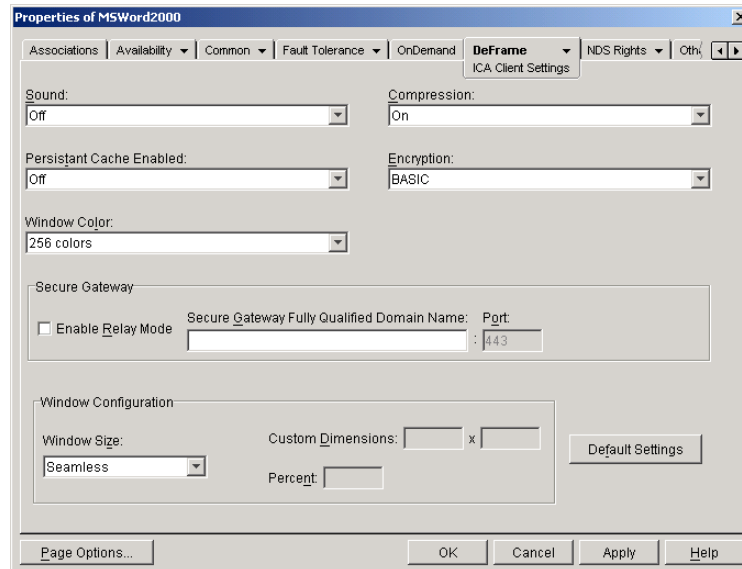


- 3 パブリック IP アドレスまたはパブリック DNS 名を入力します。
- 4 [OK] をクリックして変更内容を保存します。
- 5 各ターミナルサーバに対して以上の手順を繰り返します。

Citrix Secure Gateway を使用するようにアプリケーションを設定する

デフォルトでは、DeFrame シンククライアントアプリケーションは Citrix Secure Gateway で使用するように設定されていません。アプリケーションを設定するには、アプリケーションが Citrix Secure Gateway を使用できるようにし、Citrix Secure Gateway の完全なドメイン名およびポート番号を指定し、次にサーバのプライベートアドレスではなくパブリックアドレスを使用するようにアプリケーションを設定する必要があります。

- 1 ConsoleOne で、DeFrame シンククライアントアプリケーションのアプリケーションオブジェクトを右クリックし、[Properties] をクリックします。
- 2 [DeFrame] > [CA Client Settings] の順にクリックします。



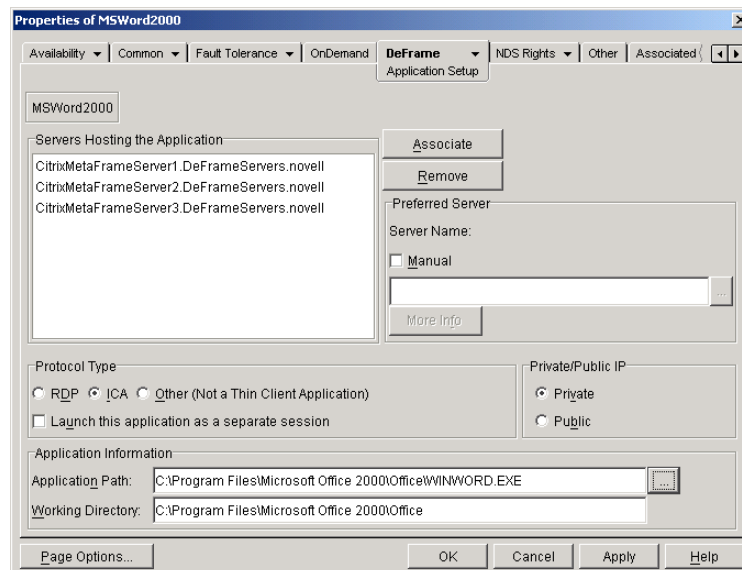
3 Citrix Secure Gateway に関する次の設定を行います。

[Enable Relay Mode] : このオプションは、Citrix Secure Gateway の使用を有効にする場合にオンにします。この設定を有効にすると、ユーザがアプリケーションを起動したときに、ICA クライアントと DeFrame ターミナルサーバとの接続が Citrix Secure Gateway によってリレーされます。この設定を無効にすると、ICA クライアントは DeFrame ターミナルサーバに直接接続しようとします。

[Secure Gateway Fully Qualified Domain Name] : Citrix Secure Gateway の完全なドメイン名 (FQDN) を入力します (たとえば、csg.novell.com)。

[Port] : Secure Gateway が SSL 接続を行うためにリッスンするポート番号を入力します。SSL の標準のポート番号は 443 です。

4 [DeFrame] タブ > [Application Setup] の順にクリックします。



Citrix Secure Gateway がプライベートネットワーク内に設置されていない場合（たとえば、ファイアウォールの外のパブリックネットワーク、または内部ファイアウォールの外の非武装地帯 (DMZ) に設置されている場合）は、[Servers Hosting the Application] リストにある各サーバにパブリックアドレスが設定されている必要があります（前の「**Terminal Server のパブリックアドレスの設定**」を参照）。このページで、[Private/Public IP] オプションが [Public] に設定されていることを確認します。これにより、ユーザがアプリケーションを起動したときにサーバのパブリックアドレスが使用されます。[Public] を選択しないと、サーバのプライベートアドレスが使用されます。

- 5 Citrix Secure Gateway で、アプリケーションのサーバに接続するためにサーバのパブリックアドレスを使用する必要がある場合は、[Private/Public IP] ボックスの [Public] オプションを選択します。

重要：パブリックアドレスおよびプライベートアドレスの両方を使用してアプリケーションにアクセスするには、異なるアプリケーションオブジェクトを作成し、一方のオブジェクトをパブリック、もう一方のオブジェクトをプライベートとして設定する必要があります。たとえば、Microsoft Word（ローカル）アプリケーションオブジェクトと Microsoft Word（リモート）アプリケーションオブジェクトを作成できます。ユーザは、自分がいる場所に応じて、適切なアプリケーションを起動する必要があります。

- 6 [OK] をクリックして設定内容を保存します。

13

ファイアウォールを経由するアプリケーションアクセスのセットアップ

ネットワークファイアウォールを経由してシンクライアントアプリケーションにアクセスできるようにする場合は、次の節に示された作業を行ってください。

- ◆ 103 ページの「ファイアウォールのポートを開く」
- ◆ 103 ページの「ネットワークアドレス変換の設定」
- ◆ 104 ページの「eDirectory でターミナルサーバのパブリックアドレスを定義する」
- ◆ 105 ページの「パブリックアプリケーションとしてアプリケーションを定義する」

ファイアウォールのポートを開く

TCP/IP パケットを送受信するために、次のファイアウォールのポートを開きます。

- ◆ **80 および 443:** これらの標準の HTTP および HTTPS ポートを使用すると、ユーザは Novell® ZENworks® Middle Tier Server (Novell Application Launcher™ からシンクライアントアプリケーションを起動する場合) または ZENworks Web Self-Service ポータル (OnDemand Services Launch Item ガジェットからシンクライアントアプリケーションを起動する場合) にログインできます。
- ◆ **3389:** RDP クライアントおよび Windows ターミナルサーバは、このポートを使用してパケットを送受信します。これは、標準の RDP ポートです。標準以外の RDP ポートを使用している場合は、そのポートを開きます。
- ◆ **1494 (受信のみ):** ICA クライアントは、このポートを使用して Citrix MetaFrame サーバにパケットを送信します。これは、標準の ICA ポートです。標準以外の ICA ポートを使用している場合は、そのポートを開きます。Citrix のファイアウォールの要件に関する詳細については、Citrix のマニュアルを参照してください。
- ◆ **1023 以上 (送信のみ):** Citrix MetaFrame サーバは、これらのポートを使用して ICA クライアントにパケットを送信します。Citrix のファイアウォールの要件に関する詳細については、Citrix のマニュアルを参照してください。

ネットワークアドレス変換の設定

ZfD Middle Tier Server、ZENworks Web Self-Service ポータルサーバ、および DeFrame™ ターミナルサーバがプライベート (内部) アドレスを使用している場合は、ファイアウォールのパブリック (外部) アドレスがこれらのプライベートアドレスにマップされていることを確認してください。

パブリックアドレスを正しいターミナルサーバのプライベートアドレスに確実に変換するには、1対1マッピングを使用して各パブリックアドレスを各プライベートアドレスにマップすることをお勧めします。1対多マッピングを使用して、1つのパブリックアドレスを複数のプライベートアドレスにマップする場合は、次のことに注意してください。

- ◆ **アプリケーション構成:** 1つのパブリックアドレスを複数のターミナルサーバのプライベートアドレスにマップする場合は、各ターミナルサーバのアプリケーション構成を同じにします。この結果、要求されたアプリケーションを含むターミナルサーバが必ずアクセスされることになります。

アプリケーション構成を同じにする理由を、簡単な例で説明します。アプリケーションが1つのターミナルサーバのみにホストされているとします。ユーザがアプリケーションを起動すると、ユーザのRDPクライアントまたはICAクライアントはアプリケーションのターミナルサーバに割り当てられたパブリックアドレスを使用します。パブリックアドレスは、アプリケーションをホストしていない他のターミナルサーバにもマップされています。ファイアウォールは、ラウンドロビン方式または事前に設定した方法に基づいてパブリックアドレスを変換し、アプリケーションをホストしていないいずれかのターミナルサーバにユーザを割り当てます。この場合、アプリケーションは起動できません。

この問題を回避するには、すべてのターミナルサーバですべてのアプリケーションをホストします。または、ターミナルサーバをファームに分割し、ファーム内の各サーバに同じアプリケーションをホストして、ファーム内の各サーバが同じパブリックアドレスに変換されるようにします。

- ◆ **負荷分散:** ファイアウォールのプロキシサーバでは事前に設定された独自の 방법으로プライベートアドレスに変換するため、1対多マッピングを使用している場合、DeFrameの負荷分散機能はアプリケーションを実行するために使用するターミナルサーバを最終的に決定することができません。このような場合でも、Novell ZENworks Thin-Client Application Service (ZENTCAS サービス) はアプリケーションの優先サーバになるターミナルサーバを決定し、この優先サーバのパブリックアドレスを使用します。ただし、プロキシサーバがこのパブリックアドレスを同じ優先サーバに変換するとは限りません。
- ◆ **切断されたセッションの追跡:** 1対多マッピングを使用する場合は、切断したセッションにユーザが再接続したときに、同じターミナルサーバが使用されるとは限りません(負荷分散と同じ理由)。ユーザが別のターミナルサーバに接続された場合は、新しいセッションが開始されます。ユーザが同じターミナルサーバに接続され、ユーザの切断されたセッションがリセットまたはタイムアウト状態でない場合は、同じセッションが使用され、新しいセッションは作成されません。切断されたセッションがターミナルサーバに蓄積する問題を解決するには、切断されたセッションを許可しないようにします。

eDirectory でターミナルサーバのパブリックアドレスを定義する

ターミナルサーバのプライベートアドレスとパブリックアドレスをマップするようにファイアウォールをセットアップした場合は、Novell eDirectory™ でパブリックアドレスをターミナルサーバの DeFrame サーバオブジェクトに追加する必要があります。

- 1 ConsoleOne® で、ターミナルサーバの DeFrame サーバオブジェクトを右クリックし、[Properties] をクリックします。
- 2 [DeFrame Server Environment] タブをクリックして [Environment] ページを表示します。

- 3 パブリック IP アドレスまたはパブリック DNS 名を入力します。
- 4 [OK] をクリックして変更内容を保存します。
- 5 各ターミナルサーバに対して以上の手順を繰り返します。

パブリックアプリケーションとしてアプリケーションを定義する

ユーザがアプリケーションを起動したときに、DeFrame クライアントは、ターミナルサーバのプライベートアドレスを使用するのか、またはパブリックアドレスを使用するのかをわかっている必要があります。ターミナルサーバのパブリックアドレスを使用するには、アプリケーションをパブリックアプリケーションとして定義する必要があります。

重要：パブリックアドレスおよびプライベートアドレスの両方を使用してアプリケーションにアクセスするには、異なるアプリケーションオブジェクトを作成し、一方のオブジェクトをパブリック、もう一方のオブジェクトをプライベートとして設定する必要があります。たとえば、Microsoft Word（ローカル）アプリケーションオブジェクトと Microsoft Word（リモート）アプリケーションオブジェクトを作成できます。ユーザは、自分がいる場所に応じて、適切なアプリケーションを起動する必要があります。

アプリケーションをパブリックアプリケーションとして設定するには、次の手順に従ってください。

- 1 ConsoleOne で、アプリケーションオブジェクトを右クリックし、[Properties] をクリックします。
- 2 [DeFrame] タブ、次に [Application Setup] をクリックします。
- 3 [Private/Public IP] ボックスで [Public] を選択します。
- 4 [OK] をクリックして変更内容を保存します。

14

ターミナルサーバからの DeFrame の削除

ターミナルサーバのアプリケーションを管理および配布するために Novell® DeFrame™ を使用しなくなった場合は、ターミナルサーバから DeFrame を削除できます。削除するには、ファイルをアンインストールし、Novell eDirectory™ から DeFrame サーバオブジェクトを削除する必要があります。詳細については、次の節を参照してください。

- ◆ 107 ページの「DeFrame ファイルのアンインストール」
- ◆ 107 ページの「DeFrame サーバオブジェクトの削除」

DeFrame ファイルのアンインストール

DeFrame ファイルは、ZENworks® for Desktops Management Agent の一部としてインストールされます。DeFrame ファイルを削除するには、ワークステーションから Management Agent を削除します。

- 1 ターミナルサーバで、[アプリケーションの追加と削除] ダイアログボックスを開きます（[スタート] メニュー > [設定] > [コントロールパネル] > [アプリケーションの追加と削除] の順にクリック）。
- 2 [現在インストールされているプログラム] リストで、[ZENworks for Desktops Management Agent] を選択し、[変更と削除] をクリックして、表示される指示に従います。

DeFrame サーバオブジェクトの削除

ターミナルサーバの DeFrame サーバオブジェクトを eDirectory から削除すると、すべてのアプリケーションオブジェクトと DeFrame サーバオブジェクトの関連付けが解除されます。

- 1 ConsoleOne® で、ターミナルサーバの DeFrame サーバオブジェクトを右クリックし、[Delete NDS Object] をクリックします。
- 2 [Yes] をクリックして削除を確認します。



付録

111 ページの付録 A「ZENTCAS サービスの設定項目」

A

ZENTCAS サービスの設定項目

ZENTCAS サービスでは、次の設定を含む Watchdog の詳細な設定を行うことができます。
ZENTCAS の設定は、ターミナルサーバの Windows レジストリ の次のキーに保存されます。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Services¥ZenTCAS¥Config

次の表では個々の設定（値）について説明しています。

値	データ タイプ	デフォ ルト値	再キャッ シュ	説明
SettingsRecacheDelaySecs	DWORD	20	Yes	特定のレジストリ設定を ZENTCAS サービスが再び参照する頻度を指定します。ZENTCAS サービスが参照するレジストリ設定は、「再キャッシュ」列の「Yes」エントリによって示されます。
DWThreadSleepMillis	DWORD	20	No	ZENTCAS サービスのメインスレッドの無効状態（スリープ状態）が続く時間を制御します。
DSThreadSleepMillis	DWORD	300	No	ZENTCAS サービスのディレクトリサービススレッドの無効状態（スリープ状態）が続く時間を制御します。
DSTThreadSleepMillis	DWORD	300	No	ZENTCAS サービスの、切断されたセッションを追跡する機能 (Disconnected Session Tracking) のスレッドの無効状態（スリープ状態）が続く時間を制御します。
PSThreadSleepMillis	DWORD	300	No	ZENTCAS サービスのプライマリ Watchdog サービススレッドの無効状態（スリープ状態）が続く時間を制御します。
LogFileOutputFilter	DWORD	0	Yes	ログファイルに出力する情報の種類を指定します。有効な設定値は次のとおりです。 0 = エラー 1 = エラーおよび警告 2 = すべての情報 zentcaslog.txt というログファイルが c:\winnt\system32\deframe ディレクトリに格納されています。

値	データ タイプ	デフォ ルト値	再キャッ シュ	説明
LogFileConvertUni	DWORD	0	Yes	<p>デフォルト値 (0) では、ZENTCAS サービスが Unicode 形式のログファイル生成します。ANSI 形式のテキストファイルを生成する場合は 1 に変更します。</p> <p>0 = Unicode 形式を選択 1 = ANSI 形式を選択</p>
LogGetLastError	DWORD	0	Yes	<p>デフォルト値 (0) では、ZENTCAS サービスのエラーコードとメッセージのみ出力します。Windows のエラー情報も出力する場合は 1 に変更します。</p> <p>0 = ZENTCAS サービスのエラーコードとメッセージのみ出力 1 = Windows エラー情報も出力</p>
AliveCheckDelaySecs	DWORD	30	Yes	<p>プライマリ Watchdog サーバが稼動しているかどうかを ZENTCAS サービス（バックアップの Watchdog サーバとして稼動している場合）が確認する頻度を指定します。</p>
AliveCheckTimeoutSecs	DWORD	10	Yes	<p>プライマリ Watchdog サーバが稼動チェックに応答するまで ZENTCAS サービス（バックアップの Watchdog サーバとして稼動している場合）が待機する時間を指定します。プライマリ Watchdog サーバが、指定した時間内に応答しない場合は、バックアップサーバがプライマリサーバに切り替わります。</p>
DSRecacheDelaySecs	DWORD	30	Yes	<p>情報を更新するために ZENTCAS サービスが eDirectory を参照する頻度を指定します。ZENTCAS サービスがプライマリ Watchdog サーバである場合、ZENTCAS サービスは、割り当てられたアプリケーションのリストを更新するために Novell® eDirectory™ を参照します。ZENTCAS サービスがプライマリ Watchdog サーバでない場合、ZENTCAS サービスは、プライマリまたはバックアップのステータスが割り当てられていないかどうかを確認するために eDirectory を参照します。</p>

値	データ タイプ	デフォ ルト値	再キャッ シュ	説明
LoadRequestDelaySecs	DWORD	4	Yes	<p>ZENTCAS サービス（プライマリ Watchdog サーバとして稼動している場合）が DeFrame™ サーバから負荷情報を要求する頻度を指定します。</p> <p>注：この設定は ConsoleOne^{CM} で変更できます（DeFrame サーバオブジェクト > [Server Load Configuration] タブ > [Load Config] ページ > [Load Refresh Rate] フィールドの順に選択）。</p>
LoadRequestTimeoutSecs	DWORD	10	Yes	<p>DeFrame サーバがサーバ負荷情報を返すまで ZENTCAS サービス（プライマリ Watchdog サーバとして稼動している場合）が待機する時間を指定します。DeFrame サーバの応答が指定した時間内に返されない場合は、DeFrame サーバの以前の負荷情報が使用されます。</p>
PacketSendTimeoutMillis	DWORD	100	Yes	<p>ソケットまたは IPC を経由してパケットが正常に送信されるまで ZENTCAS サービスが待機する時間を指定します。</p>
PacketProcessTimeoutMillis	DWORD	100	Yes	<p>データの受信を待っているソケットまたは IPC を ZENTCAS サービスが保持する時間を指定します。</p>
UseDisconnectedSessionTracker	DWORD	1	Yes	<p>切断されたセッションを追跡するサーバの機能を有効または無効にします。有効な設定値は次のとおりです。</p> <p>0 = 無効 1 = 有効</p>
DSTSynchronizeSecs	DWORD	10	Yes	<p>ZENTCAS サービスの、切断されたセッションを追跡する機能（Disconnected Session Tracking）のスレッドが、セッションを同期化（可能な場合）するために eDirectory とサーバセッションをチェックする頻度を制御します。</p>
UseLoadBalancing	DWORD	1	Yes	<p>DeFrame サーバの負荷分散機能を有効または無効にします。有効な設定値は次のとおりです。</p> <p>0 = 無効 1 = 有効</p>

値	データタイプ	デフォルト値	再キャッシュ	説明
UseMaxUsersAsLimit	DWORD	0	Yes	<p>ZENTCAS サービスが、DeFrame サーバの負荷の値に関わらず、DeFrame サーバの [Maximum Number of Users Setting] (ConsoleOne>DeFrame サーバオブジェクト > [Server Load Configuration] タブ > [Load Config] ページの順に選択) の値を、サーバの絶対最大ユーザ数として使用するように指定します。最大ユーザ数に到達すると、DeFrame サーバの負荷の値が非常に大きくなり、DeFrame サーバは優先サーバとして選択されなくなります。有効な設定値は次のとおりです。</p> <p>0 = 無効 1 = 有効</p>